Panasonic



パーソナルコンピューター
取扱説明書

品番 CF-B5FR

Let's note

2000

活用編

便利・プライバシー保護・通信・モバイル・拡張

説明書の構成

取扱説明書

セットアップ編

コンピューターを使うための準備作業をするときに。また、初めてのかたを対象に、Windows（ウィンドウズ）の基本操作を、具体例を通して説明しています。

活用編（本書）

安全上のご注意など、取り扱いについての説明に始まり、便利な機能やプライベートキーの使いかた、通信のしかた、省電力機能、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

オンラインマニュアル

画面上で参照できるマニュアルです。
「オンラインマニュアル」の見かたについては、取扱説明書『活用編』（本書86ページ）をご覧ください。

困ったときのQ&A

本機が思ったように動かないなど困ったときの対処方法をQ&A方式で説明しています。

パソコン・サポートとつきあう方法

初めてのかたを対象に、お客様のご相談窓口を上手に利用する方法や、コンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。
（編集：社団法人 日本電子工業振興協会）

コマンド一覧

次のコマンド一覧を用意しています。ATコマンドを使って通信する場合にご利用ください。
・内蔵モデムコマンド一覧
・ワイヤレスコムポートコマンド一覧

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
・取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

コミュニケーション

モバイル

拡張

本書の読みかた

本書の表記上の約束

- キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。
  （例） N み は N や み と表記します。
- あるキーを押しながら、別のキーを押すような操作の説明は、次のように「＋」を使って表記します。
  （例） Fn ＋ F6
- 「スタート」→[シャットダウン]などは、[スタート]をクリックした後、[シャットダウン]をクリックすることを意味します。
  （内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインター（矢印）を置くだけでいい場合もあります。）
- 本文中の画面例は、一部実際と異なる場合があります。

ご使用前に

「安全上のご注意」は、必ずご覧ください。

本機をご使用になる前に、知っておいていただきたい「安全上のご注意」や「使用上のお願い」について説明しています。また、「各部の名称と働き」についても説明しています。

もくじ

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

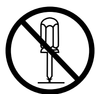
⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

本機を改造しない また、本書に記載のない方法で分解しない



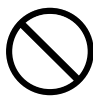
分解禁止

高電圧に注意
本機を分解・改造しない

[本体に表示した事項]

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や間違った方法での分解は火災の原因にもなります。

上に水などの入った容器や金属物を置かない



禁止

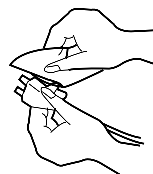


水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

- 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

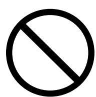




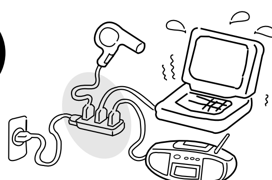
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
  長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100V 以外での使用はしない



禁止

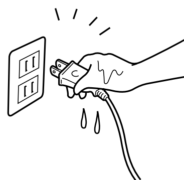


たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



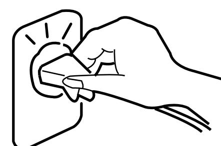
ぬれ手禁止



感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



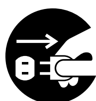


差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く



電源プラグを抜く

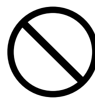


・本体が破損した
・本体内に異物が入った　・異臭がする
・煙が出ている　　　　　・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

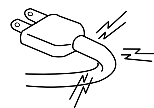
● 異常が起きたらすぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

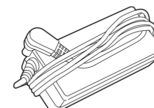
電源コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）



禁止



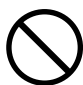


傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

⚠注意

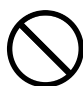
不安定な場所に置かない



禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない



禁止

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良等により火災・感電につながることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない



禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

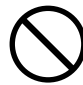
本機の上に重いものを置かない



禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

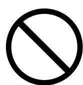
通風孔をふさがない



禁止

内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

電源プラグを接続したまま移動しない



禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

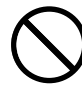
● 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

1時間ごとに10～15分間の休憩をとる



長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない



禁止

火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは、プラグ部分を持って抜く



電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

必ず指定のＡＣアダプターを使用する



指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

長時間直接触れて使用しない



禁止

本機やACアダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけど※の原因になります。

※低温やけどについて
体温より少し高い温度のものでも、皮膚の同じ個所に、長時間、直接触れていると、低温やけどを起こすおそれがあります。

使用上のお願い

・お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
・本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
・お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。また、電源が入っている状態でコンピューターを持ち運ばない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。
●Windows*やアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ ）の点灯中は、電源を切らない。
●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・不本意なデータ更新・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。
●プライベートキーやセキュリティ機能を利用し、データを保護する。（→20、81ページ）

*正式名称は、
Microsoft® Windows®2000 Professional 日本語版です。
本書ではWindowsまたはWindows 2000と表記します。

コンピューターウィルス

●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
・コンピューターを起動するとき
・データを入手したとき
フロッピーディスクなどの外部メディアやネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

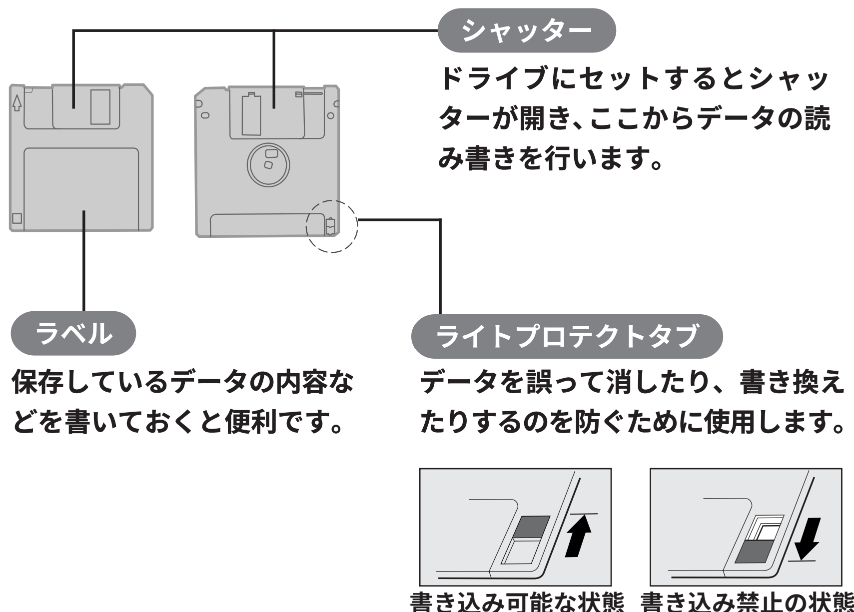
フロッピーディスクのデータ保護

●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたり、フロッピーディスクドライブを取り外したりしない。
フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。

●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。

●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
重要なデータを保存している場合におすすめします。
これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。

●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。
・シャッターを手で開けない
・磁気を帯びたものを近づけない
・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
・ラベルを重ねて貼らない



◀フロッピーディスクを使用する場合は、USB接続のフロッピーディスクドライブ（付属）を使用してください。

磁気について

本機はLCDパネルのラッチ部分に磁気部品を内蔵しています。
この部分に定期券などの磁気カード類を近づけないでください。
磁気カード類に記録されている内容が消えたりすることがあります。

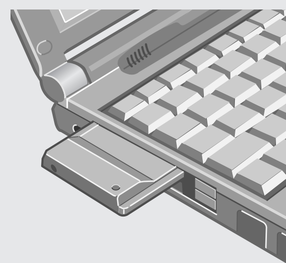
使用上のお願い

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い

●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。
●カラー液晶ディスプレイは精度の高い技術で製造されていますが、ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができることがあります。これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

持ち運ぶとき

●操作を終了して、電源が切れた状態で持ち運んでください。（HDDアクセスランプ（ ）の点灯中は持ち運ばないでください。）
●接続しているケーブルや本体から突き出したPCカード（→右図）は取り外してください。
●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。
●落としたり、机の角など固い物にぶつけないようにしてください。
●航空機を利用する際には、破損・盗難等を避けるために手荷物としてお持ちください。また機内での使用については、航空会社の指示に従ってください。



使用・保管

●適した場所
・平らで落下の恐れがない場所
・使用時の温度：5℃～35℃
湿度：30 %RH～80 %RH（結露なきこと）
保管時の温度：-20℃～60℃
湿度：30 %RH～90 %RH（結露なきこと）
●適さない場所（故障の原因になります）
次のような場所では、使用・保管しないでください：
・直射日光があたる場所
・テレビ、ラジオ、無線機や強い磁界を発生する装置の近く
画像の乱れや雑音の原因になることがあります。
・極端に高温または低音になる場所
また、熱に弱いものを近づけないでください。使用中、本体の温度が上がることがあります。

オンラインサービス機能について

本機に導入されているオンラインサービス（プロバイダーへのオンラインによる入会登録機能など）は、電話番号などの変更に対応していない場合があります。
ご利用になるアクセスポイントの局番などが変更になった場合の対応については、各オンラインサービスのご相談窓口にお問い合わせください。

お手入れのしかた

●ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
●ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。
中性の台所用洗剤以外の洗剤（弱アルカリ性洗剤など）を使用すると、塗装がはげるなど、塗装面に影響を与えることがあります。

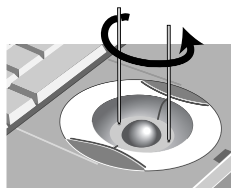


●トラックボール
画面上でポインター（矢印）が思い通りに動かない場合、トラックボールにゴミやほこりが付いていることがあります。トラックボールのクリーニングを行ってください。

①本体の電源を切る
②ACアダプターを抜き、バッテリーパックを取り外す
③カバーを取り外す
ボールペンやゼムクリップの先端など先のとがったものをカバー上の穴に差し込む。



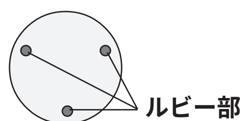
先のとがったものが、穴から抜けてカバーを傷つけないように注意して、カバーを半時計回りに回す。





カバーが少し浮き上がったら、そのままカバーをまっすぐ持ち上げて本体から取り外す。

④トラックボールを取り外す
本体を傾けてトラックボールを取り外す。
⑤汚れを拭き取る
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、トラックボールと本体側のルビー部の汚れをやさしく拭き取る。



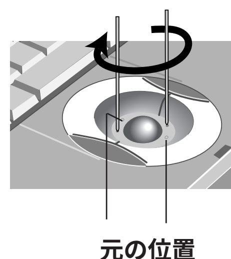
⑥トラックボールを入れる
⑦カバーを戻す
カバーを図のような位置にはめ込む。（本体から浮き上がっていないことを確認してください。）



先のとがったものを溝に差し込んでカバーを時計回りに回す。



「カチッ」と音がして、溝がそれぞれ元の位置にきていることを確認する。



お願い

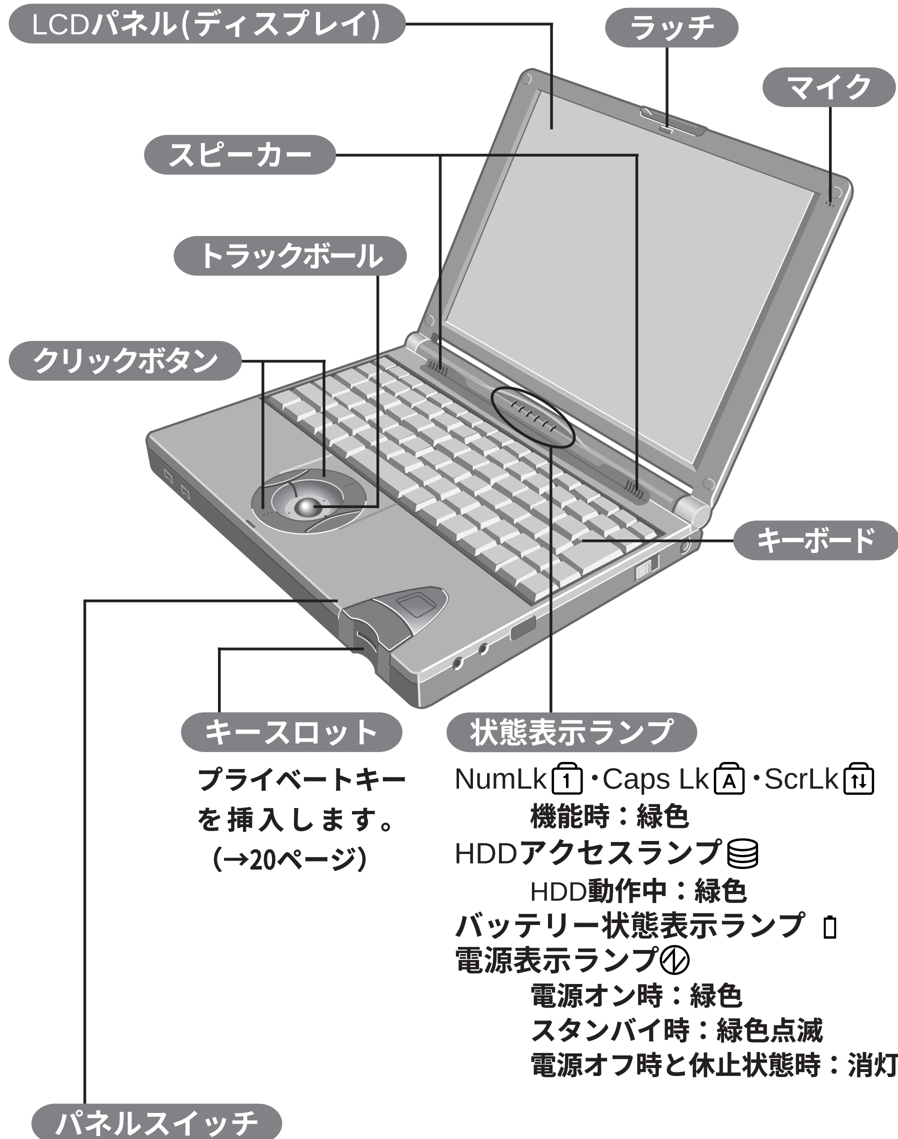
- ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。塗装がはげるなど、塗装面に影響を与えることがあります。また、市販のクリーナーや化粧品の中にも、塗装面に影響を与える成分が含まれていることがあります。
- 水や洗剤を直接かけたり、スプレーで噴きかけたりしないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

お願い

- カバーを紛失しないようにしてください。作業は丁寧に行ってください。カバーは塗装されていますので引っかいたりすると塗装に傷がつきます。
- 決して本体内部に触れたり異物を入れたりしないで下さい。故障の原因になります。

各部の名称と働き

前面



キースロット

プライベートキーを挿入します。（→20ページ）

状態表示ランプ

NumLk[1]・Caps Lk[A]・ScrLk[⇅]
　機能時：緑色
HDDアクセスランプ
　HDD動作中：緑色
バッテリー状態表示ランプ
電源表示ランプ
　電源オン時：緑色
　スタンバイ時：緑色点滅
　電源オフ時と休止状態時：消灯

パネルスイッチ

パネルスイッチは本体内部にあり、磁気により反応します。
<Windows上での動作>
LCDパネルを閉じると、「電源オプション」（→56ページ）の「詳細」の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定に従い、以下のように動作します。

なし	：LCDの電源が切れる
スタンバイ	：スタンバイ状態に入る（→18ページ）
休止状態	：休止状態に入る（→18ページ）
電源オフ	：コンピューターの電源が切れる（保存していないデータは失われます。）

<ファーストエイドFDなどから起動して、MS-DOSモードで使用している場合の動作>（→84ページ）

◀ディスプレイの明るさの調整のしかた→88ページ
◀ディスプレイの画面領域・色数の変更のしかた→79ページ

◀スピーカーの音量調整のしかた→88ページ
◀マイク入力端子に外部マイクを接続しているときは、このマイクは使用できません。（→次ページ）

◀クリックボタンの操作については取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

◀バッテリーパックの充電状態→64,65ページ

LCDパネルを閉じた後に操作を再開するとき

- 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「電源オフ」以外に設定時は、LCDパネルを開ける。（LCDパネルを閉じる以外の方法でスタンバイ状態または休止状態にした場合はLCDパネルを開け、電源スイッチ（→19ページ）をスライドする。）
- 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「電源オフ」に設定時は、LCDパネルを開け、電源スイッチ（→19ページ）をスライドする。

マウスとトラックボールを併用する場合

マウスまたはドライバーの種類によっては、マウスやトラックボールが正しく動作しないことがあります。

右側面



電源スイッチ
POWER
右にスライドすると、本体の電源が入ります。また、「電源オプション」（→56ページ）の「詳細」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定に従い、スタンバイや休止状態に入ることもできます。

電源端子

付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

赤外線通信ポート
赤外線通信を行うときに使用します。

オーディオ出力端子 
市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

マイク入力端子 
市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。ここに外部マイクを接続しているときは、内蔵のマイクは使用できません。

◀ Windows の画面上では「電源ボタン」と呼ばれることもあります。

お願い
電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。

◀ 音量調整のしかた
→88ページ

お願い
マイク入力端子では、コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプまたは3極プラグタイプを使用してください。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。

ご使用前に

マイクの音量調整について

＜録音時の入力レベルが小さい場合＞
①「Volume Control」画面*で[オプション]→[プロパティ]をクリックする。
②「音量の調整」で「録音」を選び、「表示するコントロール」で[Microphone]にチェックマークを付ける。
③[OK]をクリックした後、音量を調整する。
それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
④「オプション」 → 「プロパティ」をクリックする。
⑤「音量の調整」で「再生」を選び、「表示するコントロール」で「Microphone」の左側の□にチェックマークを付ける。
⑥「Microphone」に「トーン」ボタンがなければ、「オプション」をクリックし、「トーン調整」にチェックマークを付ける。
⑦「Microphone」の「トーン」をクリックし、「1 Mic 20dB Up」の左側の□にチェックマークを付ける。
⑧「閉じる」をクリックし、「Microphoneの詳細設定」の画面を終了する。

再生の「Microphone」のミュートを外して、音量を上げすぎないでください。ハウリングが発生します。

＜ハウリングについて＞
内蔵スピーカーに外部マイクを近づけたり、内蔵マイクに手を近づけたり、LCDパネルを閉じたりするとハウリングを起こす場合があります。その場合は、「Volume Control」画面で[オプション]→[プロパティ]をクリックし、「音量の調整」で「再生」を選び、「表示するコントロール」で「Microphone」にチェックマークを付けた後[OK]をクリックして、「Microphone」の「ミュート」にチェックマークを付けてください。
または、ハウリングを起こさないように、マイクとスピーカーの音量を適度に調節してください。

*「Volume Control」画面を開くには
タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックしてください。タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「サウンドとマルチメディア」で、「タスクバーにボリュームコントロールを表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。

左側面

セキュリティロック LOCK

市販の盗難防止用のケーブルを使用し、机などにつなぎます。接続のしかたはケーブルに付属の取扱説明書をご覧ください。

PCカードスロット

PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。

LANコネクター 

（→53ページ）

i-LINK端子 i.S400

DVデッキ、デジタルビデオカメラなど、IEEE1394に準拠した機器を接続します。（→74ページ）

モデムコネクター 

（→27ページ）

ワイヤレスコムポート 

別売りの携帯電話接続ケーブルやPHS電話接続ケーブルを接続します。

（→30、109ページ）

背面

USBコネクター 

電源を入れたままで、USB対応のフロッピーディスクドライブやマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。フロッピーディスクドライブ（付属）のドライバーは工場出荷時にインストールされています。

通風孔

「安全上のご注意」→7ページ

シリアルコネクター 

シリアルマウスやターミナルアダプターなどを接続します。
「コントロールパネル」の「ハードウェアの追加」で、必要なドライバーをインストールしてください。

ディスプレイコネクター 

外部ディスプレイや液晶プロジェクターなどを接続します。

パラレルコネクター 

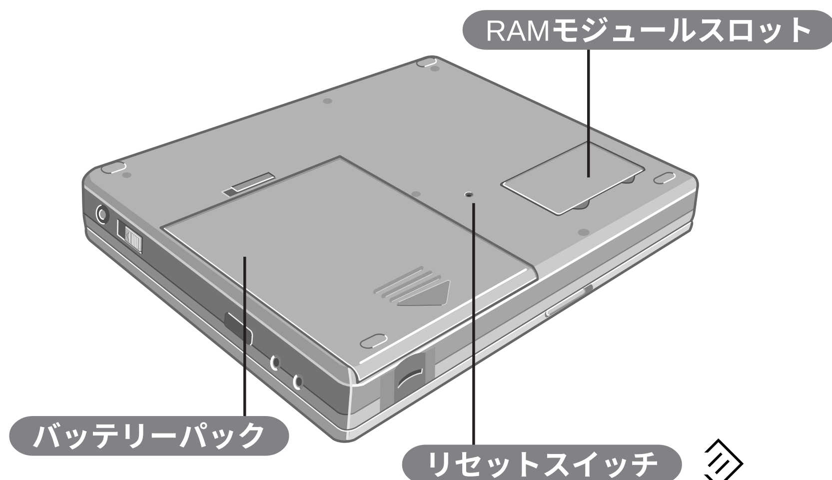
プリンターなどを接続します。

お願い

USB機器には、スタンバイや休止状態機能に対応していないものがあります。対応していない機器をご使用の場合は、スタンバイや休止状態機能を使用する前に、その機器を取り外してください。
また、設定、接続のしかたについては、USB機器に付属の説明書をご覧ください。

各部の名称と働き

底面





電源が入っている時、先の細いもので押すとコンピューターが再起動します。鉛筆などの折れやすいものは使用しないでください。

お願い

リセットスイッチは、何らかの問題が発生して、コンピューターが操作不能状態になったとき以外は、使用しないでください。保存していないデータは失われます。

使いかた

スタンバイ・休止状態機能やセキュリティー機能など、本機を操作する上で便利な機能について説明しています。また、通信のしかた、省電力機能やバッテリーパックの使いかた、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

もくじ

「スタンバイ」と「休止状態」機能

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了すると、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

＜スタンバイと休止状態の違い＞

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
スタンバイ	メモリー	速い	必要*
休止状態	ハードディスク	やや遅い	不要

* スタンバイ時には、約0.2 Wの電力を消費します。また、満充電していても約1週間でバッテリー残量がなくなります。

お願い

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使う前に、必要なデータは保存してください。また、フロッピーディスクやCDは取り出しておいてください。

◀PCカードを取り付けている場合は、消費電力が増えることがあります。

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する

1 スタンバイまたは休止状態を設定する。

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を クリック
2. [電源オプション]を ダブルクリック
3. 「詳細」タブを クリック
4. 「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を 「スタンバイ」または「休止状態」に設定する。
5. [OK]を クリック

お願い

- Windows上では、セットアップユーティリティの「省電力管理」メニューの「パワースイッチ」の設定は、動作しません。
- ファーストエイドFDなどから起動して、MS-DOSモードで使用している場合（→84ページ）

◀工場出荷時には、「スタンバイ」に設定されています。

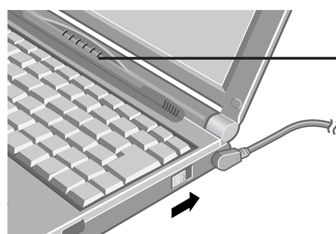
手順1の4で「休止状態」が表示されない場合

「休止状態」タブをクリックし、「休止状態をサポートする」の左側の□をクリックしてチェックマークを付けた後、[適用] をクリックしてください。

◀ Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに、または、セットアップユーティリティで［スピーカー］を［無効］に設定している場合、音は鳴りません。→88ページ

2 スタンバイまたは休止状態を使って終了する。

電源スイッチを右へスライドし、ピッという確認音が鳴ってから手を離す。



電源表示ランプ⏻
スタンバイ時：緑色点滅
休止状態時：　消灯

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。4秒以上スライドし続けると、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。

「スタンバイ」や「休止状態」に入るまで（「スタンバイ」は電源表示ランプが緑色点滅するまで、「休止状態」は消灯するまで）**は以下のことをしないでください**

- キーボード、トラックボールなどを操作する。(リジューム（次ページ）後、それらのデバイスが操作できなくなることがあります。その場合、本体を再起動してください。)
- リセットスイッチを押す。(保存していないデータは失われます。)

「スタンバイ」や「休止状態」中は・・・

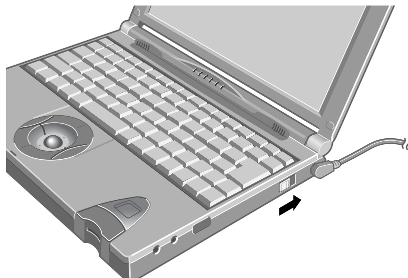
周辺機器を取り付けたり、取りはずしたりしないでください。正常に動作しなくなります。

使いかた 便利

操作を再開する

電源表示ランプ(⏻)が緑色点滅または消灯していることを確認してください。

電源スイッチをスライドし、電源表示ランプ⏻が点灯したら手を離す。



電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されます。
このようにスタンバイや休止状態から、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを「リジューム」と呼びます。

◀電源表示ランプが点灯しているのに画面に何も表示されていない場合は、LCDの電源のみが切れていることが考えられます。その場合は、Ctrl など操作に影響のないキーを押してください。

◀バッテリー容量が少ない状態ではリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターを接続してから電源を入れてください。

◀スタンバイおよび休止状態からリジュームする際、セットアップユーティリティ（→76ページ）で設定したパスワードは要求されません。

リジューム時は、Windowsが完全に起動するまで、以下のことをしないでください

- キーボード、トラックボールおよび電源スイッチなどを操作する。
- ACアダプターを接続する。
- ディスプレイを閉じる。

以下の場合は、スタンバイ（タイムアウト機能を含む）や休止状態に入らないでください

これらの機能や周辺機器およびWindowsが正常に動作しない場合があります。

- データの転送中・オーディオの録音および再生中
- PCカード（SCSI・ATAカード）やシリアルマウスなどの周辺装置の使用中または接続時
- フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブ・CD-ROMドライブの使用中
- 一部のUSB機器（スピーカーやDVD-RAMなど）の使用中または接続時
- LANなどネットワークへの接続時

上記の周辺機器にアクセスするようなアプリケーションソフトは終了してください。

「スタンバイ」や「休止状態」に入れない

- Windows以外のオペレーティングシステム（OS）ではディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。また、MS-DOSモード（ファーストエイドFDなどから起動）では、休止状態は使用できません。
- 常駐ソフトウェアがある場合やスクリーンセーバーの実行中は、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。

他の方法で「スタンバイ」や「休止状態」に入るには

<スタンバイへの入りかた>

- Fn + F7 を押す。
- [スタート]→[シャットダウン]をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。

<休止状態への入りかた>（Windowsで使用時のみ）

- Fn + F10 を押す。（「コントロールパネル」の「電源オプション」の「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」にチェックマークが付いていない場合は、スタンバイに入ります。）

プライベートキーを使う

プライベートキーには以下の使いかたがあります。

- コンピューターの起動時に使用する。（→23ページ）
- スクリーンセーバーの実行や解除に使用する。（→23ページ）

付属のプライベートキーを使用できるようにするには、初期設定が必要です。（初回のみ）下記手順に従って設定してください。付属のプライベートキーの一方で初期設定すれば、もう一方も使用できるようになります。

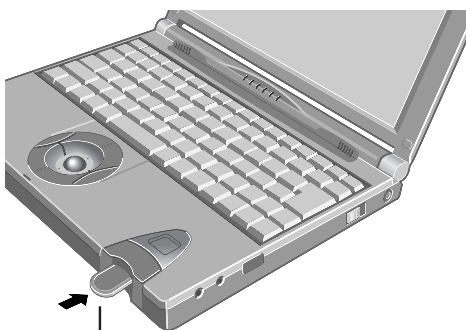
お願い

- プライベートキーはなくさないよう大切に保管しておいてください。
- プライベートキーに穴を開けたり、分解や改造をしたりしないでください。正常に動作しなくなります。

プライベートキーの初期設定をする

1 コンピューターの電源を入れる。（→『セットアップ編』）

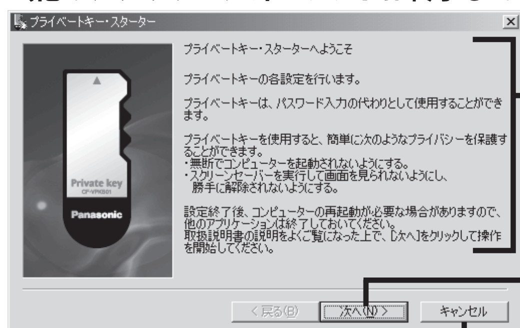
2 付属のプライベートキーをセットする。



「Private key」と書かれた面を上にして、しっかりと差し込む。



「プライベートキー・スターター」画面が表示されます。
（他のアプリケーションソフトは終了してください。）

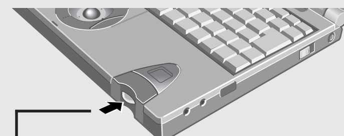


❶ 内容をよく読む。

❷ [次へ]を クリック

◀ 付属のプライベートキーを使ってください。
他のコンピューターに付属のプライベートキーや別売り品では、初期設定を行うことができません。

取り出しかた



❶ プライベートキーを押す。
プライベートキーが少し飛び出します。

❷ 飛び出した部分を持って、プライベートキーを取り出す。

お願い

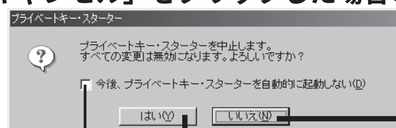
プライベートキーを抜き差しするときは、2秒以上あけてください。抜き差しの間隔が短すぎると、プライベートキーの状態を正しく認識できず、誤動作の原因になります。（エラーメッセージが表示された場合は、プライベートキーをセットし直してください。）

プライベートキー・スターター

- プライベートキーをセットしないと起動しません。また、お買い上げ後、はじめてプライベートキーをセットしたときには表示されません。左記画面が表示されていない場合は、いったん、プライベートキーを抜いて挿入しなおしてください。
- 初期設定を完了した後や、自動的に起動しない設定にしている場合にも表示されません。（→下段）

「キャンセル」をクリックした場合

「キャンセル」をクリックした場合のみ表示されます。それ以降では表示されません。



元の画面に戻ります。

「プライベートキー・スターター」を終了します。

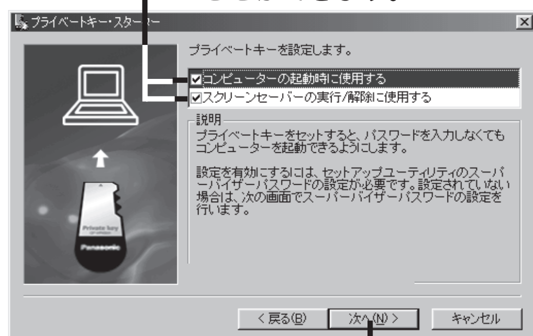
「プライベートキー・スターター」が自動的に起動しないようにしたい場合は、ここにチェックマークを付けてから「はい」をクリックしてください。その後、手動で「プライベートキー・スターター」を起動するには、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[プライベートキー環境設定]をクリックするか、タスクバーのプライベートキーアイコン をダブルクリックしてください。

3 必要な機能を選ぶ。

❶ 使用したい機能にチェックマークを付ける。

「コンピュータの起動時に使用する」：
コンピューター起動時のパスワード入力の代わりとして、プライベートキーを使用することができます。

「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」：
プライベートキーを取り出すとスクリーンセーバーを実行し、セットするとスクリーンセーバーを解除することができます。

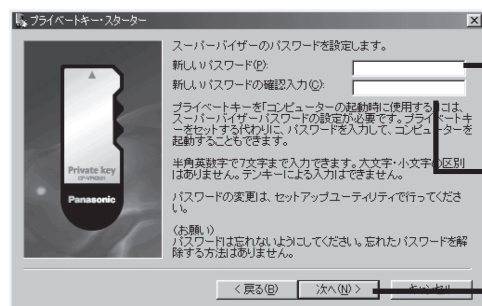


❷ [次へ]を クリック

「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」を選んだ場合
「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーを設定しておいてください。設定されていない場合は、自動的に「ベジエ」のスクリーンセーバーに設定されます。また、スクリーンセーバーの種類によっては、プライベートキーの機能が正常に動作しないことがあります。

＜「コンピュータの起動時に使用する」にチェックマークを付けた場合＞

4 スーパーバイザーパスワードを設定する。



❶ パスワードを入力して Tab を押す。

❷ 手順❶で入力したパスワードを入力する。

❸ [次へ]を クリック

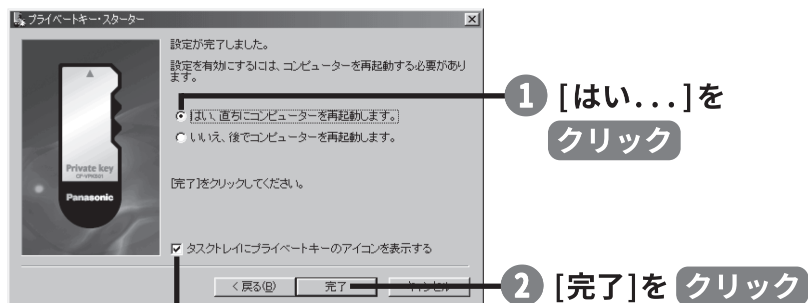
◀ セットアップユーティリティですでにスーパーバイザーパスワードを設定している場合には表示されません。

◀ スーパーバイザーパスワードとして使用可能な文字は、半角英数字で最大7文字までです。大文字・小文字の区別はありません。テンキーによる入力はできません。
入力したパスワードは「*」で表示されます。

お願い

パスワードは忘れないようにしてください。スーパーバイザーパスワードを忘れた場合、そのパスワードを変更・解除する方法はありません。

5 コンピューターを再起動する。



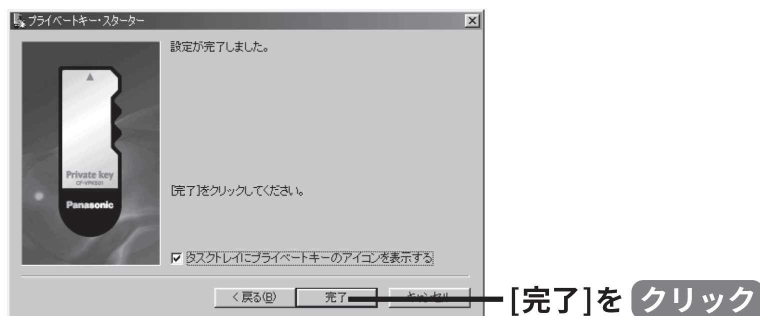
① [はい...]を クリック

② [完了]を クリック

タスクバーにプライベートキーの使用状況などを示すアイコンを表示したい場合は、ここにチェックマークを付けてください。
（タスクバーのプライベートキーアイコンから「プライベートキー環境設定」を起動することもできます。→24ページ）

<下記のような画面が表示される場合>

この場合は再起動をしなくても設定が有効になります。



[完了]を クリック

◀ コンピューターの再起動後、プライベートキーの初期設定が有効になります。左記の画面で「いいえ...」を選んだ場合は、必ず、後で再起動を行ってください。
再起動後、「…パスワードによる保護が有効になっていません…」と表示された場合は、「画面のプロパティ」で「パスワードによる保護」にチェックマークを付けてください。
(再起動：「スタート」→「シャットダウン」をクリックし、［再起動］を選んで[OK]をクリックする。)

スーパーバイザーパスワードについて

- 「コンピュータの起動時に使用する」機能を使用するには、必ずスーパーバイザーパスワードを設定しておく必要があります。
- プライベートキーが手元にないときには、スーパーバイザーパスワードを入力してコンピューターを起動することもできます。
- 上記で設定したパスワードを変更したい場合は、セットアップユーティリティで行ってください。（→82ページ）

プライベートキーを使う

プライベートキーには以下の使いかたがあります。
・コンピューターの起動時に使用する。
・スクリーンセーバーの実行や解除に使用する。
ここではプライベートキーのそれぞれの使いかたについて、説明します。

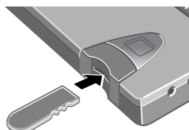
◀各機能を使用するには、「プライベートキー・スターター」で初期設定をしておく必要があります。（→20～22ページ）
また、他のコンピューターに付属のプライベートキーや複製を行っていない別売りのプライベートキーは使用できません。

コンピューターの起動時に使用する

1 プライベートキーを抜いた状態でコンピューターの電源を入れる。

パスワード入力アイコン が表示されます。

2 プライベートキーをセットする。（→20ページ）



または、スーパーバイザーパスワードを入力し Enter を押す。

コンピューターが起動し、Windowsの画面が表示されます。

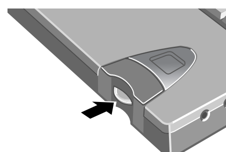
◀プライベートキーが正しくない場合（→25ページ下段）

3 Administratorのパスワード（→『セットアップ編』）を入力し［OK］をクリックする。

スクリーンセーバーの実行や解除に使用する

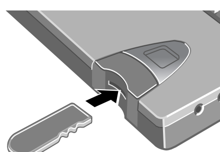
<スクリーンセーバーを実行する>

プライベートキーを取り出す。（→20ページ）



<スクリーンセーバーを解除する>

プライベートキーをセットする。（→20ページ）



◀「コントロールパネル」の「画面」の「スクリーンセーバー」で設定されている時間（工場出荷時は15分）、コンピューターを使用せずに放置すると、プライベートキーをセットした状態でも、スクリーンセーバーが実行されます。その場合は、プライベートキーをいったん抜いてから再度セットすると解除されます。ただし、Windowsのログイン前にスクリーンセーバーが実行された場合は、プライベートキーの抜き差しでは解除できません。キーやトラックボールを操作し、Administratorのパスワードを入力してください。

◀スクリーンセーバー実行後、数秒間はAdministratorのパスワードを入力しなくても、キーやトラックボールを操作するだけでスクリーンセーバーを解除することができます。

◀スクリーンセーバーが実行されているときにキーやトラックボールなどを操作し、パスワード入力画面が表示された場合は、プライベートキーをセットするか、Administratorのパスワードを入力してください。

◀プライベートキーが正しくない場合（→25ページ下段）

プライベートキーを使う

プライベートキーの設定を変更する

プライベートキーの環境設定

環境設定では、以下の設定を行うことができます。
- プライベートキーによるスクリーンセーバーの実行と解除機能の有効/無効を切り換える。
- タスクバーにプライベートキーアイコンを表示するかどうかを設定する。
- 別売りのプライベートキーを購入した場合に、そのキーに情報を複製する。

1 プライベートキーをセットする。 （→20ページ）

◀ プライベートキーが設定されていない場合は、「プライベートキー環境設定」を起動することができません。

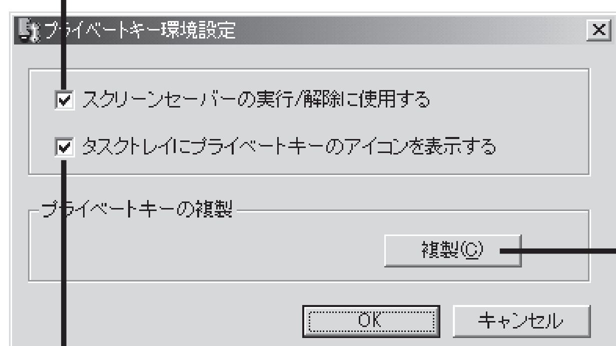
2 「環境設定」プログラムを起動する。

[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[プライベートキー環境設定]を **クリック**

◀ タスクバーのプライベートキーアイコン をダブルクリックしても起動することができます。

3 各種設定をする。

プライベートキーによるスクリーンセーバーの実行／解除を行いたい場合にはチェックマークを付けてください。チェックマークを外すとその機能は働かなくなります。



→右記

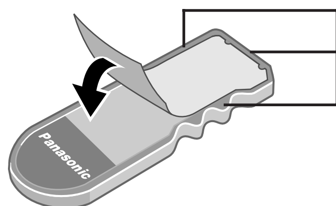
タスクバーにプライベートキーの使用状況などを示すアイコンを表示したい場合は、ここにチェックマークを付けてください。

プライベートキーの複製

別売りのプライベートキーを購入した場合（→109ページ）、そのキーをコンピューターで使用できるようにするために、必要な情報を複製します。[複製]をクリックした後、画面の指示に従って操作してください。

プライベートキーにラベルを貼る

付属のキーラベルの中からお好みのラベルを貼って、他のキーと区別することができます。



お願い

- ラベルに文字を書く場合は、貼る前に書いてください。
- ラベルを重ねて貼らないでください。

プライベートキーが正しくない場合

＜コンピューターの起動について＞

正しくないプライベートキーをセットした場合、アイコンが約3秒間表示された後、電源が切れます。

コンピューターを起動し直した後、正しいプライベートキーをセットするか、スーパーバイザーパスワードを入力してください。

＜スクリーンセーバーの実行／解除について＞

正しくないプライベートキーが挿入されている場合、そのキーを抜いてもスクリーンセーバーは実行されません。

スクリーンセーバーが実行されている場合、正しくないプライベートキーをセットしてもスクリーンセーバーは解除されません。パスワード入力画面が表示されますので、正しいプライベートキーをセットし直すか、Administratorのパスワードを入力してください。

一時的に、プライベートキーの機能を無効にしたい場合

＜「コンピュータの起動時に使用する」機能を無効にする＞

セットアップユーティリティの「セキュリティ」で「キーによる起動」を「禁止」に設定してください。有効に戻したい場合は「許可」に設定しなおしてください。

＜「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」機能を無効にする＞

「プライベートキー環境設定」の「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」のチェックマークを外してください。有効に戻したい場合はチェックマークを付けてください。

初期設定で設定しなかったプライベートキーの機能を、後から設定する場合

＜「コンピュータの起動時に使用する」機能を設定する＞

セットアップユーティリティの「セキュリティ」で以下の設定をしてください。（→81ページ）

- 「起動時のパスワード」を「使用する」に設定する。
- 「キーによる起動」を「許可」に設定する。
- スーパーバイザーパスワードを設定する。

＜「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」機能を設定する＞

①「コントロールパネル」の「画面」で以下の設定する。
- 「スクリーンセーバー」を「なし」以外に設定する。
- 「パスワードによる保護」にチェックマークを付ける。

②「プライベートキー環境設定」の「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」にチェックマークを付ける。

通信を行う前に

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするには、通信環境を整える必要があります。
以下は通信を行うための操作の流れです。

通信機器を準備する（接続・設置） →次ページ

まず、通信機器を電話回線に接続する、適当な場所に設置するなどの準備を行います。電話回線に接続するには「内蔵モデムを使う場合」と「携帯電話やPHS電話を使う場合」の2通りがあります。

↓

プロバイダーに加入し、通信の設定をする →32ページ

インターネットを行うためには、いずれかのプロバイダー（接続サービスを行う会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使用する（Panasonic PCオンラインメンバー登録時に「Hi-HOに加入する」を選んだ場合を含む）と、プロバイダーHi-HOにフリーダイヤルでダイヤルアップ接続し、オンライン上で加入手続きを行うことができます。
また、手続き終了後、自動的にインターネットへの接続設定やメールアカウントの設定が行われます。
複雑な通信設定を自分で行う必要がないのでとても便利です。

↓

通信を行う

インターネットに接続したり、電子メールを送受信したりすることができます。

◀ Hi-HO以外のプロバイダーに加入される場合は、各プロバイダーにお問い合わせのうえ、加入手続きを行ってください。また、加入後の通信設定も各プロバイダーの指示に従って行ってください。

◀ 複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合は、新たに接続先の設定を行ってください。→37ページ

用 語

アクセスポイント　：プロバイダーへの接続ポイントです。あなたの使用場所に一番近いところを選びます。

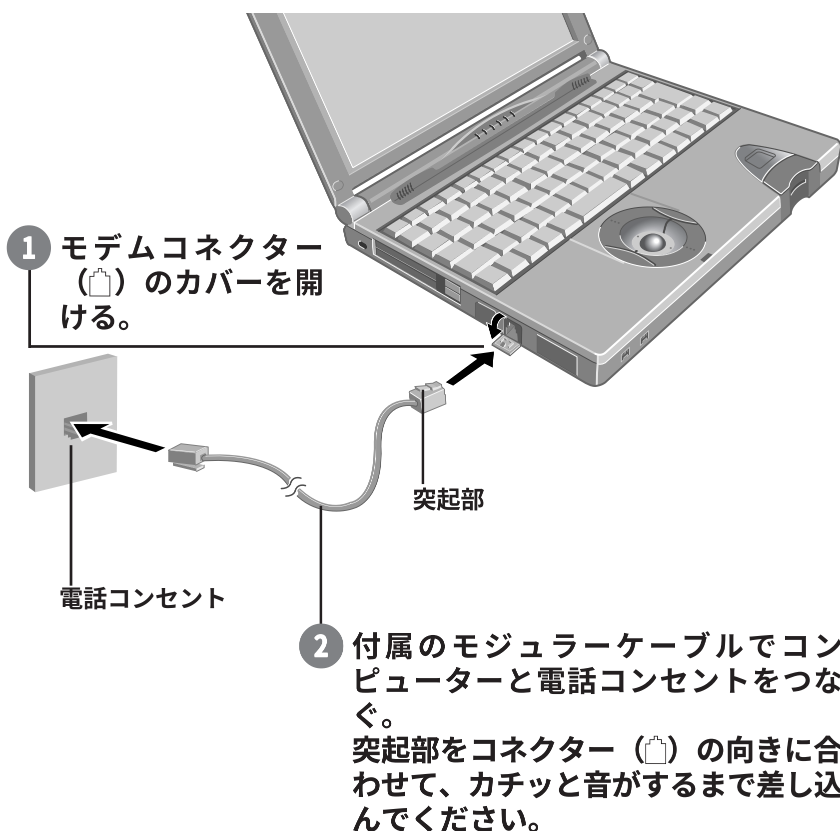
通信機器を準備する

ここでは、次の2通りの場合について説明します。
<内蔵モデムを使う場合>
内蔵されているモデムと電話コンセントを接続して通信を行います。
<携帯電話やPHS電話を使う場合>→30ページ
専用のケーブル（別売り）にお手持ちの携帯電話やPHS電話をつなげば、外出先でも通信ができます。

◀「インターネットスターター」を使って自動的に通信設定を行うためには、内蔵モデムまたはターミナルアダプター*をご使用ください。携帯電話やPHS電話からでは、「インターネットスターター」は使用できません。
*接続や設定のしかたについてはターミナルアダプターの説明書をご覧ください。

電話回線に接続する（内蔵モデムを使う場合）

1 内蔵モデムと電話コンセントを接続する。



② 付属のモジュラーケーブルでコンピューターと電話コンセントをつなぐ。
突起部をコネクター（ ）の向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

お願い
LANコネクター（ ）に接続しないでください。

◀取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜いてください。
◀日本国内の一般電話回線で使用してください。また、電話コンセントの形状によっては工事が必要になることがあります。
→次ページ

⚠注意

モデムは日本国内の一般電話回線で使用する



会社、事務所等の内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話のデジタル側コンセントに接続したり、海外で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

通信機器を準備する

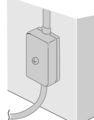
使用する電話回線について

モデムは、日本国内の一般電話回線で使用してください。
・会社、事務所等の内線電話回線等には、接続しないでください。
（→前ページの「⚠注意」）
・以下の特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。
NTTのピンク電話の回線
ホームテレホン（接続ボックス）
玄関ドアホン等
日本国外の回線

電話コンセントの種類

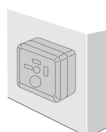
電話コンセントの種類は、モジュラージャック、ローゼット、3端子（または4端子）ジャックなどがあります。電話回線とのつなぎかたは、端子の種類によって異なります。モジュラージャックの場合、付属のモジュラーケーブルをそのままつなぎます。

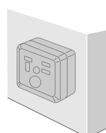
<ローゼットの場合>



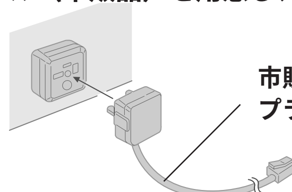
最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

<３端子（または４端子）ジャックの場合>





以下の2とおりの方法があります。
・最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。
・一方がモジュラープラグで、他方が3端子（または4端子）プラグのケーブル（市販品）を用意し、以下のようにつなぎます。



本機のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

まいと～く FAX 2001 Liteについて

本機には、まいと～く FAX 2001 Liteがインストールされています。まいと～くを使うと、コンピューター上でファクスの送受信を行うことができます。受信したファクスはそのまま他の人へ送信したり、プリンターがあれば印刷したりすることができます。詳しくは、付属の別紙『まいと～く FAX 2001 Liteのご案内』をご覧ください。

内蔵モデムによるリジューム機能（内蔵モデムリングリジューム機能）

スタンバイ状態のときに内蔵モデムの回線に電話がかかると、コンピューターの電源が自動的に入る機能のことです。
不在時のファクス自動受信などを活用する際に便利です。
この機能を使用する場合は、「まいと～く FAX 2001 Lite」など電話の待ち受け状態を保持できるソフトウェアを起動し、設定しておく必要があります。詳しくは、お使いのソフトウェアに付属の説明書をご覧ください。

<使用時のお願い>

- スタンバイ状態からリジュームした場合、画面には何も表示されません。キーボードを操作すると元の画面が表示されます。→19ページ
- 休止状態からはリジュームできません。
- 内蔵のモデムを使用時のみ動作します。シリアルモデムやPCカードモデム、ワイヤレスコムポートに接続した携帯電話やPHS電話からはリングリジュームできません。
- 電話がつながるまでは、リジュームで起動する相当の時間がかかります。リジュームするには通常の電話呼び出しよりも長く呼び出しを行ってください。
  送信側の呼び出しを長く設定できない場合は、電話の待ち受け状態を保存できるソフトウェアで着信までのベル回数を少なく設定*してください。（*ただし3回以上に設定してください。）
- モデムの音量は以下の方法で「オン」か「オフ」に設定することができます。
  ①［コントロールパネル］→［電話とモデムのオプション］→［モデム］で使用するモデムの［プロパティ］をクリックする。
  ②［全般］→［音量］で［オン］または［オフ］を選ぶ。
  「まいと～く FAX 2001 Lite」で設定する場合
  メニューボタンをクリックし、[FAXのプロパティ]→[FAX受信]をクリックして[着信までのベル回数]を設定してください。（工場出荷時は3回に設定されています。）
- [コントロールパネル]→[電源オプション]→[システムスタンバイ]のタイムアウト機能(→58ページ)は、おおよその通信時間を考慮して設定してください。通信中でも、設定時間になるとスタンバイ状態に入り、通信が中断されることがあります。
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用する場合、「コントロールパネル」の「電源オプション」の「詳細」で「スタンバイおよび休止状態からの回復時にパスワードを入力する」にチェックマークを付けないでください。
- プライベートキーの設定をしている場合（パスワードを設定している場合）、リジューム時にパスワードの入力は要求されません。プライベートキーをセットしていなくてもリジュームします。（この場合、スクリーンセーバーが設定されていれば、スクリーンセーバーが起動します。）

ATコマンド*でモデムの設定を変更する。

通信を行うたびに、ATコマンドでモデムの設定をしなければいけない場合があります。このような場合は、次のように設定しておくと便利です。

①［コントロールパネル］→［電話とモデムのオプション］→［モデム］で、変更したいモデムを選び［プロパティ］をクリックする。
②［詳細］で［追加設定］にATコマンドを入力する。
③［OK]をクリックする。

*ATコマンドについては、［スタート］→［プログラム］→［Panasonic］→［オンラインマニュアル］→［内蔵モデムコマンド一覧］をご覧ください。

通信機器を準備する

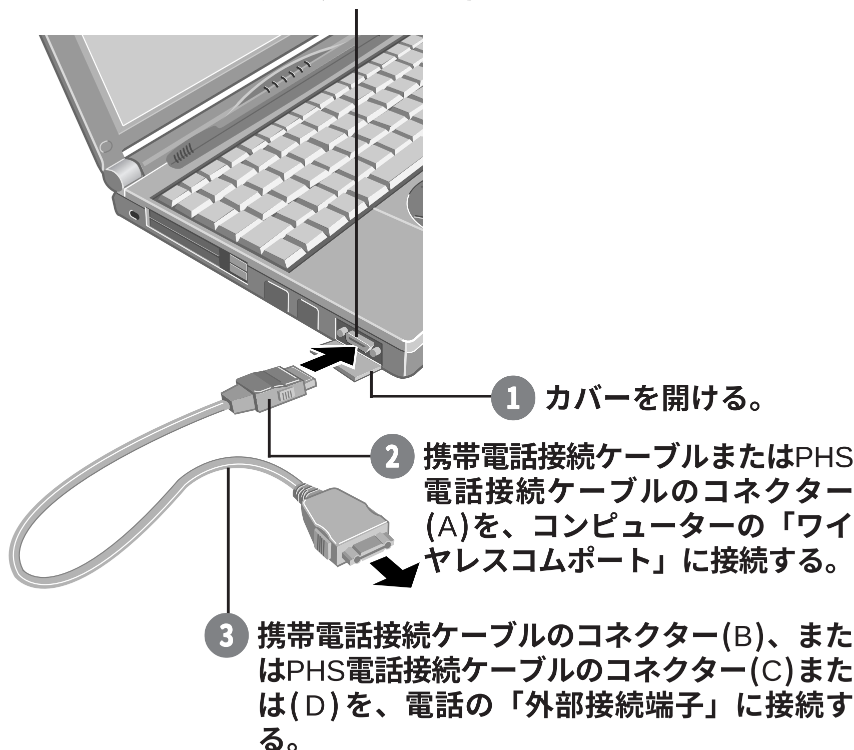
携帯電話やPHS電話を使う場合

別売りの専用ケーブルでコンピューターと携帯電話またはPHS電話を接続すると、外出先などでも通信を行うことができます。

接続のしかた

1 操作を終了し、コンピューター本体の電源を切る。

2 別売りの専用ケーブルでコンピューターと携帯電話またはPHS電話を接続する。



◀別売りの専用ケーブル：
携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル
詳細は、109ページをご覧ください。
利用できる電話機や機能については、110ページをご覧ください。

お願い

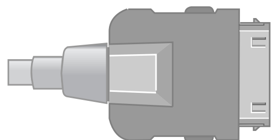
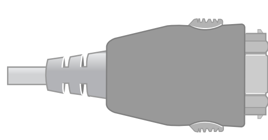
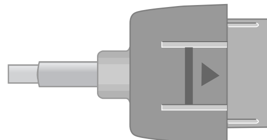
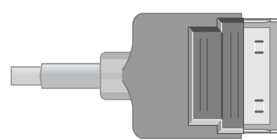
PHS電話接続ケーブル（DDIポケット用）に付属しているフロッピーディスクのドライバーを使用しないでください。
コンピューター本体にはPIAFS 32K、PIAFS 64K、無線モデム、無線インターネットなどに対応したドライバーがすでに入っています。

◀接続のしかた／取り外しかたのイラストは、携帯電話接続ケーブルを使用する場合を例にしています。

コンピューターの「ワイヤレスコムポート」への接続
ネジが付いている面を下にして、カチッと音がするまで、まっすぐに接続してください。

電話の「外部接続端子」への接続
- 携帯電話やPHS電話の説明書もご覧のうえ、向きに注意してまっすぐに接続してください。決して無理には押し込まないでください。少しでも抵抗があるときは向きを変えて接続してみてください。
- 無理な力がかかったときに、コンピューター側のコネクターは外れる構造になっています。無理な力がかかって外れた場合は、ロック機能が弱くなるなど、故障の原因になります。

専用ケーブルのコネクターの種類

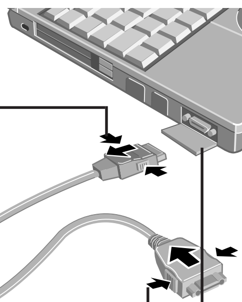
コネクター（A） <コンピューターへ>	コネクター（B） <携帯電話へ>	コネクター（C） <PHS電話へ>	コネクター（D） <PHS電話へ>
			
携帯電話接続ケーブル PHS電話接続ケーブル	携帯電話接続ケーブル	PHS電話接続ケーブル （NTTドコモ・アステルに対応）	PHS電話接続ケーブル （DDIポケットに対応）

取り外しかた

通信が終了したらケーブルを取り外しておいてください。

1 操作を終了し、コンピューター本体の電源を切る。

2 専用ケーブルを取り外す。



❶ コネクター(A)の両サイドのロックボタンを押しながら、まっすぐに引き抜く。

❷ 携帯電話接続ケーブルの場合：
コネクター(B)の両サイドのロックボタンを押しながら、まっすぐに引き抜く。
PHS電話接続ケーブルの場合：
コネクター(C)では上面の△マーク部分、コネクター(D)では「PUSH」部分を押しながら、まっすぐに引き抜く。

❸ カバーを閉じる。

◀ コネクターA〜Dについては、前ページをご覧ください。

お願い

無理に引き抜こうとしないでください。故障の原因になります。

専用ケーブルの取り扱い上のお願い

● コネクター部には、強い力をかけないでください。故障の原因になります。
持ち運ぶ際には必ずケーブルを取り外し、コネクター部に強い力をかけないようご注意ください。

● 端子部分には触れないでください。接触が悪くなったり、故障の原因になります。

● 通信中は磁石などを近づけないでください。磁石などを近づけると、正常に通信できないことがあります。

接続した電話機の電波状況モニターについて

・電波状況モニターのアイコン
電波の状況に応じて、下記のいずれかのアイコンがタスクバーに表示されます。



アイコンをダブルクリックすると、さらに細かな指標が表示されます。（数値は目安です。）

・お使いの電話機の種類によっては、電波状況モニターが正しく動作しないことがあります。（電波状況が表示されない、また接続できているのに未接続と表示されるなど）

PHS電話でファクス送信する（まいと〜く FAX 2001 Liteを使う→付属別紙）場合

・アプリケーションソフト側でモデムの設定をする場合は、PHS電話接続ケーブルを取り外した状態で行ってください。

・PHS電話*を使ってファクス送信するには、PTE接続サービスを利用する必要があります。PTE接続サービスについてはオンラインマニュアル（→86ページ）の「ワイヤレスコムポートコマンド一覧」をご覧ください。

*「まいと〜くFAX 2001 Lite」は、NTTドコモのPHS電話にのみ対応しています。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする(初回のみ)

「インターネットスターター」を使うと、プロバイダーHi-HO（以後、Hi-HO）への加入手続きが画面上で簡単にできます。また、手続き終了後、インターネット接続やメールの送受信のための複雑な設定が自動的に行われるので、すぐにインターネットを使うことができて便利です。
ここでは「インターネットスターター」を使ってHi-HOに加入する方法について説明します。

お願い

Hi-HOに加入される場合は必ず、「インターネットスターター」をご利用ください。「インターネットスターター」を使用せずにHi-HOに加入された場合は、付属別紙（Hi-HOのご案内）に記載されている「特典」の対象外となります。
Hi-HO以外のプロバイダーに加入する場合は、デスクトップの「インターネットに接続」を使用してください。

準備するもの

Hi-HOに電話をかけるために電話回線と接続します。（→27ページ）
入会の前に、あらかじめ次の準備をしておきましょう。

＜申し込みコースを決める＞
「Hi-HOのご案内」のパンフレット（付属）を見て決めておきます。

＜ご本人名義のクレジットカードを準備する＞
加入操作時、カードの会員番号や有効期限の入力に必要です。

Hi-HOで利用できるクレジットカード
JCB・VISA・MASTER・DC・UC・ミリオン・NICOS・AMEX・ダイナース・Panaカード・松下カード（2001年3月現在）

＜希望するメールアカウントを決める＞
電子メールに必要な「メールアカウント」（利用者を示す名称）の希望を決めておきます。
（「松下太郎」さんのメールアカウントの例）

matsushita_taro
matsushita
m-taro
taro_chan

◀希望のメールアカウントが、すでに誰かに割り当てられている場合、そのメールアカウントは登録できません。

メールアカウントとして使用可能な文字
英小文字・数字・ハイフン（-）・アンダーバー（_）
（半角文字のみ使用可能・ハイフンとアンダーバーは合計２つまで使用可能）
4文字以上、16文字以下で決めてください。

◀メールアカウントは、メールアドレスの一部として使用されます。
（例）
matsushita_taro@dab.hi-ho.ne.jp

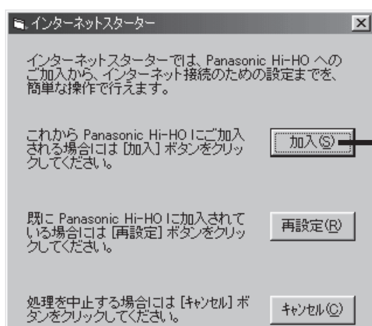
「インターネットスターター」による加入、設定について

- Hi-HOにフリーダイヤルで接続するため、加入手続き中の電話料金はかかりません。
- 加入・設定時、携帯電話やPHS電話は使用できません。
- ホームページ閲覧ソフトとして「Internet Explorer (Ver.5.5)」*、メールソフトとして「Outlook Express Ver.5.5」*を使用することを前提として、自動的に通信設定を行います。その他のソフトウェアをご使用になる場合は、別途、通信設定を行ってください。
  *工場出荷時、インストール済みです。
- 「コントロールパネル」の「ユーザーとパスワード」でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

Hi-HOに加入し、通信の設定をする

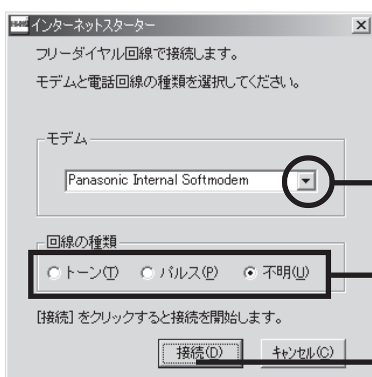
設定が終わるまでに、約15～20分かかります。
下記手順に従って、続けて操作してください。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。



[加入]を クリック





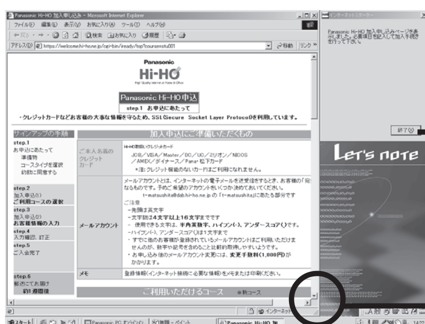
①使用するモデムを選ぶ

②使用する電話回線の種類を クリック

③[接続]を クリック



Hi-HOへ自動ダイヤルし、回線に接続します。



[終了]をクリックすると、接続を切断し、「インターネットスターター」が終了します。

▼をクリックし、お申し込み手順などを、よく読む。

（次ページへ続く）

お願い

「コントロールパネル」の「ユーザーとパスワード」でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

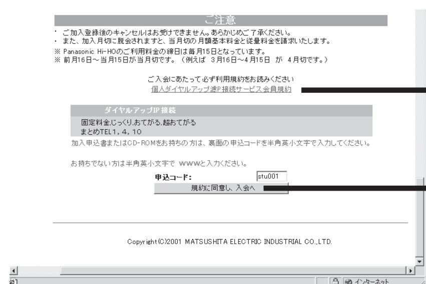
◀「Panasonic PC オンラインメンバー登録」から加入操作を行った場合、左記の画面が表示されます。

◀内蔵モデムは、「Panasonic Internal Softmodem」です。ターミナルアダプターなどをお使いの場合は、ターミナルアダプターなどに付属の説明書をご覧ください。

電話回線の種類について
- **トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線。**
- **パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線。**
- **不明　：トーンかパルスかが不明な場合に選んでください。まず、トーンで接続を開始し、つながらなければ、パルスで接続し直すかどうかの確認メッセージが表示されます。**

回線がつながらないときは
- **話し中の場合（回線が混雑しているとき）は、モジュラーケーブルの接続などを確認し、少し待ってから「インターネットスターター」の操作をし直してください。**
- **電話回線の種類や使用するモデムの設定が正しいか確認してください。**

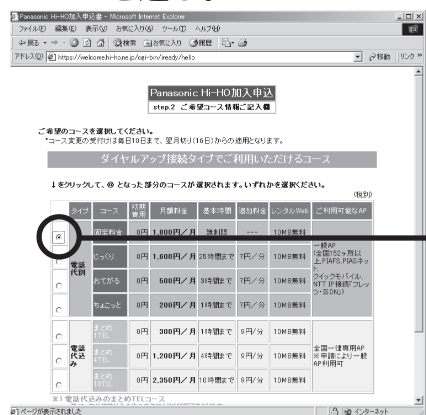
プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）



❶「個人ダイヤル…」をクリックし、会員規約をよく読む。
❷[規約に同意し、入会へ]を クリック

◀会員規約を読み終わったら、 戻る をクリックして前の画面に戻ってください。

2 コースを選ぶ。

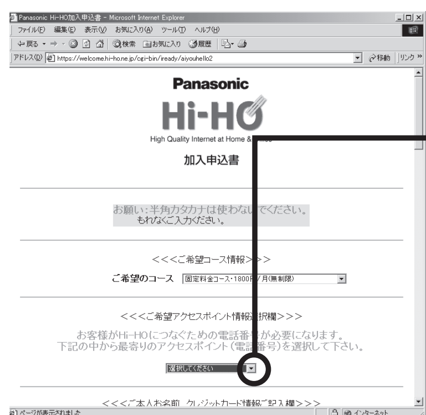


加入したいコースを選び、◯を クリック

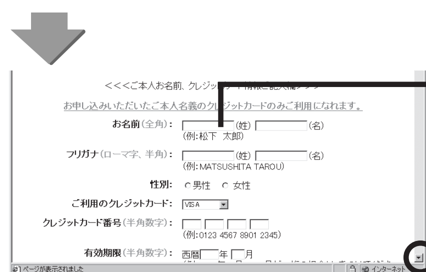


[次へ]を クリック

3 「加入申込書」に必要事項を入力する。
各欄の入力例や説明をよく読んで入力してください。



❶ ▼を クリック
❷使用場所に一番近いアクセスポイントを クリック



❶ Tab を押すとカーソルが表示されるので、入力する。
❷ ▼をクリックし、最後まで入力する。

お願い

- 加入申込書には「ご自宅ファックス」、「お勤め先・学校名」、「お勤め先電話番号」以外は必ずご記入ください。「ご自宅住所」には、ビル名や部屋番号など郵便物が届くのに必要な情報をきちんと入力してください。きちんと入力していないと、Hi-HOから資料などを郵送できないことがあります。
- Hi-HO加入申し込み画面の内容は、本書の説明と異なる場合があります。その場合は、画面の指示に従って操作してください。

全角と半角（ローマ字・数字）
各項目とも、指定の通りに入力してください。 半角/全角 を押すごとに全角入力モードと半角入力モードが切り換わります。

項目間のカーソル（Ｉ）移動
Tab を押す：次の項目へ
Shift ＋ Tab を押す：前の項目へ

「性別」
該当する方の◯をクリックし、◉にします。

数字を入力する項目
「生年月日」やクレジットカードの「有効期限」など、１桁の数字を入力する場合、「03」のように数字の前に0を付けてください。

入力を間違えたら
間違えた文字の右側をクリックすると、カーソルが表示されます。 Back space を押すと、カーソルの左となりの文字を消すことができます。

[次へ]を クリック

入力内容をよく確認し、[登録]を クリック

加入手続きが終わると、Hi-HOに登録された情報が表示され、その情報がコンピューターに自動で設定されます。

4 登録内容をメモに取る。（→下記）

▼をクリックし、最後まで内容を確認し、必ずメモを取る。

<操作を終わるとき>
[終了]を クリック

お願い

[登録]ボタンは、ダブルクリックしないでください。また、[登録]ボタンをクリックした後、手順4の画面が表示されるまで多少時間がかかります。この間に再度クリックしないでください。2重に登録されることがあります。

◀メールアカウントが使えるようになるまで約2時間かかります。

使いかた

コミュニケーション

必ずメモしておいてください

接続ID、パスワード、メールアカウントなどの登録内容は必ず、取扱説明書『セットアップ編』の裏表紙の前ページにメモしておいてください。
メールパスワードは、電子メール操作時に入力する必要があります（→47ページ）ので特に気をつけてメモしてください。（その他の登録情報は、インターネットスターターが自動でコンピューターに設定してくれます。）
また、この情報は、「マイドキュメント」フォルダーに「hi-ho.txt」というファイル名で保存されています。このファイルを開いて、参照することもできます。（→『セットアップ編』「文書の呼出（ファイルを開く）」）

用 語

接続ID　：プロバイダーへの接続時に会員を識別するためのものです。
接続パスワード　：他人が自分の接続IDを使ってプロバイダーに接続するのを防ぐためのパスワードです。
メールアカウント：電子メールをやり取りするときに、利用者を示します。（→47ページ）
メールパスワード：メールサーバー上の電子メールを他人に無断で読み出されるのを防ぐためのパスワードです。
電子メールアドレス：電子メールの宛先（実際はプロバイダーが設置している「メールサーバー」というコンピューターの中の番地）です。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）

正式な会員証が届いたら

加入後、約10日後に、正式な会員証や説明書などの書類が郵送されます。
加入時にメモした登録情報と郵送された書類に違いがないか確認してください。
サーバー管理などのため、まれに「接続パスワード」などが、変更されていることがあります。そのような場合は、下記を参照して設定を変更してください。

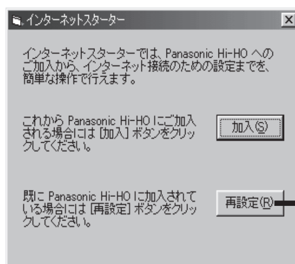
お願い
郵送された書類は、大切に保管してください。

設定内容を変更するとき

接続パスワードが変更になったときやコンピューターの再インストール後、通信の設定を再度行いたいときには、「インターネットスターター」を使用して再設定することができます。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

◀再インストール後（→102ページ）、再設定する場合は、まず「ネットワークとダイアルアップ接続」で新しい接続を作成してから（→次ページ）、左記の操作を行ってください。



[再設定]を クリック

2 設定内容を変更する。
（画面は一例です）

インターネットスターター
インターネットに接続するための情報、メールを送受信するための情報を入力してください。
入力したら [設定] をクリックしてください。コンピュータに登録します。
中止する場合は [キャンセル] をクリックしてください。
接続 ID
接続パスワード ********
メールアカウント
メールサーバー dab.hi-ho.ne.jp
電子メールアドレス @dab.hi-ho.ne.jp
ネームサーバー1 202 224 128 6
ネームサーバー2 202 224 128 50
市外局番 06
電話番号 4252-7300
ダイヤルアップネットワーク名
Panasonic Hi-HO
設定(S) キャンセル(C)

❶ 変更する項目を クリック し、入力し直す。

セキュリティ保護のため「*」で表示されます。

アクセスポイント電話番号

「インターネットスターター」によって、自動設定されたダイヤルアップネットワーク名

❷ 内容の変更が終わったら[設定]を クリック
その後、メッセージに従って操作してください。

ダイヤルアップネットワーク名
ダイアルアップネットワークとは、プロバイダーに接続する際のアクセスポイントとアクセスポイントへの接続方法（電話回線の種類、モデムなど）を設定したものです。
「インターネットスターター」では「Panasonic Hi-HO」という名前で自動設定されます。

◀再インストール後の再設定時には、▼をクリックして、新しく作成したダイヤルアップネットワーク名を選んでください。

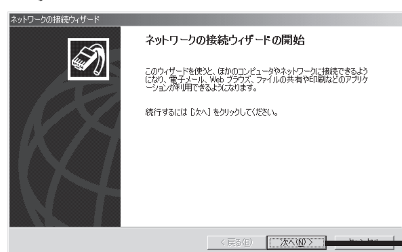
使いかた　コミュニケーション

新しく接続先を設定する

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたり（家では内蔵モデムを使って通信し、外出先では携帯電話やPHS電話を使って通信するなど）する場合、「ネットワークとダイヤルアップ接続」で新しい接続先を作成します。

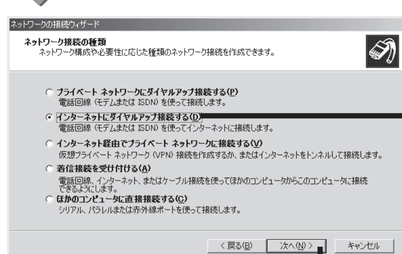
1 [スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]をクリックし、[新しい接続の作成]をダブルクリックする。





[次へ]を クリック

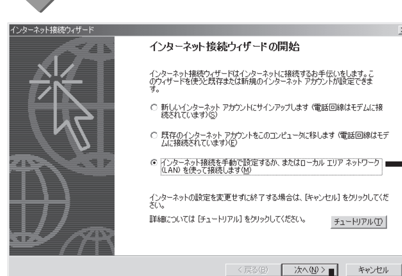




① 「インターネットに…」にチェックマーク付ける。

② [次へ]を クリック



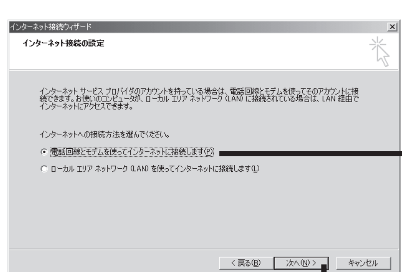


① 「インターネット接続を手動で…」にチェックマークを付ける。

② [次へ]を クリック

◀「ネットワークの接続ウィザードの開始」画面は、［コントロールパネル］→［ネットワークとダイヤルアップ接続］→［新しい接続の作成］アイコンをダブルクリックしても起動することができます。

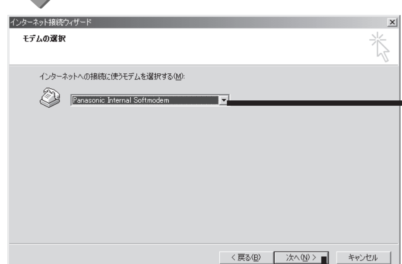
2 接続方法を選ぶ。



① 「電話回線とモデムを使って…」にチェックマークを付ける。

② [次へ]を クリック





① モデムを選ぶ。

② [次へ]を クリック

モデムの選択

Panasonic Internal Softmodem：
内蔵のモデムを使用する場合に選ぶ。

Panasonic Wireless Comm Port：
携帯電話やPHS電話を使ってデータ通信する場合に選ぶ。接続先のアクセスポイントの番号にダイヤルパラメーターを追加してください。（→110ページ）

3 サーバー情報を設定する。

(ISP→右記)

❶ 電話番号を入力する。

❷ [詳細設定] を クリック

チェックマークを付ける。

❶ [アドレス] を クリック

❷ プロバイダーからの説明書に従って設定する。

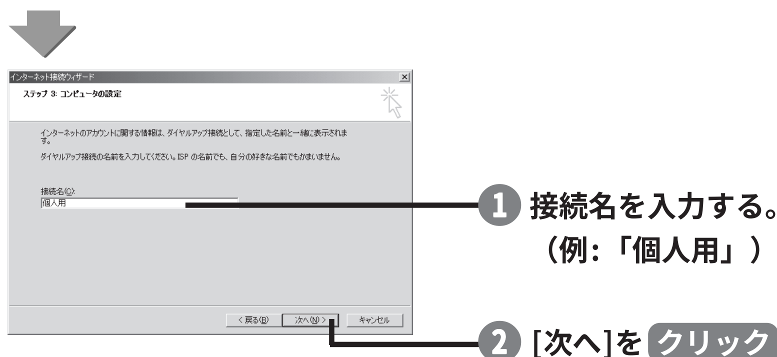
❸ [OK]を クリック

[次へ]を クリック

❶ ユーザー名とパスワードを入力する。

❷ [次へ]を クリック

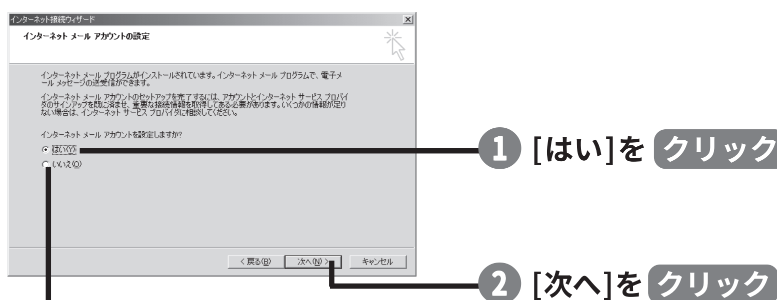
◀ISP：インターネットサービスプロバイダー(インターネット接続サービスを行う会社)のことです。本書では「プロバイダー」と呼んでいます。



1 接続名を入力する。
（例：「個人用」）

2 [次へ]を クリック

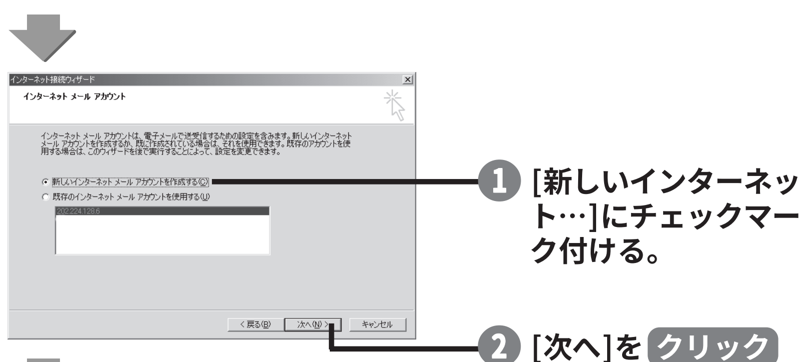
4 インターネットメールアカウントを設定する。



1 [はい]を クリック

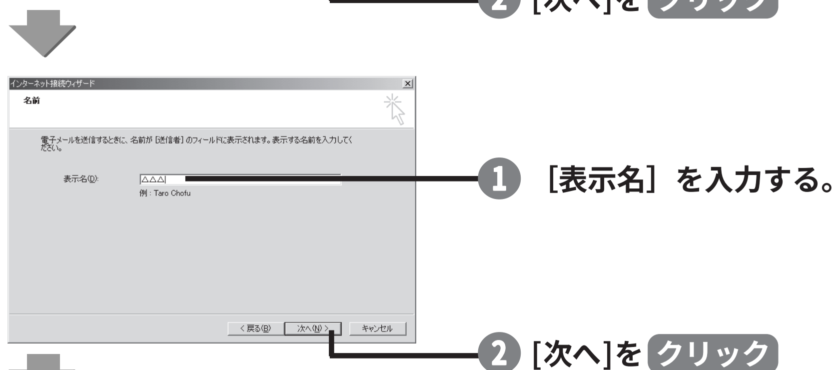
2 [次へ]を クリック

［いいえ］をクリックした場合→手順5



1 [新しいインターネット…]にチェックマーク付ける。

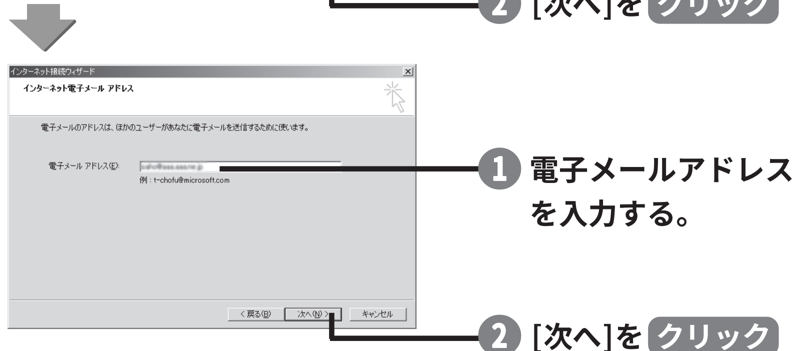
2 [次へ]を クリック



1 ［表示名］を入力する。

◀電子メールを送信する時に「送信者」として表示したい名前を入力してください。

2 [次へ]を クリック



1 電子メールアドレスを入力する。

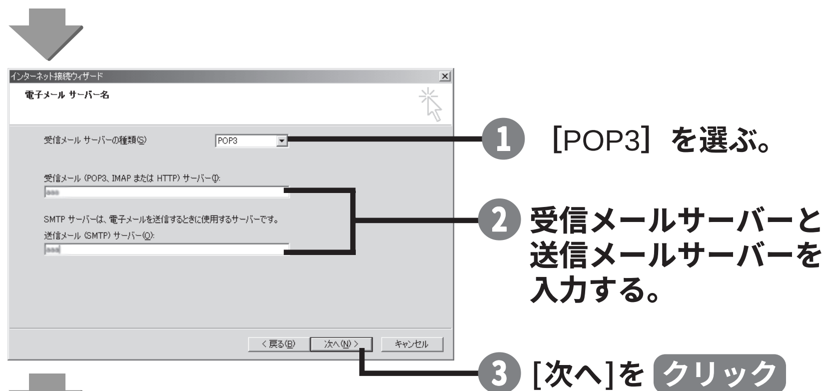
◀必ず半角の英数字で入力します。
半角の英数字にならないときは 半角/全角 を押して、英数字入力モードに切り換えます。

2 [次へ]を クリック

（次ページへ続く）

使いかた

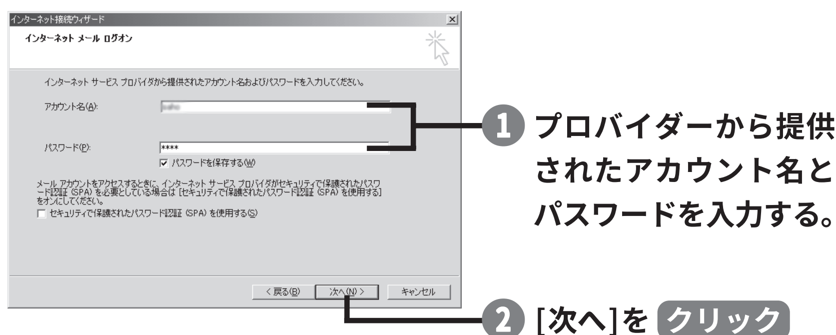
コミュニケーション



1 ［POP3］を選ぶ。

2 受信メールサーバーと送信メールサーバーを入力する。

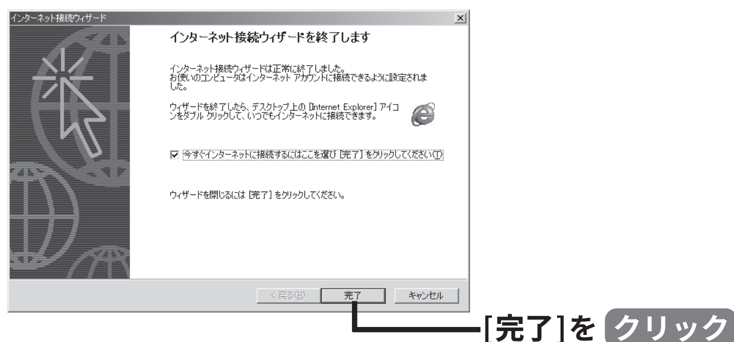
3 [次へ]を クリック



1 プロバイダーから提供されたアカウント名とパスワードを入力する。

2 [次へ]を クリック

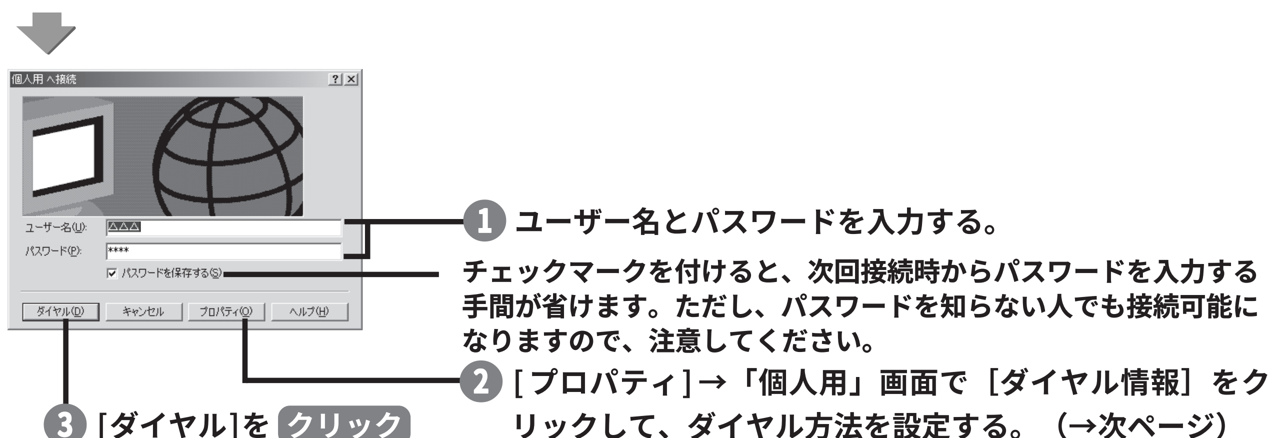
5 「インターネット接続ウィザード」を終了する。



[完了]を クリック

設定した接続先につなぐとき（新しく設定した接続先名称「個人用」を例にして説明します。）

［スタート］→［設定］→［ネットワークとダイヤルアップ接続］→［個人用］をクリックする。



1 ユーザー名とパスワードを入力する。

チェックマークを付けると、次回接続時からパスワードを入力する手間が省けます。ただし、パスワードを知らない人でも接続可能になりますので、注意してください。

2 [プロパティ]→「個人用」画面で［ダイヤル情報］をクリックして、ダイヤル方法を設定する。（→次ページ）

3 [ダイヤル]を クリック

接続を切断するとき

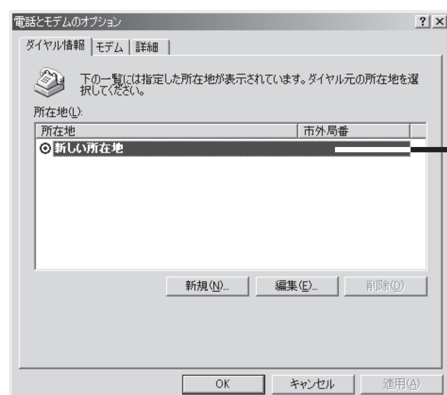
タスクバーのをダブルクリックし、[切断]をクリックします。

ダイヤル方法を設定する

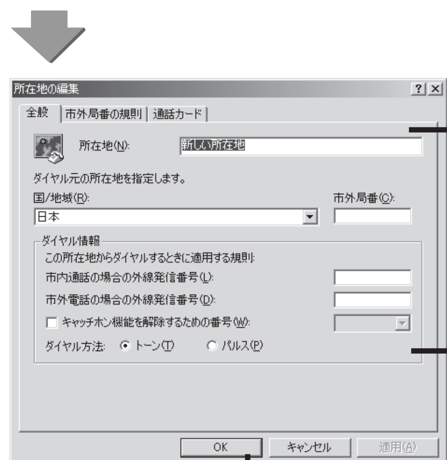
発信元の使用環境や使用する通信機器にあわせて、ダイヤル方法（回線の種類）などを設定する必要があります。

1 [コントロールパネル]の[電話とモデムのオプション]をダブルクリックする。

2 電話回線の種類を設定する。

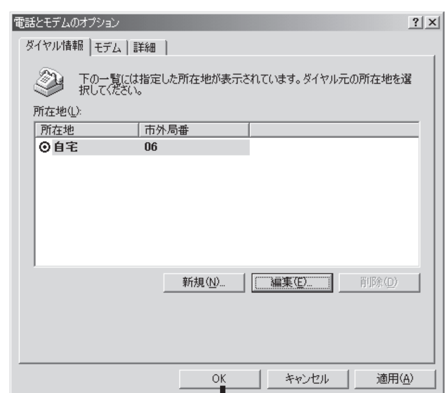


設定したい所在地を ダブルクリック



① 必要な項目を入力する。

② [OK]を クリック



[OK]を クリック

お願い

◀「国/地域」では「日本」を選んでください。
◀「市外局番」には使用場所の市外局番を入力してください。
携帯電話やPHSをお使いになる可能性がある場合は、「0」を入力してください。「市外局番」を入力しなければ、画面を閉じることができません。
◀「ダイヤル方法」では、回線の種類を正しく選んでください。
- トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線
- パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線
- 携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。
- PHS電話でファクス送信を行う場合などは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。
- ご使用中の電話回線の種類がわからない場合、お近くのNTTにお問い合わせください。

内蔵モデムの通信時の音量を調節するには

「Volume Control」画面（タスクバーの アイコンをダブルクリック）の「Wave」を使ってください。

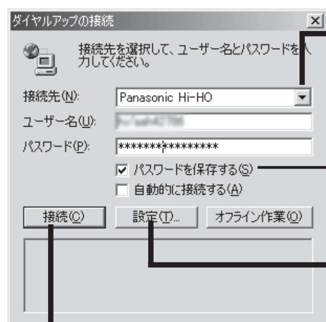
インターネットに接続する

通信機器を接続し、プロバイダーへの加入と通信の設定（→27〜36ページ）が終わったら、「Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）」を使ってインターネットに接続してみましょう。

◀「Internet Explorer」は、ホームページを見るためのソフトウェア（ブラウザー）の一つです。
◀LAN経由の場合→53ページ
設定についてはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

「Internet Explorer」を起動する

1 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする。



① をクリックして、接続先を選ぶ。

チェックマークを付けると、次回接続時からパスワードを入力する手間が省けます。ただし、パスワードを知らない人でも接続可能になりますので、注意してください。

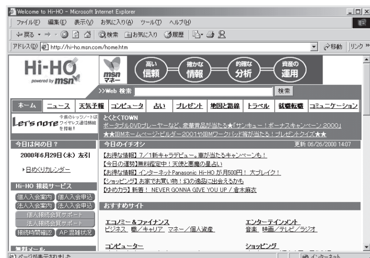
② [設定]をクリックして、ダイヤル方法を設定する。（→41ページ）

③ [接続]を クリック



◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティ保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→37ページ）
◀左記は、「インターネットスタータ－」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

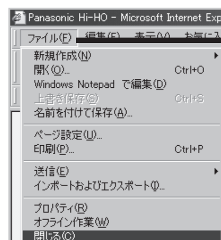
プロバイダーへの接続が始まります。接続が終わると、Internet Explorerで、最初に表示するページとして設定されているホームページが表示されます。



◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

「Internet Explorer」を終了する

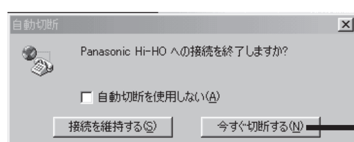
次のようにして、確実に接続を切断します。



① [ファイル]を クリック

② [閉じる]を クリック





「今すぐ切断する」を クリック

◀画面右下の（接続時）アイコンをダブルクリックしても、接続を切断できます。

◀ウィンドウ右上の をクリックしても、「Internet Explorer」を終了することができます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

使いかた

コミュニケーション

雑誌で見つけたホームページを見る

雑誌やカタログなどで目にする「http://」というURL（ホームページの番地）を入力すると、見たいページを表示することができます。ここでは、Hi-HOのホームページを表示します。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→前ページ）

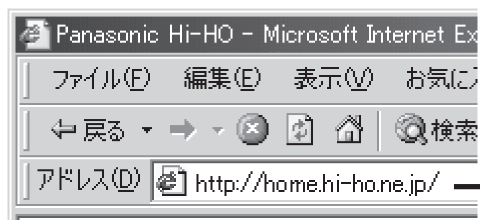
2 URLを入力する。



① アドレスの欄を クリック

② Back space を押して、不要な文字を消す。

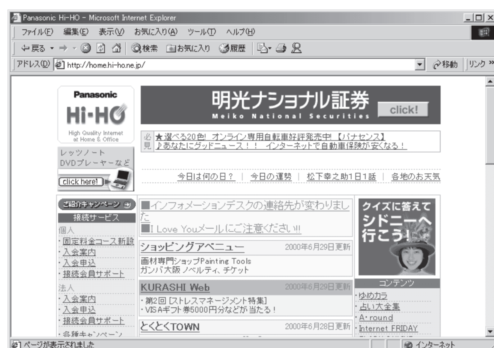




① URLを入力する。

② Enter を押す。

しばらくすると、指定したホームページが表示されます。



◀Hi-HOのURLは、「http://home.hi-ho.ne.jp/」です。（2001年3月現在）

◀必ず半角の英数字で入力します。半角の英数字にならないときは 半角/全角 を押して、英数字入力モードに切り換えます。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀Internet Explorerを終了するには→前ページ

表示が極度に遅いときには

画像の多い（または画像ファイルサイズの大きい）ホームページを表示している、メモリーが不足している、または接続しようとした時間帯にホームページが非常に混雑しているなどが考えられます。

URLによく使われている記号の入力方法

- チルダ（～）は Shift ＋ ^
- スラッシュ（/）は / 、ピリオド（．）は . 、コロン（：）は :
- アンダーバー（＿）は Shift ＋ \

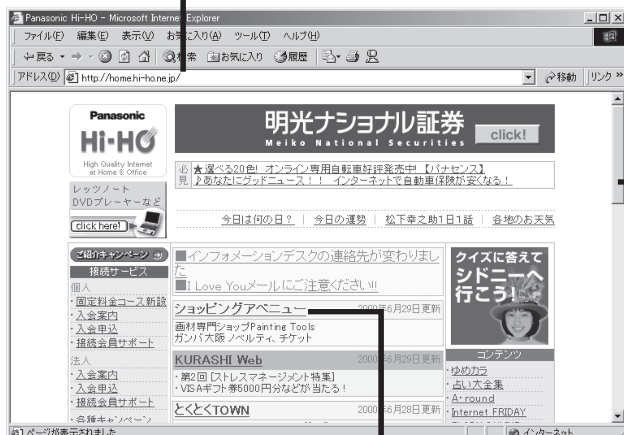
用語

URL：インターネット上でホームページなどのデータの場所を示す番地のようなものです。

インターネットに接続する

ホームページの見かた

現在開いているURL（ホームページの番地）が表示されています。



スクロールバー

ポインターが矢印から手の形になる所を クリック
その先のホームページ(リンク先)を表示できます。

[戻る]を クリック
一つ前のホームページに戻ることができます。



◀画面を最大にする
画面右上の□をクリックすると、ホームページのウィンドウを最大にすることができます。（→取扱説明書『セットアップ編』）

◀スクロールバーをドラッグ、または▼▲をクリックすると、下または上に続いているホームページを見ることができます。

戻る　進む

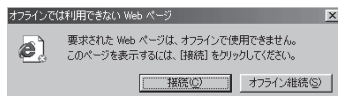
◀ 

いくつかのホームページを開いたときに、簡単に前に戻ったり、次に進んだりすることができます。いろいろなページを開いてみましょう。

◀Internet Explorerを終了するには
→42ページ

オフライン(回線断)の状態でホームページの内容を読む

見たいホームページを表示した状態で[ファイル]→[オフライン作業]をクリックする、またはInternet Explorer起動時に[オフライン作業]をクリックすると、回線を切断した状態（オフライン）でホームページを見ることができます。（料金を節約できます。）ただし、オフラインで見ることができるのは、履歴に残っているホームページのみです。それ以外のホームページに進もうとすると、下記のメッセージが表示されますので、[接続]をクリックしてください。



そのほかの便利な機能

：インターネット接続時に最初に表示されたホームページに戻ります。

：キーワード（言葉）をもとに、見たいホームページを表示します。（→次ページ）

：よく見るホームページを登録し、すぐに表示することができます。（→46ページ）

：表示したホームページのURLの履歴を見ることができます。

使いかた
コミュニケーション

見たいページを探す

「こんなホームページが見たいな」という場合、キーワードを入力して、ホームページを探すことができます。
たとえば、「海外旅行の懸賞に応募したい」ときは「懸賞」「海外旅行」などをキーワードとして見たいページを探すことができます。

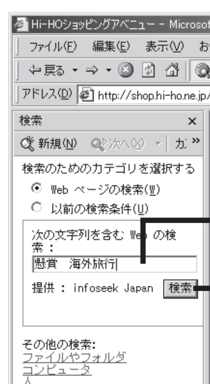
1 「Internet Explorer」を起動する。（→42ページ）



[検索]を クリック







❶ キーワードを入力する。

❷ [検索]を クリック



検索条件に合致したホームページの件数が表示されます。

☒をクリックすると、検索を終了することができます。



検索結果が表示されるので、いずれかのホームページタイトルを クリック

2 インターネットへの接続を終わる。（→42ページ）

◀ 半角/全角 を押すごとに日本語入力モードと英数字入力モードを切り換えられます。

キーワード入力のコツ
検索されたページが多すぎて探しにくい場合は、複数のキーワードを入力してください。その際、スペースや | で区切るのが一般的です。

◀インターネットへ情報を送信する場合、いくつか、警告のメッセージが表示される場合があります。確認後、[はい] をクリックします。

◀[戻る]をクリックすると、検索を始める前の画面に戻ることができます。

インターネットに接続する

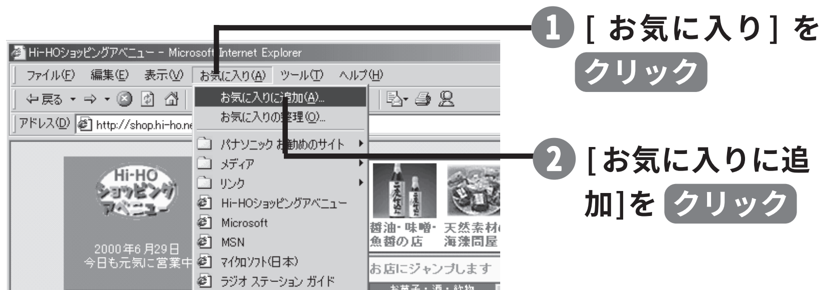
気に入ったページを登録する

よく利用するホームページは、「お気に入り」に登録しましょう。「お気に入り」に登録しておくと、「URL」を入力することなくメニューから選ぶだけで簡単に表示できます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→42ページ）

2 お気に入りに登録したいホームページを表示させる。

3 登録する。

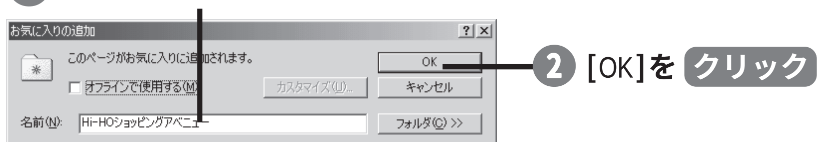


❶ [お気に入り] を クリック

❷ [お気に入りに追加]を クリック

◀ お気に入り をクリックして登録することもできます。

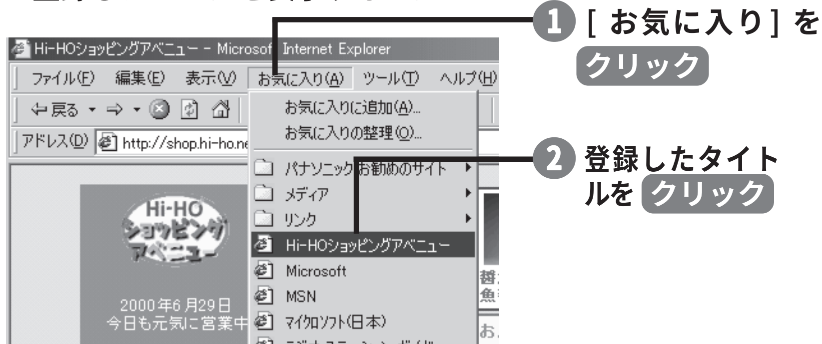
❶ タイトルを入力、確定する。



❷ [OK]を クリック

◀名前の欄をクリックすると、文字を入力できるようになります。

<登録したページを表示するには>



❶ [お気に入り] を クリック

❷ 登録したタイトルを クリック

◀「お気に入り」のメニューから削除したいときは
[お気に入りの整理] をクリックし、削除したいタイトル名をクリックして、[削除]→[はい]→[閉じる]をクリックします。

4 インターネットへの接続を終わる。（→42ページ）

最初に表示するページを設定するには

①最初に表示したいホームページを表示する。
②[ツール]→[インターネットオプション]をクリックする。
③[全般]→[現在のページを使用]をクリックし、[OK]をクリックする。

使いかた
コミュニケーション

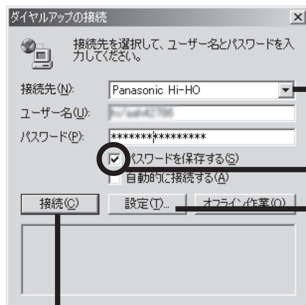
電子メールを送受信する

通信機器を接続し、プロバイダーに加入し、通信の設定が終わったら（→27〜36ページ）、メールソフトの「Outlook™ Express（アウトルックエクスプレス）」を使って、メールを送受信してみましょう。

◀以降Outlook Expressと記載します。

電子メールを送信する

1 「スタート」→「プログラム」→「Outlook Express」をクリックする。



1. 変更する場合は、▼をクリックし、接続先を選ぶ。

（→右記）

2. [設定]をクリックして、ダイヤル方法を設定する。（→41ページ）
3. [接続]を クリック





1. 登録したメールアカウントになっていることを確認する。
2. メールパスワードを入力する。（→35ページ）
3. 「OK」を クリック

（→右記）

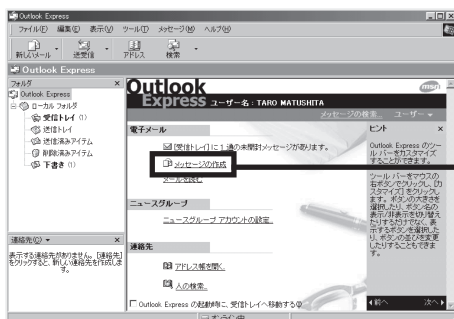
◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティ保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→37ページ）

◀左記は、「インターネットスタータ ー」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

パスワードを保存する

チェックマークを付けると、次回接続時からパスワードを入力する手間が省けます。ただし、パスワードを知らない人でも接続可能になりますので、注意してください。

2 メッセージを作成する画面を表示する。

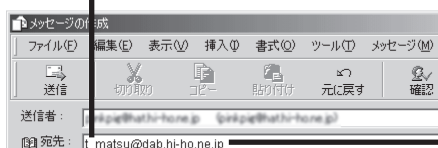


＜初期画面＞

「メッセージの作成」を クリック

3 「宛先」を入力する。

1. 「宛先」にポインター（矢印）をあわせて クリック



＜メッセージの作成画面＞

2. メールアドレスを半角の英数字で入力する。

◀最初は試しに自分宛にメールを送ってみましょう。

◀ 半角/全角 を押して英数字入力モードに切り換えると、英数字を入力できるようになります。

メールアドレスに使われる記号の入力方法

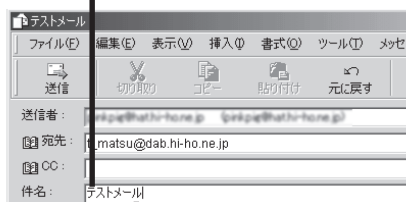
- アットマーク（@）は [@] 、ピリオド（．）は [．る] 、ハイフン（-）は [- ほ]
- アンダーバー（＿）やチルダ（〜）については→43ページ

使いかた　コミュニケーション

電子メールを送受信する

4 「件名」を入力する。

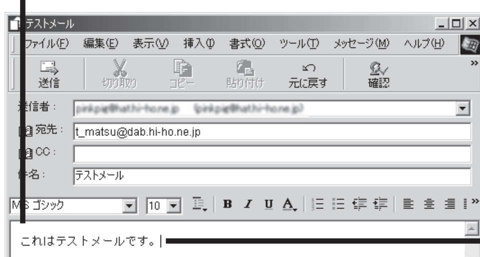
❶ ポインター（矢印）をあわせて クリック



❷ 件名（タイトル）を入力する。

5 「本文」を入力する。

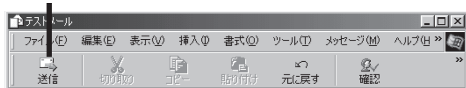
❶ ポインターをあわせて クリック



❷ 本文を入力する。

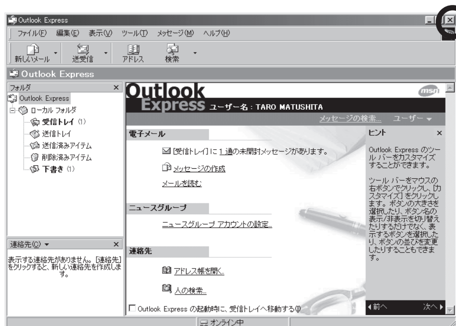
6 送信する。

[送信]を クリック

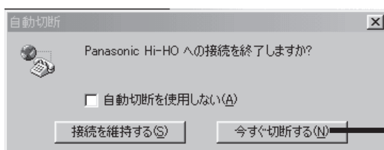


送信中はこのマークが回転します。回転が止まるまでOutlook Expressを終了しないでください。終了すると、送信されません。

＜「Outlook Express」を終わるには＞



[×]を クリック



「今すぐ切断する」を クリック

◀電子メールには、半角のカタカナと丸付き数字（①②）などの特殊文字は使わないでください。相手先で読めなくなる場合があります。必ず、前ページ手順*2*の画面で[ツール]→[オプション]→[送信]をクリックして「テキスト形式」にチェックマークを付けておいてください。

◀オフライン状態で[送信]ボタンをクリックするとメールは[送信トレイ]に入ります。[送受信]ボタンをクリックすると前ページ手順*1*の画面が表示されます。

◀送信と同時にメッセージの作成画面を終了し、「Outlook Express」の初期画面に戻ります。

送信トレイにメールを入れるには

[送信]ボタンをクリックするかわりに、メッセージの作成画面で[ファイル]→[後で送信する]をクリックしてください。

[送信トレイ]の中のメールの送信

[送受信]ボタンをクリックすると送信されます。

また、Outlook Express終了時に[送信トレイ]にメールが残っている場合は、送信するかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀「自動切断」画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

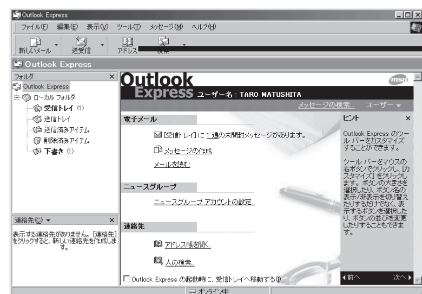
◀すでにインターネットに接続している状態でOutlook Expressを起動した場合、「自動切断」画面が表示されません。手動で接続を終了してください。

アドレス帳を利用する

よくメールを送る相手のメールアドレスは、アドレス帳に登録しておくと便利です。

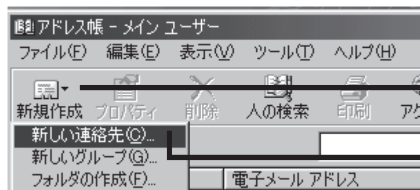
アドレス帳に登録する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
(→47ページ)

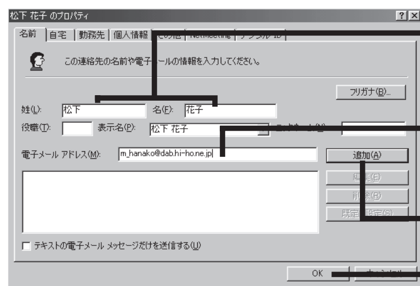


◀メッセージの作成画面（→47ページ）からアドレス帳に登録する場合は、「ツール」→「アドレス帳」を順にクリックしてください。
◀受信メール一覧画面（→52ページ）でも[アドレス]をクリックしてアドレス帳に登録することができます。

2 アドレス帳に新規登録する。



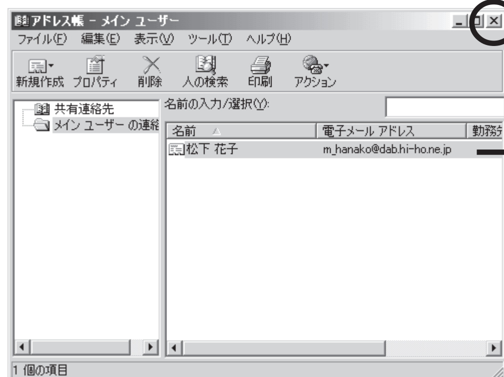




◀ 半角/全角 を押すごとに、日本語入力モードと英数字入力モードが切り換わります。

◀表示名
「姓」と「名」の欄に入力した内容がそのまま「表示名」に表示されます。必要に応じて変更してください。「表示名」は、アドレス帳からメールアドレスを入力したときに、「宛先」として表示されます（→次ページ）。

3 アドレス帳を終わる。



電子メールを送受信する

登録したメールアドレスを宛先に入力するには

1 「Outlook Express」のメッセージの作成画面を表示する。
（→47ページ）

2 アドレス帳のメールアドレスを宛先に入力する。





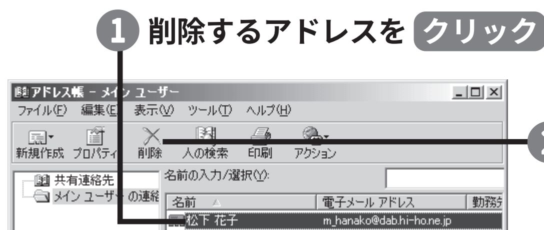


「宛先」には、登録した「表示名」が表示されます。

アドレス帳からメールアドレスを削除するには

1 アドレス帳の画面を表示する。（→前ページの手順1）

① 削除するアドレスを クリック



③ 確認メッセージが表示されたら[はい]を クリック

2 アドレス帳を終わる。



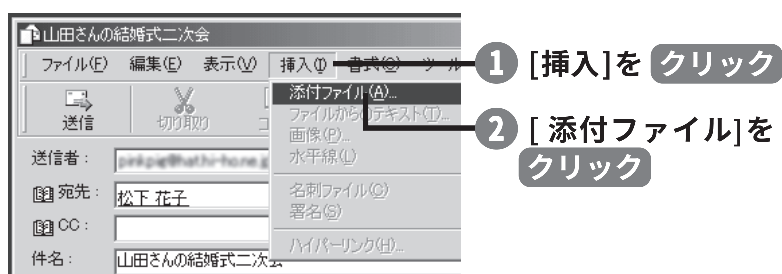
使いかた
コミュニケーション

メールにファイルを添付して送る

まとまった量の文書や画像の入った文書をメールに添付して送ることができます。

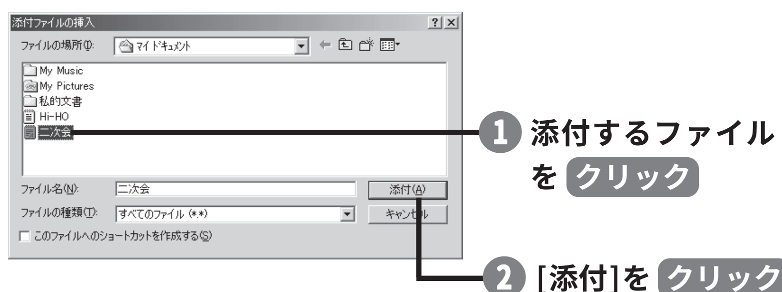
1 メッセージの作成画面を表示し、宛先、件名、メッセージを入れる。（→47、48ページ）

2 ファイルを添付する。



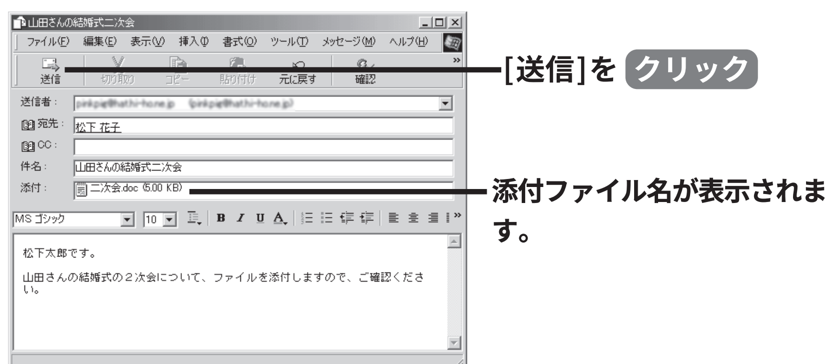
❶ [挿入]を クリック

❷ [添付ファイル]を クリック



❶ 添付するファイルを クリック

❷ [添付]を クリック



[送信]を クリック

添付ファイル名が表示されます。

◀「マイ ドキュメント」フォルダーに保存したファイルを添付する例で説明します。

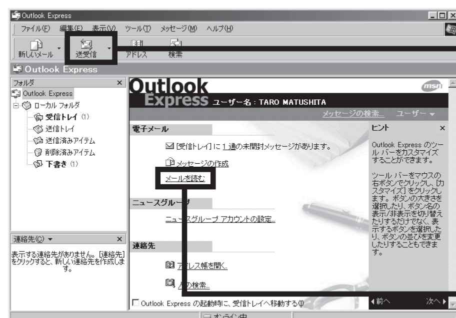
◀「Outlook Express」を終わるには→48ページ

◀「メッセージの作成画面」のみを開いた状態で、添付ファイル付きのメールを送信すると、送信後自動的に切断するように設定していても、切断の確認画面が表示される場合があります。このときすでに接続は切断されています。「今すぐ切断する」をクリックしてください。

電子メールを送受信する

電子メールを受信する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。（→47ページ）



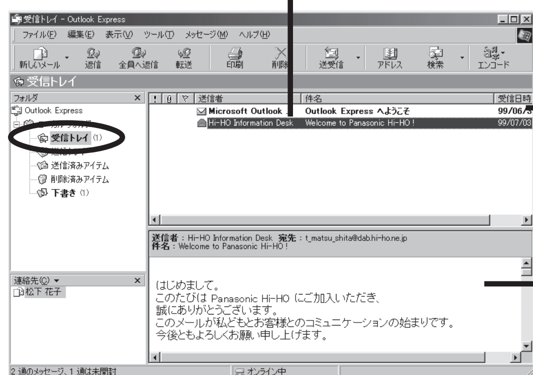
❶「送受信」を クリック
メールを受信すると同時に、「送信トレイ」にメールがある場合は、送信します。

❷[メールを読む]を クリック

2 受け取ったメールを読む。

<受信メール一覧画面>

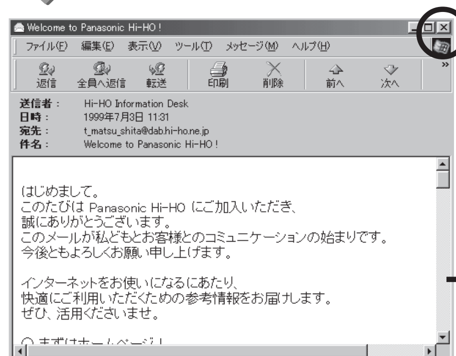
目的のメールの件名を ダブルクリック



未読メールは太字で表示されます。

反転しているメールの一部が表示されます。





メールを読み終わったら[×]を クリック

[▼][▲]で上下に隠れている部分を読んでください。

トレイの種類

- 受信トレイ
  受信したメールが保管されます。（左記画面）
- 送信トレイ
  作成したメールを一時的に保管する場所です。複数個のメールが送信トレイにたまったら[送受信]をクリックして、まとめてメールを送信できます。
  （送信トレイにメールを入れるには→48ページ）
- 送信済みアイテム
  送信したメールが保管されます。
- 削除済みアイテム
  削除したメールはここに一時保管されます。（→下記）

◀表示するトレイを変更する場合、目的のトレイをクリックしてください。

添付ファイルを受け取ったら

添付： 二次会.doc (5.00 KB)

添付ファイルのアイコンをダブルクリックし、画面の指示に従って添付ファイルを開くか、保存するかしてください。その際はウィルスチェックプログラムを常駐させておくことをおすすめします。

受け取ったメールを削除するには

受信メール一覧画面で削除したいメールにポインター（矢印）をあわせて、[Del]を押すか[削除]ボタンをクリックします。その時点で、削除済みアイテムに一時保管されます。
削除済みアイテムからも削除するにはそのメールにポインターをあわせて、[Del]を押すか[削除]ボタンをクリックしてください。また、「Outlook Express」終了時にまとめて削除するよう設定することもできます。

受け取ったメールに返事を出すには

受信メール一覧で[返信]ボタンをクリックします。

使いかた
コミュニケーション

LANに接続する

LAN（Local Area Network）とは、会社や学校など小規模な範囲で運用されるネットワーク環境をいいます。
本機はLAN機能を内蔵しているため、LANカードなどを使用することなく、ネットワークコンピューターとして使うことができます。

LANへの接続を行う

工場出荷時のWindows上の設定では、LAN機能を使用できる設定になっています。以下の手順に従い、LANの接続を行ってください。

1 ケーブルを接続する。



① LANのコネクター部（品）のカバーを開ける。

② LANケーブルで本機とネットワークシステム（サーバー、 HUBなど）を接続する。
突起部をコネクターの向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

お願い

- コネクター部分にカバーが付いているLANケーブルは、接続できないことがあります。事前にご確認ください。
- ネットワークを正常に動作させるために100 m未満のカテゴリー5のツイストペアケーブルを使用してください。

<工場出荷時、設定済み>

2 電源を入れてセットアップユーティリティを起動し、「内蔵LAN」が「有効」になっているか確認する。（→76、80ページ）

◀ 工場出荷時は、セットアップユーティリティの「内蔵LAN」は「有効」に設定されています。

3 接続するLAN環境に合わせて、プロトコルなどの各種設定を行う。
詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

データ転送中の場合

スタンバイや休止状態に入ると正常に通信できません。スタンバイや休止状態には入らないでください。

LANを使用しない場合

LANを使用可能（工場出荷時）に設定していると、バッテリーの稼働時間が多少短くなります。LANを使用しないときは、セットアップユーティリティで「内蔵LAN」を「無効」に設定しておくことをおすすめします。（→80ページ）

LANに接続する

内蔵 LAN によるリジューム機能（内蔵 LAN Wake Up 機能）

ネットワークサーバーからのアクセスにより電源オフ*、スタンバイまたは休止状態のコンピューターをリジュームさせる機能です。この機能を使用するには、LANによるスタンバイまたは休止状態からのリジュームが可能なネットワーク環境が必要です。

*Windows2000上では、電源オフ時にはリジュームしません。

（フロッピーディスクから起動したMS-DOS上ではリジュームします。）

<使用時のお願い>

・必ず、ACアダプターを接続し、電力の供給が可能な状態にしてください。
・LANを使用可能に設定してください。（→前ページ）
・パスワードについて
　ーセットアップユーティリティでパスワードを設定していても、リジューム時にはパスワードの入力が要求されません。
　ー「コントロールパネル」の「電源オプション」の「詳細」で「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。
・「シャットダウン」画面で「シャットダウン」を選んだ場合または4秒間電源スイッチをスライドして電源を切った場合、LAN Wake Up機能は動作しません。
・リジューム時、画面には何も表示されません。キーボードまたはトラックボールを操作すると元の画面が表示されます。→19ページ

詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

<設定の方法>

①「コントロールパネル」の「システム」の「ハードウェア」で［デバイスマネージャ］をクリックする。
②[ネットワークアダプタ]の[Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。
③[電源の管理]をクリックし、「このデバイスでコンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」および「電力の節約のためにコンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」の左側の□をクリックしてチェックマークを付ける。
　再度クリックしてチェックマークを外すと無効になります。

ネットワークコンピューターとして使う場合

用途に応じてその他いくつかの設定が必要となります。詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

スクリーンセーバーを使用する場合

スクリーンセーバーを使用する場合（プライベートキーをスクリーンセーバーの実行／解除に使用する場合を含む→21ページ）は、「モニタの電源を切る」を「なし」以外に設定すると、ディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできなかったりする場合があります。

HUB ユニットのリンクランプが点灯せず、ネットワーク機能が使えない場合

①「コントロールパネル」の「システム」の「ハードウェア」で[デバイスマネージャ]をクリックする。
②［ネットワークアダプタ］の[Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。
③[詳細設定]をクリックする。
④「プロパティ」から「Link Speed & Duplex」を選び、「値」をお使いのHUBユニットにあった通信速度に設定して[OK]をクリックする。

用語

HUBユニット　：主にネットワーク環境などで、複数のコンピューターや機器を接続するときに使われる集積装置。

赤外線通信をする

本機の赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機能を持ったほかのコンピューターとケーブルを接続することなく通信することができます。

1 コンピューター上で、赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく。

- セットアップユーティリティの「詳細」メニューの「赤外線通信ポート」を「338/IRQ5」に設定する。（工場出荷時、設定済み→80ページ）
- 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の「ワイヤレスリンク」ですべての項目（３つ）の□欄にチェックマークが付いているのを確認する。

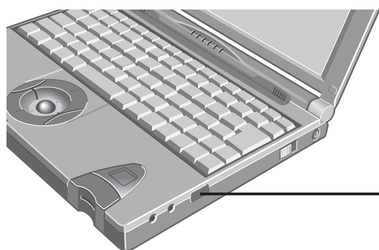
2 通信先のコンピューターで赤外線通信ソフトを起動する。

（「ワイヤレスリンク」を使う場合は起動する必要はありません。）

3 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

<設置時に気をつけること>

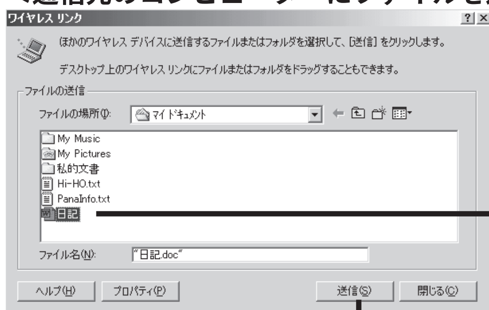
- お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
- ポート間の距離を20㎝～50㎝の範囲に設置する。



4 デスクトップの[ワイヤレスリンク]アイコンをダブルクリックする。

5 赤外線通信を行う。

<通信先のコンピューターにファイルを送信する>



6 通信先のコンピューターで「はい」をクリックし、受信が完了した後、「閉じる」をクリックする。

◀ Windows では4 Mbpsの通信速度に対応しておりません。

◀ 通信先のコンピューター上での赤外線通信の設定や送受信方法については、そのコンピューターに付属の説明書をご覧ください。

通信先として使用可能なコンピューター

以下のOSを持つコンピューター

Windows 98/Me/2000

（その他のＯＳを持つコンピューターとは通信できません。）

お願い

◀ 以下のような場合、正常に通信できません

- お互いのポート間に障害物があるとき
- 近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
- 直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき
- 通信中にコンピューターを動かしたとき

◀ 通信先のコンピューターの赤外線を検知すると、デスクトップに[ワイヤレスリンク]のアイコンが表示されます。

ファイルの受信先

本機に送信されたファイルは「C:\WINDOWS\デスクトップ」に保存されます。（デスクトップにファイルのアイコンが自動で作成されます。）

通信が途切れたり、送信側のコンピューターが正常に動かなくなる場合

複数のファイルをまとめて送信している場合は、分割して送信してみてください。また、１つのファイルであってもファイルの容量が大きい場合は、ファイルを圧縮してから送信してみてください。（ファイルを圧縮するには別途、圧縮用プログラムが必要です。）

省電力機能を使う

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力機能のコツ

- 使わないときは電源を切る　→取扱説明書『セットアップ編』
- Fn + F1 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する→88ページ
- Fn + F7 でスタンバイ状態、または Fn + F10 で休止状態にしてから席を外す→18ページ
  操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定する　→下記
  しばらくの間コンピューターを放置したときに自動的にスタンバイや休止状態に入ったり、LCDやハードディスクドライブの電源を切ったりすることができます。
- サウンド関連の省電力機能を使う　→59ページ
  サウンド機能の消費電力を抑えることができます。
- インテル®SpeedStep™ テクノロジアプレットを使う→60ページ

◀省電力のためキーやマウスの処理が遅く感じられることがあります。

お願い

データの転送中などは、スタンバイや休止状態に入らないでください。（→19ページ）

◀ACアダプターとバッテリーパックの使用状態に合わせてパフォーマンスを切り換え、消費電力を抑えることができます。

「電源オプション」の省電力機能

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を クリック

2 [電源オプション]を ダブルクリック

3 [電源設定]タブを クリック

「電源設定」から選ぶ



❶ ▼をクリックして、「ホーム/オフィスデスク」「ポータブル/ラップトップ」「常にオン」の中から選択します。

❷ [OK]を クリック

◀工場出荷時は「ポータブル／ラップトップ」に設定されています。システムスタンバイなどのタイムアウト機能の設定を変更した後、再度、工場出荷時の設定に戻す場合は、次ページの表を参照して設定しなおしてください。

「電源設定」の工場出荷時の設定は以下のとおりです。

「ポータブル／ラップトップ」

項目	電源に接続	バッテリ使用
モニタの電源を切る	15分後	5分後
ハードディスクの電源を切る	30分後	5分後
システムスタンバイ	なし	5分後
システム休止状態	なし	10分後

お願い

「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーを設定する場合（プライベートキーをスクリーンセーバーの実行/解除に使用するときを含む）は、「モニタの電源を切る」を「なし」に設定してください。「なし」以外に設定すると、ディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできなかったりする場合があります。

各タイムアウト機能について

<モニタの電源を切る>

コンピューターを放置してから、設定した時間後に、ディスプレイの電源が切れます。ディスプレイの電源を入れるときは、キーボードやマウスを操作してください。

<ハードディスクの電源を切る>

コンピューターを放置してから（ハードディスクへのアクセスがなくなってから）、設定した時間後に*、ハードディスクの電源が切れます。ハードディスクの電源を入れるときは、ハードディスクへのアクセスが必要です。

*設定した時間が経過してもハードディスクの電源が切れない場合、Windowsにより自動的にハードディスクへのアクセスが発生したと考えられます。

<システムスタンバイ>

コンピューターを放置してから、設定した時間後に、使用中の画面やファイルをメモリー内に保存し、メモリー以外のすべての電源が切れます。操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

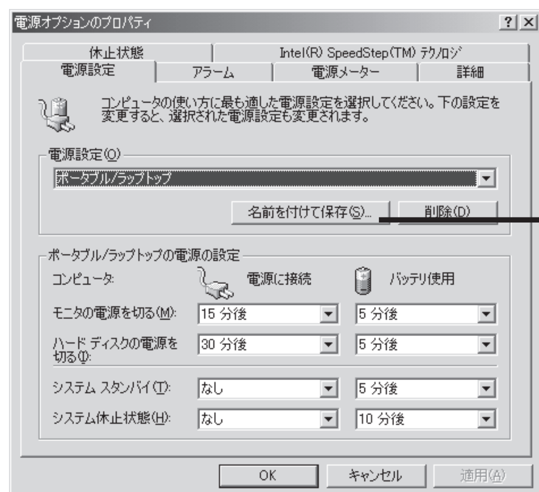
<システム休止状態>

コンピューターを放置してから、設定した時間後に、使用中の画面やファイルをハードディスク内に保存し、すべての電源が切れます。操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

省電力機能を使う

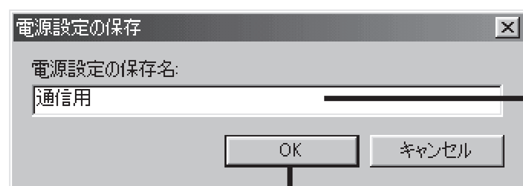
「電源設定」を追加する

「電源設定」を追加して、タイムアウト機能を新しく設定することができます。



クリック

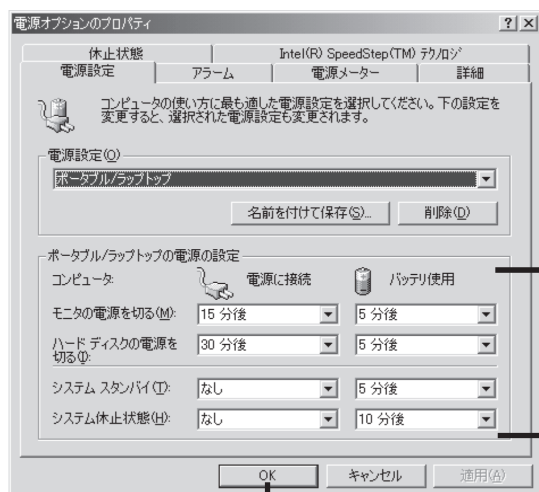




1 名前を入力する。

2 [OK]を クリック





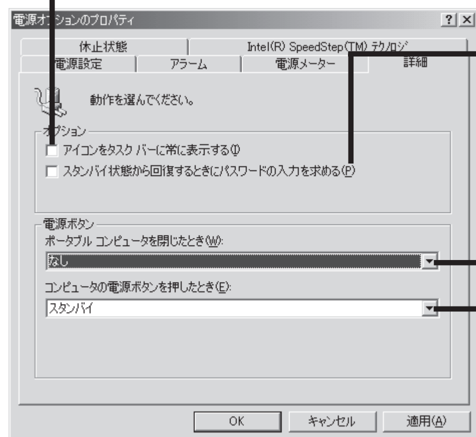
1 各タイムアウト機能を設定する

◀設定した時間は、1分ほどの誤差を生じることがあります。

2 [OK]を クリック

「詳細」画面

左側の□にチェックマークを付けると、タスクバーに「電源オプション」アイコンが表示されます。



左側の□にチェックマークを付けると、スタンバイおよび休止状態からのリジューム時にパスワード入力が要求されます。(→19ページ)

→12ページ

→18ページ

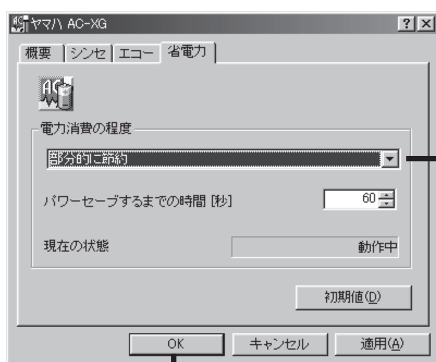
◀「電源オプションのプロパティ」の「詳細」タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

◀工場出荷時には、「オプション」設定されていません。

サウンド関連の省電力機能

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[ヤマハ AC-XG]を ダブルクリック

2 「省電力」タブを クリック



① ▼をクリックして、「通常」「部分的に節約」「普通に節約」「大幅に節約」の中から選択します。

② [OK]を クリック

◀「通常」以外に設定すると「パワーセーブまでの時間」を設定することができます。
工場出荷時は「部分的に節約」で「60秒」に設定されています。

お願い

マイクなどを使う場合は「通常」または「部分的に節約」に設定してください。「普通に節約」または「大幅に節約」に設定すると音がならないことがあります。

◀音楽再生中に、省電力のためディスプレイの電源が切れると、正常に再生されないことがあります。

使いかた

モバイル

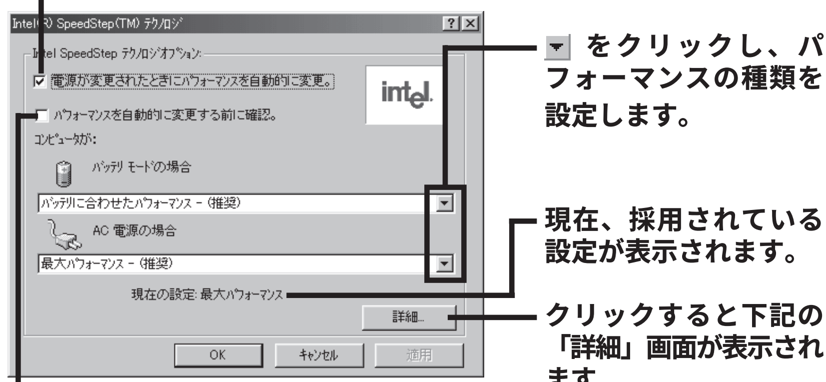
省電力機能を使う

インテル®SpeedStep™テクノロジアプレット

インテル®SpeedStep™テクノロジアプレット*を使用すると、ACアダプター接続時とバッテリーパックのみで使用時とでパフォーマンスを自動的に切り換え、消費電力を抑えることができます。

1 タスクバーの をダブルクリックする。

ACアダプター接続時とバッテリーパックのみで使用時とで自動的にパフォーマンス（バッテリーモードの場合⇔AC電源の場合）を切り換える場合は、ここにチェックマークを付けます。



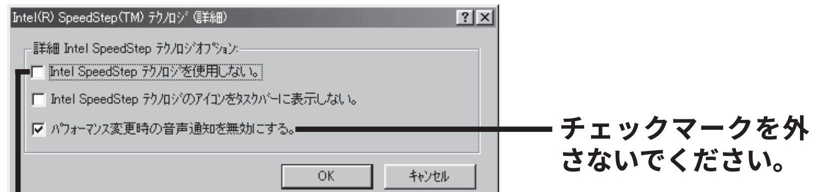
▼ をクリックし、パフォーマンスの種類を設定します。

現在、採用されている設定が表示されます。

クリックすると下記の「詳細」画面が表示されます。

パフォーマンスを自動的に切り換えるときに確認メッセージを表示させたい場合は、ここにチェックマークを付けます。

<「詳細」画面>



チェックマークを外さないでください。

ここにチェックマークを付けると、アプレットの設定画面からはパフォーマンスの設定ができなくなります。パフォーマンスの種類の設定は、セットアップユーティリティの「省電力」メニューの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」から行うことができます。ただし、ACアダプターの抜き差しにより自動的にパフォーマンス（バッテリーモードの場合⇔AC電源の場合）を切り換える機能は働きません。

2 各項目を設定後、[OK]をクリックする。

*以降、アプレットと表記します。

◀アプレットの設定はセットアップユーティリティの「省電力」メニューの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」の設定と連動しています。（→下記）

◀現在の設定に従ってアイコンの形が異なります。
最大パフォーマンス
バッテリに合わせたパフォーマンス

その他の起動方法
- を前クリックして[プロパティ]をクリックします。
- 「コントロールパネル」の「電源オプション」で［インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ］タブを選択します。

◀「パフォーマンス変更時の音声通知を無効にする」のチェックマークを外していても、キーボードによる操作や「Volume Control」画面でミュートになっている場合には、音声通知が聞こえません。

セットアップユーティリティの「省電力」メニューの「SpeedStep™テクノロジ」との対応

Intel®SpeedStep™テクノロジアプレット		セットアップユーティリティ
バッテリモードの場合	AC電源の場合	Intel(R)·SpeedStep(TM)テクノロジ
バッテリに合わせたパフォーマンス	最大パフォーマンス	自動設定
最大パフォーマンス	最大パフォーマンス	常に最大速
バッテリに合わせたパフォーマンス	バッテリに合わせたパフォーマンス	常に省電力

セットアップユーティリティの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」を変更すると（→84ページ）、上記対応表に従って、アプレットの設定が変更されます。また、アプレットの設定を変更してもセットアップユーティリティの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」の設定が変更されます。
アプレットの設定で「バッテリモードの場合」を「最大パフォーマンス」に設定し、「AC電源の場合」を「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定した場合（セットアップユーティリティには対応する設定なし）は、コンピューターを再起動すると、その一つ前に設定した状態に戻ります。

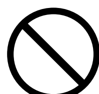
バッテリーパックを使う

ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。

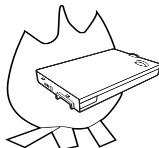
バッテリーパックに関する注意

⚠危険

火中に投入したり加熱したりしない

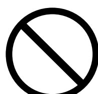


禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

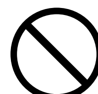


禁止

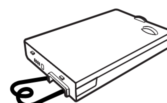


発熱･発火･破裂の原因になります。

プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

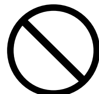


禁止

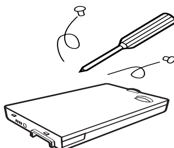


発熱･発火･破裂の原因になります。

クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解･改造をしたりしない



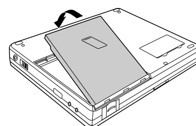
禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

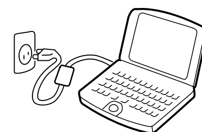




CF-B5シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

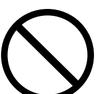
指定された方法で充電する



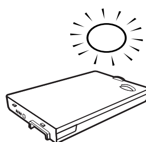


取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱･発火･破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電･使用･放置をしない



禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

- ●交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。
- ●水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。
- ●端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。
- ●万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

- ●使用環境温度5℃～35℃の範囲で操作してください。
  使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- ●通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

バッテリーパックを使う

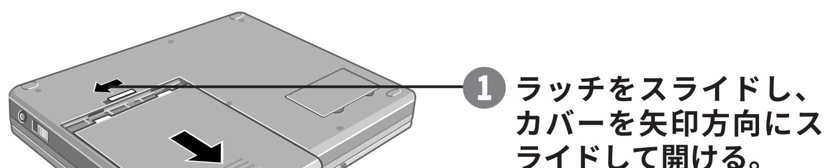
取り付けかた/取り外しかた

本機で使用できるバッテリーパックは、付属のバッテリーパックと以下の別売りのバッテリーパックです。
別売りバッテリーパック
・バッテリーパック：品番 CF-VZSU14J（付属品と同等）

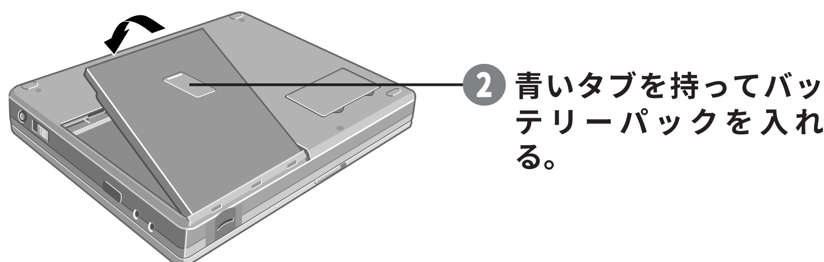
1 操作を終わり、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

2 本体を裏返す。

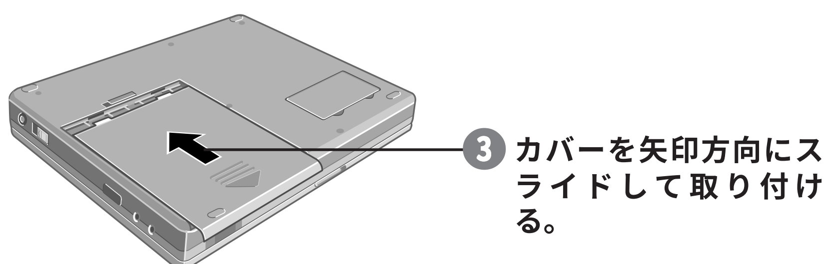
3 バッテリーパックを取り付ける／取り外す。
<取り付ける場合>



❶ ラッチをスライドし、カバーを矢印方向にスライドして開ける。

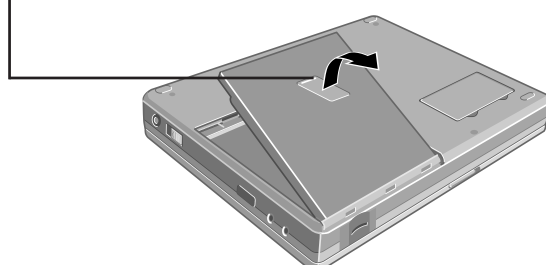


❷ 青いタブを持ってバッテリーパックを入れる。



❸ カバーを矢印方向にスライドして取り付ける。

<取り外す場合>
❶ ラッチをスライドしながら、カバーを開ける。
❷ 青いタブを持ってバッテリーパックを引き抜く。



❸ カバーをスライドして取り付ける。

お願い
指定のバッテリーパック以外は使用しないでください。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』



不要になった充電式電池（バッテリーパック）は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

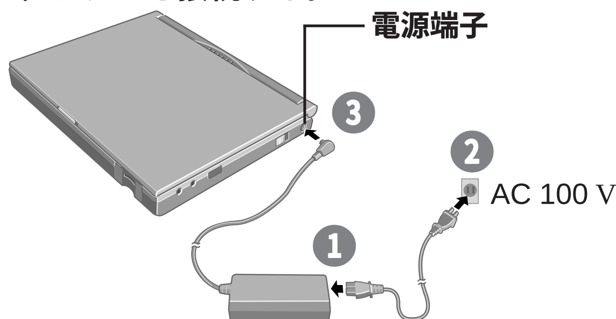
使用済み充電式電池（バッテリーパック）の届け先
お買い上げの販売店、または最寄りの充電式電池リサイクル協力店へ。
詳しくは、社団法人電池工業会にご確認ください。
電話：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/
（2001年3月現在）

使いかた
モバイル

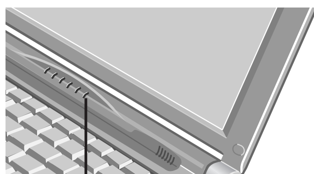
充電のしかた

付属のバッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。
コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

1 ACアダプターを接続する。



2 充電状態を確認する。



バッテリー状態表示ランプ

＜充電時間＞

電源	入	約3 時間
	切	約3 時間

＜稼働時間＞

約3 時間

◀ACアダプターを取り外す場合は、3 → 2 → 1 の手順で行ってください。

◀充電を完了するとバッテリー状態表示ランプが緑色に点灯します。

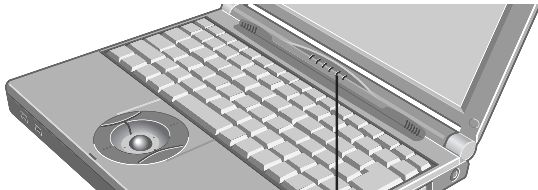
充電時間
使用条件により長くかかることがあります。（低温の場合など）
左記の電源入時の充電時間は最短の場合です。コンピューターの動作状態により変わります。

稼働時間
左記はLAN使用可能時（工場出荷状態）、LCDバックライト輝度最低時の稼働時間です。稼働時間はその他使用条件によって異なります。
LANを使用不可に設定すると、バッテリーの稼働時間が多少長くなります。
LANを使用しないときは、セットアップユーティリティで「内蔵LAN」を「無効」に設定しておくことをおすすめします。（→80ページ）
電源が切れている状態でも、約90 mWの電力を消費します。バッテリーパックの場合、満充電していても約2週間でバッテリー残量がなくなります。LAN Wake Up機能を使用しない場合は無効にしておくことをおすすめします。

充電についてのお願い

- 長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30 ％ ～ 40 ％程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
- バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
- 本機では過充電を防ぐため、一度、100 ％になった後は、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90 ％前後になるまで放電してから充電するようにしてください。
- バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。
- 使用環境温度（5 ℃～35 ℃）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できないことがあります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）この場合、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。
- 充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。この場合、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。

バッテリー状態表示ランプについて



バッテリー状態表示ランプ 🔋

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯（同時にアラーム音が鳴ります。）	バッテリー残量が少ない（残量約10%以下） 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。 充電せずに電源を入れたままにしておくと、スタンバイ状態などに入ります。（「コントロールパネル」の「電源オプション」の「アラーム」の設定により、動作は異なります。→66ページ）
オレンジ色に点滅	充電できない ・バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できない可能性があります。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。 ・消費電力が大きすぎると、充電できなくなる場合があります。消費電力の大きい周辺機器（コンピューター本体から電源供給されるCD-ROMドライブなど）を使用している場合には、それらの周辺機器の使用を控えるなどしてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。

◀バッテリーパックの状態は内蔵バッテリー状態表示ランプ（🔋）に表示されます。

バッテリー残量の確認

バッテリーのみで使用することが多い場合、こまめに残量確認するようにしてください。バッテリー残量が少なくなったら、ACアダプターを接続してください。
バッテリー残量を確認するには、以下の4つの方法があります。

- キー操作（Fn + F9）で確認する。
- 電源メーターで確認する。
- アラームで確認する。
- バッテリー状態表示ランプで確認する。

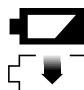
キー操作(Fn +F9)による残量確認

電源が入っている状態で Fn を押しながら F9 を押している間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

＜バッテリー装着時（の一例）＞

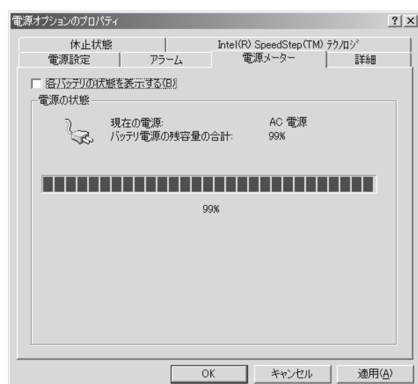


＜バッテリー未装着時＞



電源メーターによる残量確認

［スタート］→［設定］→「コントロールパネル」の[電源オプション]をダブルクリックし、「電源メーター」をクリックして確認することができます。



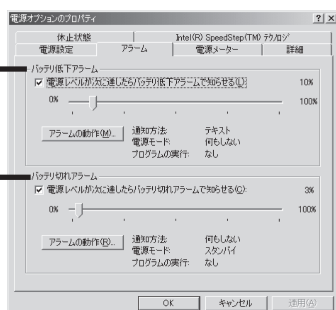
◀数値と、実際の残量は多少異なる場合があります。
◀本機のバッテリーパックは、残量補正機能を持っています。この機能が働くと、急に残量表示が変化したり、一定のまま変化しなかったりすることがあります。
残量補正機能とは
使用環境などの影響により、不正確になった残量表示を正確な値に戻す機能をいいます。
残量表示が不正確になる原因として、バッテリー容量の計測・学習が正しく行われていないことが考えられます。この場合、一度、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。（→67ページ）

アラームによる残量確認

アラーム機能により確認することもできます。
「コントロールパネル」の[電源オプション]をダブルクリックし、「アラーム」をクリックして設定します。

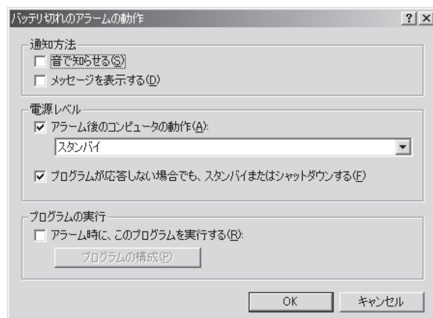
＜バッテリ低下アラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は10%に設定されています。



＜バッテリ切れアラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの消耗をアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「3%」に設定されています。
また、「アラームの動作」ボタンをクリックすると「通知方法」、「電源レベル」および「プログラムの実行」を設定することができます。



通知方法　「音で知らせる」「メッセージを表示する」から選択します。工場出荷時は「メッセージを表示する」に設定されています。

電源レベル　工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」に設定されています。

プログラムの実行　工場出荷時は、「アラーム時にこのプログラムを実行する」は設定されていません。チェックマークを付けて［プログラムの構成］をクリックすると、実行したいプログラムを設定することができます。

◀ Fn + F4 や Fn + F5 のキー操作で音量をミュートしている場合、アラームは鳴りません。

アラームが鳴ったら
充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。

「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合は
この機能により、コンピューターが電源オフ、休止状態またはスタンバイ状態になったときは、ACアダプターを接続してください。ACアダプターを接続せずに起動およびリジュームすると、Windowsが正常に動作しなかったり、以降アラーム動作が働かなくなる場合があります。

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。
お買い上げ後一度は、以下の手順に従って、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

＜準備するもの＞

- **フロッピーディスクドライブ（付属）**
- **2HDのフロッピーディスク1枚（別売）**

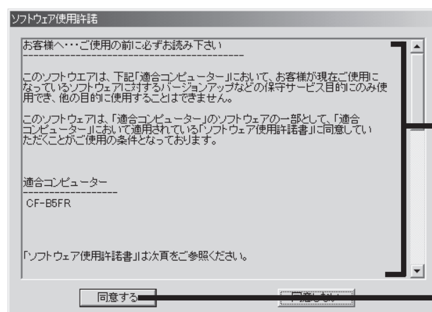
1 **バッテリーパック、ACアダプター、フロッピーディスクドライブを取り付ける。**

◀その他フロッピーディスクドライブ以外の周辺機器はすべて取り外しておいてください。

◀フロッピーディスクの使いかたについて詳しくは→69ページ

2 **ポインターが砂時計から通常のものに戻り、HDDアクセスランプが消灯していることを確認して、「スタート」→「プログラム」→「Panasonic」→「バッテリーリフレッシュ　ディスク作成」をクリックする。**





「ソフトウェア使用許諾」をよく読む。

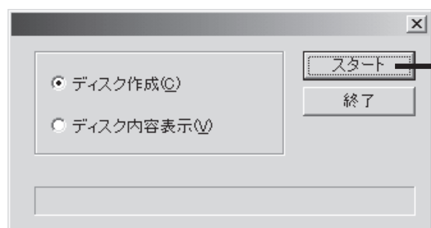


［同意する］を クリック

お願い

次ページ手順4の操作が完了し、バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

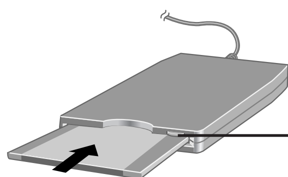
3 **バッテリーリフレッシュディスクを作成する。**



［スタート］を クリック



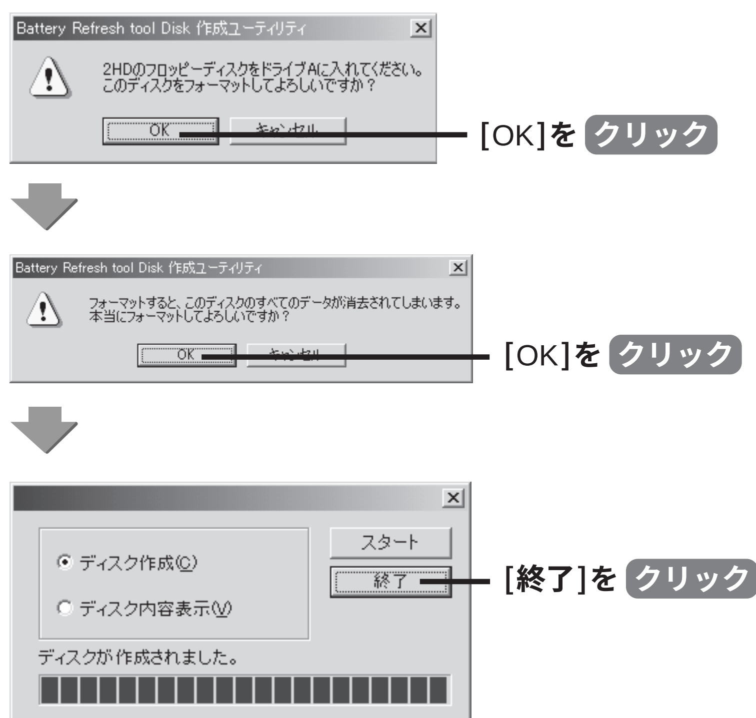
フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットする。



フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。



（次ページへ続く）



◀作成したバッテリーリフレッシュディスクは何度でも使うことができます。バッテリーリフレッシュディスクだけ作成しておいて、あとで放電を行う場合は、手順*1*→バッテリーリフレッシュディスクをセットする。→手順*4*の順に操作してください。

4 放電ツールを実行する。

1. セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を「有効」に設定する。（工場出荷時は設定済み→80ページ）
2. バッテリー状態表示ランプが緑色になっていることを確認して、コンピューターを再起動する。
3. 「Start battery refresh. After fully discharging, charging the battery automatically. Are you sure? (Y/N)」と表示されたら Y を押す。
4. 「バッテリーリフレッシュディスク」をドライブから取り出す。

この後、以下のように自動的に処理が流れます。

バッテリー状態表示ランプが消灯する



バッテリー状態表示ランプが赤点灯する



自動的にコンピューターの電源が切れる



充電が始まる

バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯したらコンピューターの電源を入れて使用できます。

お願い

- 放電ツール実行後、必ず、バッテリーリフレッシュディスクを取り出してください。セットしたまま、コンピューターの電源が切れるとバッテリーリフレッシュディスクが壊れる場合があります。
- 放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまで（約2時間かかります）はコンピューターを操作しないでください。

◀充電開始時、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点滅した場合は、「充電についてのお願い」（→63ページ）をご覧ください。

周辺機器を拡張する

ここでは、フロッピーディスクドライブおよび別売りの周辺機器（外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、RAMモジュールの取り付けかた、PCカードのセットのしかたなどについて説明します。

◀各周辺機器の設定・準備などについては各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

USB機器（フロッピーディスクドライブなど）を使う

USB対応のいろいろな周辺機器を使用することができます。ここでは、付属のフロッピーディスクドライブを例に説明します。

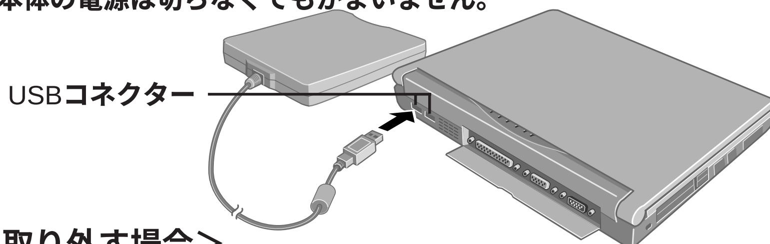
◀USB機器の取扱説明書もご覧ください。

フロッピーディスクドライブの取り付け/取り外し

付属のフロッピーディスクドライブ(品番:CF-VFDU03)をご使用ください。

<取り付ける場合>

本体の電源は切らなくてもかまいません。



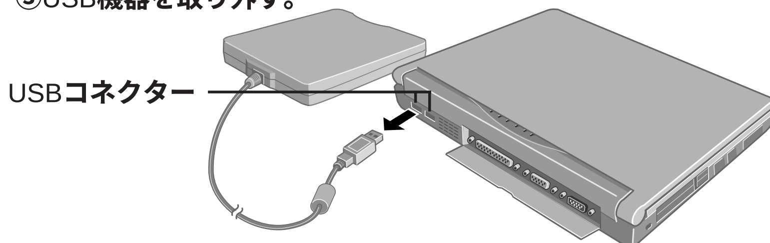
◀ドライバーをインストールする必要はありません。

◀フロッピーディスクドライブを取り付けると[マイコンピュータ]に（A:）が表示されます。
また、フロッピーディスクドライブを取り外すと、（A:）は表示されなくなります。

<取り外す場合>

タスクバーに が表示されている場合は、以下の手順で終了操作を行ってから取り外してください。

①タスクバーの をクリックし、取り外す機器を選ぶ。
②「...は安全に取り外すことができます。」と表示されたら[OK]をクリックする。
③USB機器を取り外す。

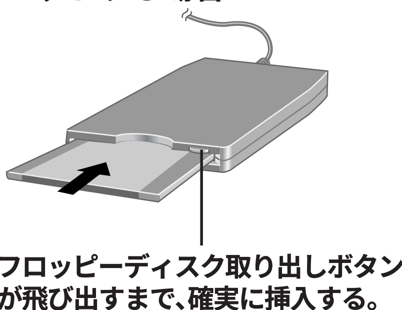


お願い

- ファーストエイドFDなどから起動してMS-DOSモードでお使いの場合は、セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を「有効」に設定しておいてください。（工場出荷時は「有効」に設定されています。→80ページ）また、スタンバイに入らないでください。
- 同時に2つのフロッピーディスクドライブを使用することはできません。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。
- 「フロッピーディスクのデータ保護」（→9ページ）もご覧ください。

フロッピーディスクのセット／取り出し

<セットする場合>



フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

<取り出す場合>



ドライブアクセスランプが消灯していることを確認した後、取り出しボタンを押す。

使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量

フロッピーディスクには「2HD」（1.44 Mバイト/1.2 Mバイト）と「2DD」（720 Kバイト）の２種類があります。

用 語

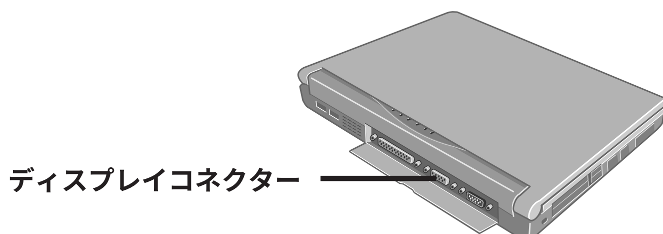
読み出し　：フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」といいます。
書き込み　：メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
フォーマット(初期化)　：新しいディスクを、磁気的に区画整理する作業をいいます。

周辺機器を拡張する

外部ディスプレイを使う

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 外部ディスプレイを、本機のディスプレイコネクターに接続する。



3 外部ディスプレイ→本機の順に電源を入れる。

画面の表示先を設定する

起動時にどの画面に表示するかを設定することができます。

◀Windows上ではこの設定は関係ありません。外部ディスプレイを接続してWindowsを起動すると、外部ディスプレイと内部LCDの両方に表示されます。

1 セットアップユーティリティを起動する。（→76ページ）

2 ← → で「メインメニュー」を選ぶ。

3 ↑ ↓ で「ディスプレイ」を選び、Enter をクリックする。

4 ↑ ↓ で「表示先」を選び、Enter をクリックする。

キー操作による切り換え
Fn + F3 で表示先を切り換えることもできます。
詳しくは→88ページ

5 F10 をクリックし、「はい」をクリックする。

◀設定できる画面領域・色数については79ページをご覧ください。

プライベートキーでスクリーンセーバーを解除できない

プライベートキーで解除できるように設定していても（→21ページ）、スクリーンセーバーの種類によっては、プライベートキーでは解除できない場合があります。その場合は、キーやトラックボールなどを操作し、パスワード入力画面が表示されたらAdministratorのパスワードを入力してください。

省電力機能を使うとき

「電源オプション」（→56ページ）の「電源設定」で「モニタの電源を切る」を「なし」に設定してください。「なし」以外に設定すると、正常に表示できない場合があります。

RAMモジュール（カード）を使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティの「メイン」メニュー（→78ページ）で確認することができます。
工場出荷時は、64 Mバイトです。さらに別売りのRAMモジュールを増設することによって最大192 Mバイトまでメモリー容量を拡張することができます。RAMモジュールを増設または取り外す場合は、以下の手順に従って操作してください。

本機で使用できるRAMモジュール
64 Mバイト RAMモジュール　品番:CF-BAF1064J
128 Mバイト RAMモジュール 品番:CF-BAF0128J

推奨RAMモジュール仕様
144ピン、SO-DIMM、3.3 V、SDRAM、100 MHz *

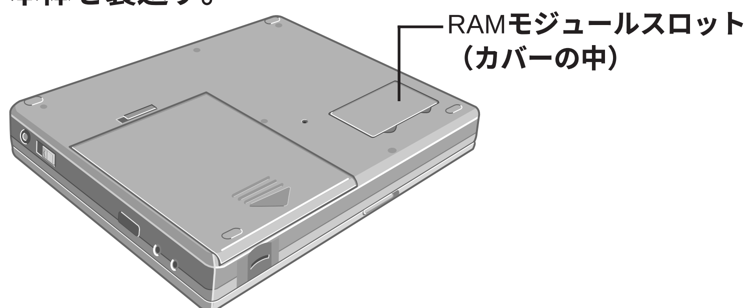
* 66 MHzのRAMモジュールは使用しないでください。

お願い
左記指定以外のRAMモジュールを使用すると、正常に動作しないだけでなく故障の原因になる場合があります。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認し、ACアダプターとバッテリーパックを取り外す。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

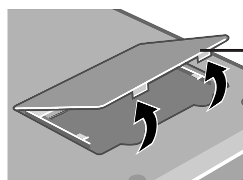
2 本体を裏返す。



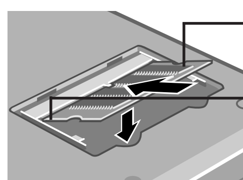
3 RAMモジュールを取り付ける／取り外す。

お願い
スタンバイや休止状態のときは、RAMモジュールの取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。

<取り付ける場合>



1 カバーを開ける。

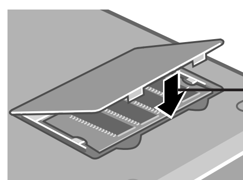


2 RAMモジュールを斜めに差し込む。

3 RAMモジュールが左右のフックでロックされるまで倒す。

◀向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。

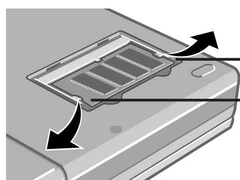
お願い
RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内にたまった静電気により破壊されることがあります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。



4 カバーを閉じる。

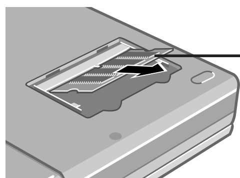
（次ページへ続く）

<取り出す場合>

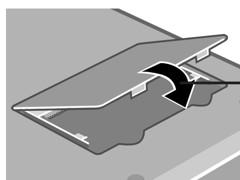


1 カバーを開ける。

2 左右のフックを外側に広げる。



3 RAMモジュールを斜め上の方向に引き抜く

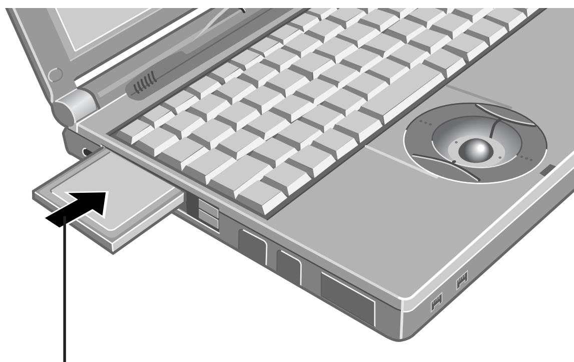


4 カバーを閉じる。

PCカードを使う

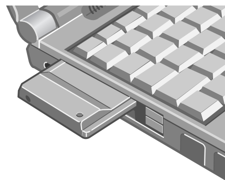
本機にはPCカード用スロットが2つあります。
市販されている各種PCカードを使うことにより、LANや携帯電話などを使った通信機能を利用したり、SCSI機器などの周辺機器を接続することができます。
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3mm）、タイプⅡ（5.0mm）、タイプⅢ（10.5mm）の３つの種類に分けられます。

＜取り付ける場合＞



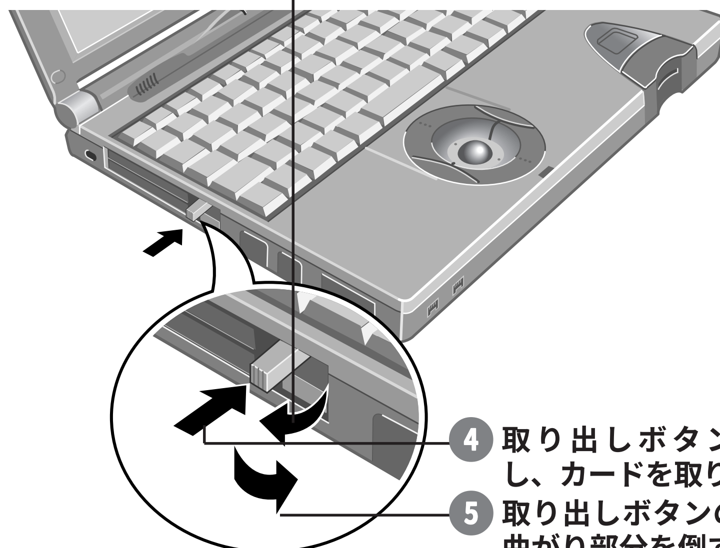
カードをPCカードスロットにしっかりと差し込む。

カードの形状によっては、装着後、外に突き出たままになるものもあります。（→右図）無理に押さないよう注意してください。無理に押すとスロットが破損する場合があります。



＜取り出す場合＞

1. **タスクバーの をクリックし、「...を停止します」を選ぶ。**
2. **「...は安全に取り外せすことができます。」というメッセージが表示されたら[OK]をクリックする。**
3. **取り出しボタンの折れ曲がり部分を起こす。**



4. **取り出しボタンを押し、カードを取り出す。**
5. **取り出しボタンの折れ曲がり部分を倒す。**

お願い

ご使用の前に
- **必ず、PCカードの消費電力を確認してください。PCカードスロットの許容電流（1スロットの許容電流：3.3 Vで750 mA, 5 Vで500 mA, 12 Vで75 mA）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。**
- **PCカードの操作方法は、PCカードに付属の取扱説明書をご覧ください。**
- **スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。**
- **本機はSRAMカード、FLASHカード（ATAインターフェースを除く）およびZVカードには対応していません。**

持ち運ぶとき
左図のように本体から突き出たPCカードは取り外してください。

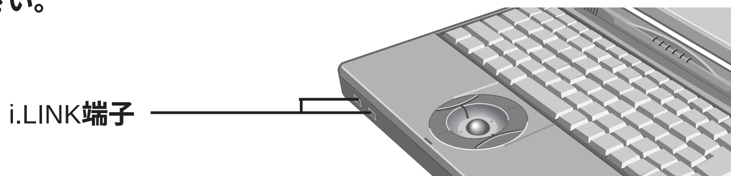
お願い

CardBusおよびネットワークカードを取り出す場合
必ず電源を切ってから取り外してください。
入りにくいときは
無理に押さないでください。カードの向きを確認後、カードを水平にした状態でもう一度挿入してみてください。

周辺機器を拡張する

DV機器を使う

本機には、i.LINK端子が2つあります。デジタルビデオカメラまたはDVデッキ（共に別売り）を接続して､映像を取り込むことができます。
本機との接続には、i.LINKケーブル（別売り）が必要です。
また、本機とDV機器との間でデータ転送をする場合は、メモリー容量を128Mバイト以上（工場出荷時のメモリー容量は64Mバイトです）に拡張してください。



i.LINKケーブル
本機のi.LINK端子とデジタルビデオカメラのIEEE1394準拠DV端子を接続するケーブル（4ピン-4ピン）です。ケーブルの呼び名は商品によって異なることがあります（DVケーブルなど）。

DV動画編集ソフト(MotionDV STUDIO)

MotionDV STUDIOは、デジタルビデオ機器で撮影した映像を取り込み、編集するソフトウェアです。
MotionDV STUDIOでは以下のようなことができます。
・映像に特殊効果を入れたり、音声ファイルの音声を追加したり、タイトルを入れたりする。
・編集した映像をテープに録画する。
・デジタルビデオ機器を2台つなぎ、再生・編集しながら録画したり、テープをダビング（コピー）したりする。

＜取扱説明書（オンラインマニュアル）を見るには＞

取扱説明書は画面で見るオンラインマニュアルとなっています。
[スタート]をクリックし、[プログラム]→[Panasonic]→[MotionDV STUDIO]→[取扱説明書]の順にクリックします。
オンラインマニュアルの操作の方法については86ページをご覧ください。

◀本機にはMotionDV STUDIOがあらかじめインストールされています。その他、取扱説明書の内容で本機に該当しない記述があります。下記を参照願います。

項　目(タイトル名)	補　足　説　明
MotionDV STUDIOのインストール	MotionDV STUDIOのインストールは、不要です。 （本機にはあらかじめインストールされています。）
接続	●MotionDV STUDIO取扱説明書に従って、本機のi.LINK端子に別売りの「i.LINKケーブル（4ピン-4ピン）」を接続してください。 <i.LINKケーブル> 本機のi.LINK端子とデジタルビデオ機器のIEEE1394準拠DV端子を接続するケーブルです。本機の場合、[4ピン-4ピン]端子付きものをご使用ください。ケーブルの呼び名は商品によって異なることがあります（DVケーブルなど）。 （お問い合わせ先：お客様ご相談センター→114ページ） i.LINK端子 ●最初の接続時に「メッセージ ①」は表示されません。
MotionDV STUDIOの起動	●デスクトップの「MotionDV STUDIO」アイコンをダブルクリックしても起動することができます。 ●手順1の左横に記載されている「お願い」は不要です。 （本機にはあらかじめAdobe Acrobat® Readerがインストールされています。）

DVインターフェースカードに関して
本機には「DVインターフェースカード」が必要ないため、以下の説明はすべて不要です。
・「テープ編集には、i.LINK端子が…」（7ページ「重要」）
・「DVインターフェースカードをお使いの場合…」（13ページ「接続時のお願い」最後の文と123ページ下部）
・「パソコンにデジタル機器…」（209ページ「カード接続時のお願い」の4項目）

必要なときに

セットアップユーティリティの設定のしかたやオンラインマニュアルの見かたなど、必要に応じてご覧いただきたいことについて説明しています。

もくじ

セットアップユーティリティ

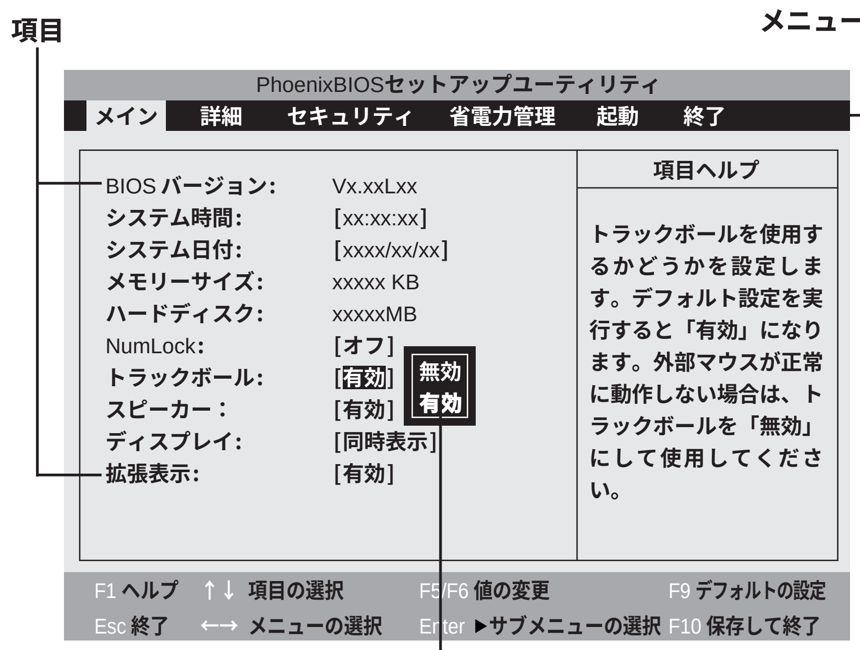
ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティ（セットアップユーティリティ）について説明します。

起動する

1 Windowsを終了して再起動する。

[スタート]→[シャットダウン]をクリックし、[再起動]を選んで[OK]をクリックする。

2 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。



◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティは起動しません。この場合、Windowsを終了して再度やり直してください。

◀ 「パスワードを入力してください」と表示されたら、パスワードを入力してください。
ただし、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方を設定している場合、ここでユーザーパスワードを入力すると表示されないメニューや項目があります。(→81ページ)

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

F1 :一般ヘルプが画面に表示されます

← → :「メイン」「詳細」「セキュリティ」「省電力管理」「起動」「終了」の各メニューを選ぶときに使用します。

↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。

F5 F6 :各項目の設定値を選ぶときに使用します。

Enter : ↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

F9 :各項目の設定値を工場出荷時の値にします。

F10 :設定を保存して終了します。

Esc :「終了」メニューが表示されます。

Tab :日時設定のとき、カーソルの移動に使用します。

終了する

1 ← → で「終了」メニューを選ぶ。

設定を保存して終了
設定を保存しないで終了
デフォルト設定
設定を戻す
設定を保存する

セットアップユーティリティ起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

工場出荷時の値にします。

◀ 起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「デフォルト設定」の項目は表示されません。

2 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。

コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

◀ パスワードが有効になっている場合は、Windowsが起動するまでにパスワードの入力が必要です。

メインメニュー

1 ← → で「メイン」メニューを選ぶ。

現在のメモリー容量やBIOSのバージョンなどを確認することができます。

コンピューターに設定されている日付と時刻を確認できます。
また、設定を変更することができます。

BIOS バージョン:	Vx.xxLxx
システム時間:	[xx:xx:xx]
システム日付:	[xxxx/xx/xx]
メモリーサイズ:	xxxxx KB
ハードディスク:	xxxxxMB
NumLock:	[オフ]
トラックボール:	[有効]
スピーカー :	[有効]
ディスプレイ:	[同時表示]
拡張表示:	[有効]

次ページ

画面をLCDいっぱいに拡張して表示する拡張表示機能の[有効]または[無効]を設定します。

スピーカーの[有効]または[無効]を設定します。

トラックボールの[有効]または[無効]を設定します。外部マウスが正常に動作しない場合は、[無効]に設定してください。

起動時にテンキー（キー上に青色で印刷された数字など）による入力を[オン]にするか[オフ]にするかを設定します。（Windows2000起動後は動作しません。）

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ [拡張表示]の設定は、ファーストエイドFDなどから起動してMS-DOSモードで使用しているときのみ有効です。

ディスプレイ

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。

◀[外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部ＬＣＤ表示となります。

表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部ディスプレイ	内部LCD	同時表示
640×480 256色	○	○*1	○*1
640×480 65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
640×480 約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
800×600 256色	○	○*1	○*1
800×600 65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
800×600 約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
1024×768 256色	○	○	○
1024×768 65,536色（High Color）	○	○	○
1024×768 約1,677万色（True Color）	○	○*2	○*2
1280×1024 256色	○	○*3	○*3
1280×1024 65,536色（High Color）	○	○*3	○*3
1280×1024約1,677万色(True Color)	○	○*2*3	○*2*3
1600×1200 256色	○	○*3	○*3
1600×1200 65,536色（High Color）	○	○*3	○*3
1600×1200約1,677万色(True Color)	○	○*2*3	○*2*3

*1 画面の中央に小さく表示されますが、セットアップユーティリティで「拡張表示」を有効（→前ページ）に設定すると画面いっぱいに表示することができます。この場合、表示が粗くなります。

*2 内部LCDには、ディザリング機能により約1,600万色までの表示が可能です。

*3 画面全体の一部（1024×768の範囲）が表示されます。カーソルを画面の端に移動すると、画面表示がスクロールします。

キー操作による切り換え

Fn ＋ F3 で表示先を切り換えることもできます。
詳しくは→88ページ

画面領域・色数を変更する

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。
2. [設定] の [画面の領域]または[画面の色]で、画面の解像度・色数を設定する。
3. [OK]をクリックする。
4. 確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作する。
5. 設定が完了したら、[スタート]→[シャットダウン]から再起動する。

詳細メニュー

1 ← → で「詳細」メニューを選ぶ。

それぞれのポートの設定を行います。

プラグ＆プレイ：	[使用する]
シリアルポート:	[3F8/IRQ4]
赤外線通信ポート:	[338/IRQ5]
パラレルポート:	[378]
モード:	[ECP]
内蔵モデム：	[有効]
リングリジューム:	[有効]
内蔵 LAN：	[有効]
Wake Up 機能：	[無効]
レガシー USB：	[有効]

レガシーUSB機器を[有効]または[無効]かを設定します。

この項目の設定は必要ありません。
Windows上で使用時、内蔵LANのWake UP機能の「有効」「無効」は、「コントロールパネル」の「システム」の「デバイスマネージャ」で設定します。

内蔵LANを[有効]または[無効]に設定します。

この項目の設定は必要ありません。
Windows上で使用時、内蔵モデムのリングリジューム機能は常に有効となります。

内蔵モデムを[有効]または[無効]に設定します。

パラレルポートのデータ送信方向を[ECP]、[EPP]、[単方向]、[双方向]のいずれかに設定します。
[ECP]に対応していない機器を使用する場合は、[双方向]に設定してください。

パラレルポートのポート設定を[378]または[無効]に設定します。

赤外線通信ポート設定を[338/IRQ5]または[無効]に設定します。

シリアルポートのポート設定を[3F8/IRQ4]または[無効]に設定します。

[使用する]にすると、各項目の設定値をOS側がより最適と判断する値に自動的に変更することができます。
[使用しない]にすると、各項目の設定値をOS側は変更することができません。

◀ セットアップユーティリティの起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「詳細」メニューの設定はできません。（画面表示はされますので、設定内容を確認することはできます。）

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ レガシーUSB機器とは、電源を入れた後、Windowsが起動していない状態でも動作するUSB機器（マウス、フロッピーディスクドライブ、キーボードなど）のことです。

◀ ポート設定では、割り込み要求（IRQ）とI/Oポートアドレスを設定します。

◀ 通常は[使用する]に設定しておいてください。

セキュリティメニュー

1 ← → で「セキュリティ」メニューを選ぶ。

起動時のパスワードを[使用する]または[使用しない]を設定します。

起動時のパスワード:	[使用する]
キーによる起動:	[許可]
▶スーパーバイザーパスワード設定:	[Enter]
ユーザーパスワード保護:	[保護しない]
▶ユーザーパスワード設定:	[Enter]
プロセッサ・シリアル番号機能:	[使用しない]

Pentium® IIIのシリアル番号機能を使用するようにするかしないかを設定します。

スーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。
コンピューターの起動およびセットアップユーティリティの起動（→下記）をパスワードによって機密保護します。

ユーザーパスワードの変更をできないようにする（保護する）かできるようにする（保護しない）かを設定します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティの起動をパスワードによって機密保護します。

コンピューターの起動時に、プライベートキーの機能を使用するには[許可]に設定してください。
[禁止]に設定すると、コンピューター起動時にプライベートキーの機能が働きません。（→21ページ）

◀ スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを設定している場合、「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定していてもセットアップユーティリティ起動時はパスワードの入力が求められます。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ 「キーによる起動」を「許可」に設定し、「スーパーバイザーパスワード」を設定するとコンピューター起動時のプライベートキー機能が有効になります。プライベートキーをセットしてコンピューターを起動すると、パスワードを入力しなくてもコンピューターを起動できるようになります。

◀ 「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定していると、「キーによる起動」の項目は表示されません。

セットアップユーティリティの起動時にユーザーパスワードを入力した場合

下記の設定を行うことができません。
- 詳細メニュー（→前ページ）
- セキュリティメニューの一部（スーパーバイザーパスワード設定、ユーザーパスワード保護、プロセッサ・シリアル番号機能）
- 終了メニューおよび F9 の「デフォルト設定」

パスワード設定のしかた

1 セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューを選び[スーパーバイザーパスワード設定]または[ユーザーパスワード設定]を選んで Enter を押す。

2 パスワードを設定する。
＜パスワードを新規に設定する場合＞

▶スーパーバイザーパスワード設定	
新しいパスワードを入力してください	[　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　]

❶ パスワードを入力して Enter を押す。
❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

＜パスワードを変更する場合＞

▶スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[　　　]
新しいパスワードを入力してください	[　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　]

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
❷ 新しいパスワードを入力して Enter を押す。
❸ 手順❷で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

◀ 画面は、スーパーバイザーパスワードを設定する場合を例にしています。
◀ ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。

◀ 入力したパスワードは画面に表示されません。
◀ ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを同じパスワードにした場合、そのパスワードはスーパーバイザーパスワードとして扱われ、ユーザーパスワードは設定されていないとみなされます。

お願い

パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
忘れた場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。（パスワードを解除する場合は、修理扱い（有償）となります。）

パスワード入力の制限

- 入力可能な文字は、半角の英数字で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl およびスペースキーなどの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。

無断でパスワードを変更されることを避けるために

- セットアップユーティリティを起動したままコンピューターから離れないでください。
- 「ユーザーパスワード保護」を「保護する」に設定してください。（→前ページ）

<設定済みのパスワードを無効にする場合>

▶スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　　]

1. 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
2. 何も入力せずに Enter を押す。
3. 何も入力せずに Enter を押す。

3 「変更が保存されました。」と表示されたら、任意のキーを押す。

パスワードを設定時の起動

以下のようにパスワードの入力を求められますので、設定したパスワードを入力してください。

セットアップ

ユーティリティ起動時：パスワードを入力してください。[　　　　]

スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力してください。ただし、ユーザーパスワードを入力した場合、設定できない項目があります。（→81ページ）

コンピューター起動時：

コンピューター起動時のパスワード要求はパスワードを設定していて起動時のパスワードが有効になっている場合に表示されます。上記アイコンが表示されたら、スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力してください。また、コンピューター起動時にプライベートキーを使用するよう設定している場合（→21ページ）は、プライベートキーをセットしても起動できます。

スタンバイや休止状態からのリジューム時には、パスワード入力は要求されません。（MS-DOSモードの使用時を除く）

パスワードの入力を3回間違えると

- 電源オン時には、電源が切れます。
- スタンバイからのリジューム時には、スタンバイに戻ります。*

*ファーストエイドFDなどから起動してMS-DOSモードで使用しているときのみ。

省電力管理メニュー

1 ← → で「省電力管理」メニューを選ぶ。

Windows上での「パワースイッチ」および「パネルスイッチ」の動作設定は、「コントロールパネル」の「電源オプション」で設定します。
ファーストエイドFDなどから起動して、MS-DOSモードで使用している場合（→下記）

パワースイッチ：	[パワーオフ]
パネルスイッチ：	[LCDオフ]
Fn＋F7/Fn＋F10キー：	[有効]
インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ：	[自動設定]

インテル®SpeedStep®テクノロジ対応Pentium IIIプロセッサの処理スピードを[自動設定][常に省電力][常に最大速]のいずれかに設定します。[自動設定]の場合、ACアダプター接続時は最大速に、バッテリーでの使用時は省電力に切り換わります。（60ページ）

Fn ＋ F7 / Fn ＋ F10 の機能を[有効]または[無効]に設定します。（→88ページ）

◀ セットアップユーティリティでは、「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼んでいます。

お願い

「パネルスイッチ」を「サスペンド」に設定していると、LCDパネルを閉じた状態ではスタンバイからリジュームできません。

◀ 左記は標準設定（工場出荷時）の画面例です。

ファーストエイドFDなどから起動して、MS-DOSモードで使用している場合

セットアップユーティリティの以下の設定は、MS-DOSモードで使用しているときのみ動作します。Windowsを起動しているときの動作設定は、Windowsで設定します。

- 「Wake Up機能」→80ページ（Windowsの設定→54ページ）
  内蔵LAN Wake Up機能の[有効]または[無効]を設定します。
- 「リングリジューム」→80ページ（Windowsの設定は常に[有効]のままです。）
  内蔵モデムのリングリジューム機能の[有効]または[無効]を設定します。
- 「パワースイッチ」→上記（Windowsの設定→18ページ）
  電源オン時に、コンピューターの電源スイッチをスライドしたときの動作を[サスペンド][パワーオフ]のどちらかに設定します。
  （MS-DOSモードでは、ハイバーネーション機能は働きません。）
- 「パネルスイッチ」→上記（Windowsの設定→12ページ）
  LCDパネルを閉じたときの動作を[LCDオフ][サスペンド]のどちらかに設定します。
  （MS-DOSモードでは、ハイバーネーション機能は働きません。）

必要なときに

起動メニュー

1 ← → で「起動」メニューを選ぶ。

システムを起動するドライブの優先順位を設定します。

1. [フロッピードライブ]
2. [ハードディスクドライブ]
3. [USB CD ドライブ]

工場出荷時の設定は、[フロッピードライブ]→[ハードディスクドライブ]→[USB CDドライブ]の順です。

- 優先順位を1つ上げる場合は、↑↓でデバイスを選択して F6 を押す。
- 優先順位を1つ下げる場合は ↑↓でデバイスを選択して F5 を押す。

システムを起動するデバイスは、コンピューター起動時にも選択することができます。
電源を入れ、「Press <ESC> to enter Boot First Menu」が表示されているときに Esc を押すと、デバイスの選択画面が表示されます。[起動]メニューの設定を変更すると、選択画面の表示も変更されます。

◀ フロッピーディスクドライブは松下製の外部FDD（品番：CF-VFDU03J）のみサポートしています。セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を「有効」に設定していないと（→80ページ）フロッピーディスクドライブからの起動はできません。

◀ CD-ROMによる起動は付属の「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」および「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」を松下製USB接続CD-ROMドライブKXL-840AN、KXL-RW20ANまたはKXL-RW21ANで使用したときのみ可能です。

オンラインマニュアルの見かた

画面で見ることができるオンラインマニュアル（PDF形式のファイル）として、以下のものが用意されています。プリンターが接続されていれば、印刷することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの見かたについて説明します。

＜困ったときのQ&A＞
　本機が思ったとおりに動かないなど、トラブルが発生したときの対処方法をQ&A方式でまとめています。

＜パソコン・サポートとつきあう方法＞
　初めてのかたを対象に、電話サポート窓口を上手に利用する方法やコンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。
　（編集：社団法人　日本電子工業振興協会）

＜内蔵モデムコマンド一覧＞
　内蔵モデムのATコマンドについて説明しています。

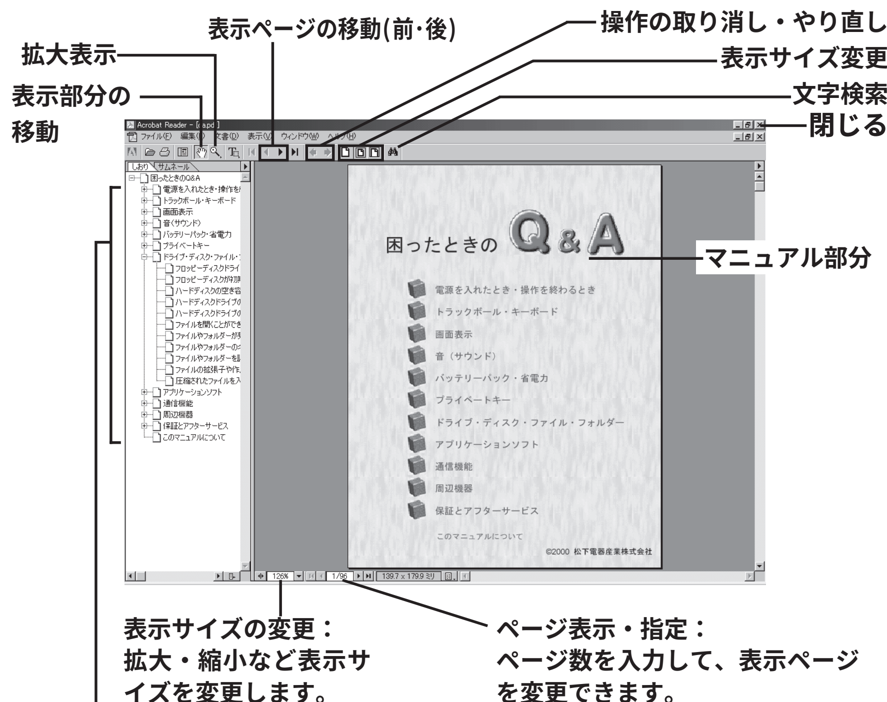
＜ワイヤレスコムポートコマンド一覧＞
　ワイヤレスコムポートのATコマンドについて説明しています。

オンラインマニュアルの起動のしかた

1 **[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]をクリックし、見たいマニュアルを選ぶ。**

（「困ったときのQ&A」はデスクトップの[困ったときのQ&A]アイコンをダブルクリックしても起動することができます。）

はじめて起動したとき
　「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されるので、内容を確認の上、[同意する]をクリックしてください。



⊞をクリックすると、詳細項目が表示されます。
それぞれの項目名をクリックするとそのページを表示することができます。

お願い

左記以外の方法（マイコンピュータなどから、マニュアルのファイルをダブルクリックするなど）では起動できないことがあります。その場合はコンピューターを再起動した後、左記の方法で起動しなおしてください。

オンラインマニュアルを表示できない、PDF形式のファイルを開けない
→95ページ

◀ 下部の「ページ表示・指定」がタスクバーに隠れて見えないときは、ウィンドウを最大表示にしてください。

キーボードの操作

ここでは、そのキー自体に特殊な機能をもつキー（特殊キー）や、Fn キーといっしょに押すことによって特殊な機能が有効になるキー（ホットキー）の使いかたについて説明します。

特殊キー

キー	機　能
(Windowsキー)	[スタート]メニューのクリックと、同じ操作を行うことができます。
(アプリケーションキー)	前ボタンのクリックと、同じ操作を行うことができます。
NumLk	テンキーを有効にするかどうかを切り換えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。 ＜NumLkインジケーター点灯時：テンキー有効時＞ そのまま押す → テンキーモード 7 8 9 − 4 5 6 Enter 1 2 3 ＋ ＊ 0 ・ / ＜NumLkインジケーター消灯時：テンキー無効時＞ Fn キーを押しながら押す → カーソルキーモード Home ↑ PgUp − ← → Enter End ↓ PgDn ＋ ＊ Ins Del /
CapsLock/英数	英数字入力になります。Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
Enter	コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。
Shift	通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。
Ctrl、Alt	このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。
Esc、ScrLk、Pause/Break	アプリケーションソフトによって機能が異なります。

◀ CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

キーボードの操作

キーコンビネーション（ホットキー）

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。
この操作を「ホットキー」と呼びます。

キーとアイコン	機　能
Fn + F1	LCDバックライトの輝度を下げます。 キーを押している間、輝度が下がります。
Fn + F2	LCDバックライトの輝度を上げます。 キーを押している間、輝度が上がります。
Fn + F3	画面の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。
Fn + F4	内蔵スピーカーから出る音を消します。 再度押すと元に戻ります。
Fn + F5	内蔵スピーカーの音量を下げます。 キーを押している間、音量が下がります。
Fn + F6	内蔵スピーカーの音量を上げます。 キーを押している間、音量が上がります。
Fn + F7	本機をスタンバイ状態にします。
Fn + F9	バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。 （詳しくは→65ページ）
Fn + F10	本機を休止状態にします。
Fn + F12	画面全体をクリップボードにコピーします。 Fn + Alt + F12 を押すと選択されているウィンドウのみをコピーできます。

◀ ACアダプターが接続されている状態と接続されていない状態の明るさを別々に設定できます。

◀ 外部ディスプレイが接続されていない場合でも切り換え処理が行われます。

◀ Fn + F5 あるいは Fn + F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。

◀ 「Volume Control」画面（→13ページ）でミュートや音量ゼロにしている場合、スピーカーオンでも音は出ません。

ホットキーの操作について

- Fn + F1、Fn + F2、Fn + F4、Fn + F5、Fn + F6 キーを押した場合は、各設定値を表すアイコンが表示されます。
- システム起動中、あるいはスタンバイや休止処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音が乱れることがあります。
- Fn + F3、Fn + F4 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティで設定されている状態に戻ります。

トラックボール/クリックボタンの操作設定

詳細設定

MouseWareプログラムを使用すると、トラックボールとクリックボタンの動作を詳細に設定できます。設定の手順は次のとおりです。

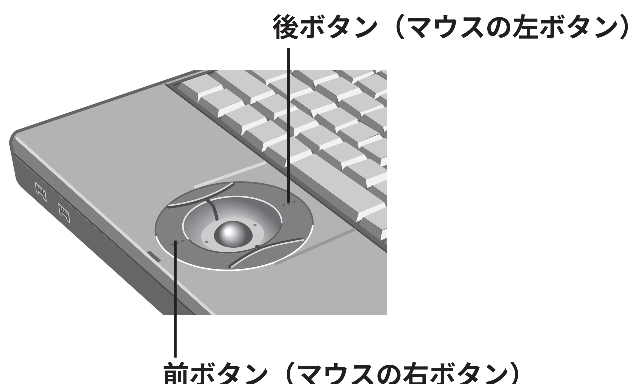
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[マウス]をダブルクリックする。

2 「マウスのプロパティ」画面が表示されたら各設定を行う。

主な設定内容

● 「動作」の「スマートムーブ」を設定すると、ダイアログボックスのデフォルトボタンにポインター（矢印）を自動的に合わせることができます。
工場出荷時には、「スマートムーブ」は設定されていません。

● 「ボタン」では、以下の3とおりについてボタンの機能を設定できます。



1:「後ボタン」を押したとき
2:「前ボタン」と「後ボタン」を同時に押したとき
3:「前ボタン」を押したとき

（例）「後ボタン」を「スクロールバー（横）」に設定しておくと「後ボタン」を押すとアクティブウィンドウの横向きのスクロールバーにカーソルが移動します。その後は、クリックボタンを使わずに、トラックボールを回転させるだけで、スクロール操作を行うことができます。

工場出荷時には「1:クリック/セレクト」「2:自動スクロール」「3:コンテキストメニュー/補助ドラッグ」に設定されています。

お願い

MouseWare（マウスウェア）がインストールされていると、一部の外部マウスが正常に動作しない場合があります。問題が発生した場合は、「アプリケーションの追加と削除」で「マウスウェア」を削除してください。
「マウスウェア」を再度インストールするには、「スタート」→「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に下記のように入力し、[OK]をクリックしてください。
c:\util\drivers\mware\setup.exe

困ったときは

本機を動かそうとして思ったとおりに動かないときの対処方法や再インストールのしかたなどについて説明しています。

もくじ

困ったときのQ&A

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、「オンラインマニュアル」の「困ったときのQ&A」もご覧ください。（→「オンラインマニュアルの見かた」86ページ）
その他、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windowsやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	確認1 ・ACアダプターが、本体の電源端子および電源コンセントに差し込まれているか確認してください。 ・十分充電されたバッテリーパックが正しく入っているか確認してください。 ・電源を切った直後は、電源スイッチをスライドしても電源が入らない場合があります。5秒以上待ってから操作してください。 確認2 リセットスイッチを押して、本機を再起動させてみてください。 確認3 本体のACアダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再度起動してみてください。
画面上の日付/時刻の表示が違っている	確認1 ・コントロールパネルの「日付と時刻」を使って、または「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」でDATEコマンドとTIMEコマンドを使って訂正してください。 ・LAN（ネットワーク）に接続している場合、サーバーの日付や時刻を確認してください。詳しくは、ネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。 確認2 正しく設定してもすぐに表示が違ってくる場合、日付/時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）の残量がない可能性があります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。 ※西暦2100年以降は、日付と時刻が正しく認識されません。
「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key」と表示される	・システムを起動できないフロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされています。フロッピーディスクを取り出してから、何かキーを押してください。 ・フロッピーディスクがセットされていないのに左記メッセージが表示される場合、ハードディスクに何らかの問題が発生していることが考えられます。お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
数字とメッセージが表示される	表示されている番号はエラーコードです。コンピューターに何か問題が発生しています。 「エラーコード一覧」（→101ページ）に従って確認してください。
画面に何も表示されない	表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。Fn + F3 を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。
フロッピーディスクドライブから起動できない	セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を[有効]に設定してください。→80ページ 起動メニューの1番目が「フロッピードライブ」になっていることを確認してください。→85ページ

困ったときは

起動時の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
が表示される	パスワードを入力してください。 パスワードを忘れた場合、変更・解除する方法はありません。 パスワードを変更・解除したい場合は、お買い上げの販売店または『ご相談窓口』にご相談ください。 **＜スーパーバイザーパスワードのみを設定している場合＞** （ユーザーパスワードやプライベートキーの機能を設定していない場合） コンピューターを起動することはできません。お買い上げの販売店または『ご相談窓口』にご相談ください。 **＜ユーザーパスワードを設定している場合＞** ユーザーパスワードを覚えていれば、コンピューターを起動することができます。(Windowsを起動するにはAdministratorのパスワードを入力する必要があります。) ただし、ユーザーパスワードで起動するとセットアップユーティリティで一部の設定ができなくなります。（→81ページ） **＜プライベートキーの機能を設定している場合＞** スーパーバイザーパスワードを忘れても、プライベートキーをセットすれば、コンピューターを起動することができます。ただしセットアップユーティリティは、プライベートキーでは起動できません。 (Windowsを起動するにはAdministratorのパスワードを入力する必要があります。)
Administratorのパスワードを忘れた	再インストールを行い、Windowsをセットアップしてパスワードを設定しなおしてください。

プライベートキーの問題

こんなときは	ここをお調べください
プライベートキーをなくした	・プライベートキーがなくても、パスワードを入力してコンピューターを起動したり、スクリーンセーバーを解除したりすることができます。（→20ページ） ・プライベートキーを2個ともなくした場合、別売りのプライベートキーを購入しても複製できません。詳しくは「ご相談窓口」にご相談ください。（→115ページ） ・なくしたプライベートキーを無断で使用されることを避けるためには、セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで「キーによる起動」を「禁止」に設定してください。（→25、81ページ）
が表示される	正しいプライベートキーを挿入するか、パスワードを入力してください。

困ったときのQ&A

プライベートキーの問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
プライベートキーが使えない	確認1 プライベートキーを使用するには初期設定が必要です。（→20ページ） 確認2 ＜コンピューター起動時、プライベートキーをパスワード入力の代わりに使用できない＞ セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで下記のように設定しているか確認してください。 ・「起動時のパスワード」を「使用する」に設定する。 ・「キーによる起動」を「許可」に設定する。 ・スーパーバイザーパスワードを設定する。 ＜プライベートキーの抜き差しによる、スクリーンセーバーの実行／解除ができない＞ 下記の設定を行っているか確認してください。 ・「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーとパスワードの設定をする。 ・「プライベートキー環境設定」の「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」にチェックマークを付ける。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に動かなくなった	確認1 • バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーの残量がない可能性があります。ACアダプターを接続してください。 • 使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。以下の手順で操作中のアプリケーションソフトを終了してください。 ① Ctrl ＋ Alt ＋ Del を押す。 ② [タスクマネージャ]をクリックし、動作しなくなったアプリケーションソフトを選び、[タスクの終了]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら[終了]をクリックする。 確認2 上記の手順を行っても動かない場合は、リセットスイッチ（→16ページ）を押して、コンピューターを再起動してください。
コンピューターが正常に動作しなくなった （アプリケーションソフトが起動しない・マウスの動作が極端に遅いなど）	スタンバイや休止状態機能を繰り返し使うと、コンピューターの動作に支障をきたす場合があります。定期的に（1週間に1回程度）、スタンバイや休止状態機能を使わずにWindowsを終了してください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点灯している または キー操作による残量表示で0%と表示された	確認1 • バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 • ACアダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。 確認2 ACアダプターが正しく接続されているのに、またバッテリー残量はあるはずなのに赤色点灯や0%表示が続く場合は、「バッテリー容量を正確に表示させるために」（→67ページ）に従って操作をしてください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点滅している	確認1 バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 確認2 それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴り始めた	バッテリー残量がわずかです。ACアダプターを接続してください。
充電中にバッテリー状態表示ランプが消灯している	確認1 ACアダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。ACアダプターとバッテリーパックを取り外し、再度正しく装着し直してください。 確認2 それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
「コントロールパネル」の「電源オプション」の「電源メーター」での残量表示がおかしい	「電源メーター」画面を表示したまま、バッテリーパックの取り付け/取り外しを行うと残量表示の更新に時間がかかります。バッテリーパックの取り付け/取り外しは、コンピューターの電源を切った状態で行ってください。（→62ページ）
スタートメニューの一部しか表示されない	・簡易メニュー表示機能（よく使用するメニューを優先的に表示し、その他のメニューを隠す機能）が働いています。 をクリックすると、その下にあるメニューが表示されます。 ・常にすべてのメニューが表示されるようにするには、[スタート]→[設定]→[タスクバーと［スタート］メニュー]をクリックし、「頻繁に利用するメニューを優先的に表示」のチェックマークを外してください。
オンラインマニュアルを表示できない	Acrobat Readerをアンインストールしませんでしたか？ アンインストールした場合は、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で「c:\util\reader\ar405.exe」を起動し、画面に従ってインストールしてください。 その際、インストール先のフォルダーを変更しないでください。変更すると、デスクトップのアイコンやスタートメニューからオンラインマニュアルを起動できません。 （Acrobat ReaderはAdobe社のホームページhttp://www.adobe.co.jpからダウンロードすることもできます。）
PDF形式のファイルを開けない	確認1 Acrobat Readerの使用許諾書に同意する前に、以下のことはしないでください。Acrobat Readerが正常に起動しなくなります。 ・エクスプローラなどからPDFファイルをダブルクリックして起動する。 ・アプリケーションソフトのオンラインマニュアルを起動する。 以下の手順で使用許諾書に同意してから使用してください。 ①再起動する。 ②［スタート］→［プログラム］→［Acrobat Reader4.0］→［Acrobat Reader4.0］を選ぶ。 確認2 PDF形式のファイルを開き、最小化したままスタンバイや休止状態に入ってリジュームしたとき、タスクバーの［Acrobat Reader］をクリックしても、PDF形式のファイルは表示されません。この場合、タスクバーの［Acrobat Reader］を右クリックし、［最大化］を選んだ後、Acrobat Readerを終了し、再度ファイルを開くと正しく表示されます。 PDFファイルを最小化したまま、スタンバイまたは休止状態には入らないでください。

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
サウンドレコーダーできれいに録音できない	「サウンドレコーダー」の画面で[ファイル]→[プロパティ]→[変換]をクリックし、「属性」で「44.100 kHz，16ビット，モノラル 86 KB/秒」を選んでください。
Windows Media Playerでエラーが発生した	True Color（24ビット）色でWindows Media Playerを使用して動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生中に、Windows Media Player画面を移動させたり、最大化や元のサイズに戻す操作を繰り返し行ったりすると、エラーが発生する場合があります。その場合はWindowsを再起動してください。
画面が消えた	確認1 省電力機能によって、自動的にディスプレイが消えることがあります。電源表示ランプが点灯している場合は Ctrl *などのキーを押してください。 * 選択の際に使われるキー（Enter、Esc、Y、N や数字キーなど）は使わず、動作に影響のないキー（Ctrl、Shift など）を押してください。 また、省電力機能によって、スタンバイ（電源表示ランプが緑色点滅）または休止状態（電源表示ランプが消灯）に入っていることも考えられます。電源を入れてください。 確認2 バッテリー残量がなくなっていませんか？ ACアダプターを接続してください。 確認3 表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。 Fn + F3 を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。 確認4 リジューム時に画面が消えた場合、コマンドプロンプトが起動されている可能性があります。 Alt ＋ Tab を押してみてください。また、スタンバイ・休止状態に入る前には、コマンドプロンプトを閉じてください。
Windows 2000関連ファイルがどこにあるかわからない	Windows 2000 関連ファイルは、工場出荷時は「C:\WINNT\cdimage」フォルダーにあります。

困ったときは

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
残像が残る	同じ画面を長時間表示すると、イメージが画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が表示されてしばらくすると、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残る または正しい色が表示されないドットがある	カラー液晶ディスプレイの製造には精度の高い技術が要求されます。ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができますが、これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。
画面の表示が乱れる （ウィンドウを閉じた後、画像が残るなど）	・残った画像を消すには、壁紙上のウィンドウやアイコンのない部分を前ボタンでクリックし、「最新の情報に更新」をクリックしてください。 ・[コントロールパネル]→[画面]→[設定]を選び、[詳細]をクリックして[トラブルシューティング]の「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定してみてください。
画像がモザイク状になる	True Color（24ビット）色で動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生しているときに、動画ウィンドウの右上のコマンドボタンにカーソルを置いたり、動画ウィンドウのサイズを変更したりすると画像がモザイク状になることがあります。この場合、コマンドボタンからカーソルを移動するか、動画ウィンドウのサイズを元に戻すと正常な画像に戻ります。
Windows Media Playerの画面表示が残る	True Color（24ビット）色でWindows Media Playerを使用して動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生中に、Windows Media Playerを終了すると、Windows Media Player画面の跡が残る場合があります。その場合はWindowsを再起動してください。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブ（外部FDD）にアクセスしない	確認1 ・フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。 ・フロッピーディスクは正しくセットされているか確認してください。 ・フロッピーディスクは初期化されているか確認してください。 ・ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていないか確認してください。 確認2 フロッピーディスクドライブから起動したい場合は、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「レガシーUSB」を「有効」に設定してください。「レガシーUSB」が「無効」に設定されていると、Windowsを起動しない状態でフロッピーディスクドライブを使用することはできません。
フロッピーディスクを初期化したい	デスクトップ上の「マイコンピュータ」から[3.5インチFD(A:)]を選んで[ファイル]→[フォーマット]をクリックした後、ディスクの容量やフォーマットの種類を確認して［開始］をクリックしてください。
ハードディスクドライブにアクセスできない	原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
割り込み要求（IRQ）、I/Oポートアドレス等、アドレスマップがわからない	下記の方法で確認することができます。 ・システムツールで確認する。 ①［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする。 ②「ハードウェアリソース」の左横の□をクリックする。 ・システムのプロパティで確認する。 ①「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックする。 ②「ハードウェア」の［デバイスマネージャ］をクリックする。 ③「コンピュータ」を選んで［表示］から「リソース（種類別）」または「リソース（接続別）」をクリックする。
プリンターが動かない	確認1 ・ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ・プリンターの電源が入っているか確認してください。 確認2 ・プリンターがパラレルコネクターに接続されている場合、セットアップユーティリティで「パラレルポート」を「378」に設定してください。 ・適切なプリンタードライバーが選択されているか確認してください。
マウスが使えない	確認1 マウスケーブルが正しく接続されているか確認してください。 確認2 マウスがシリアルまたはUSBコネクターに接続されている場合はドライバーをインストールする必要があります。 ドライバーをインストールしても動作しない場合： セットアップユーティリティで「トラックボール」を「無効」に設定し、「シリアルポート」を「3F8/IRQ4」に設定してください。 確認3 シリアルマウスによっては、スタンバイや休止状態からリジュームした後に動作しなくなることがあります。その場合、 を押して「スタート」メニューを表示し、コンピューターを再起動してください。また、シリアルマウス使用時は、スタンバイや休止状態機能は使用しないでください。
USB機器が動かない	確認1 ・正しく接続されているか確認してください。 ・セットアップユーティリティで「レガシーUSB」が「有効」に設定されているか確認してください。 確認2 適切なドライバーがインストールされているか確認してください。

周辺機器の問題(つづき)

こんなときは	ここをお調べください
キー入力が正常にできない（キーに刻印されている記号と異なる記号が入力される）	USBキーボード・USBテンキーボードを装着すると、次回起動時以降、キーボード配列が「101英語キーボード]」として扱われています。以下に従って操作してください。

キー入力が正常にできない（キーに刻印されている記号と異なる記号が入力される）

＜入力文字対応表＞

入力したいキー	押下するキー
数字	そのまま
アルファベット	そのまま
!	そのまま
"	[*]
#	そのまま
$	そのまま
%	そのまま
&	[']
'	[:]
(	[)]
)	[SHIFT]+[0]
=	[^]
-	そのまま
~	[SHIFT]+[半角 / 全角]
^	[&]
|	[}]
\	[]]
@	["]
`	[半角 / 全角]
[	[@]
{	[`]
;	そのまま
+	[~]
:	[+]
*	[(]
]	[[]
}	[{]
_	[=]
,	そのまま
<	そのまま
.	そのまま
>	そのまま
/	そのまま
?	そのまま

キー表面に刻印されている文字・記号を［　］で囲んで表示しています。

USBキーボード・USBテンキーボードを装着すると、次回起動時以降、キーボード配列が「101英語キーボード]」として扱われています。以下に従って操作してください。

①Windows起動時にパスワード入力画面が表示された場合は、左記対応表を参照してパスワードを入力する。または[キャンセル]をクリックする。
②[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]→[ハードウェア]→[デバイスマネージャ]をクリックする。
③「キーボード」の横の⊞をクリックし、[日本語PS2キーボード106/109キー]をダブルクリックする。
④「日本語PS2キーボード（106/109キー）のプロパティ」画面で[ドライバ]→[ドライバの更新]を選択する。
⑤「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で、[次へ]をクリックする。
⑥［一覧から選択する］を選択し［次へ］をクリックする。
⑦「モデル」の欄で[日本語PS2キーボード（106/109キー）]を選択し、[次へ]をクリックする。
⑧「デバイスドライバのインストールの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックする。
⑨「デバイスのインストールの確認」の画面で[はい]をクリックする。
⑩「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面で[完了]をクリックする。
⑪「日本語PS2キーボード（106/109キー）のプロパティ」画面で[閉じる]をクリックする。
⑫「今コンピューターを再起動しますか？」と表示されたら［はい］をクリックする。

こんなときは	ここをお調べください
トラックボールが使えない	セットアップユーティリティの「トラックボール」が「有効」になっていますか？
PCカードが使えない	確認1 カードが正しくセットされているか確認してください。 確認2 適切なドライバープログラムがインストールされているか確認してください。 確認3 CardBusカード以外のPCカード(16 bit)の場合は正常に認識されないことがあります。コンピューターを再起動してください。

困ったときは

通信時の問題

こんなときは	ここをお調べください
接続できない	確認1 電話回線とモデムが正しく接続されているか確認してください。（→27ページ） 確認2 ・電話回線の種類は正しく設定されているか確認してください。（→33、41ページ） ・通信環境の設定が正しく行われているか確認してください。（→27～36ページ）
ダイヤルアップ接続を使ってインターネットに接続した後、アプリケーションソフトを終了してもダイヤルアップ接続されたままになってしまう	ダイヤルアップ接続を切る場合は、タスクバーのダイヤルアップのアイコンをダブルクリックするか、［スタート］→［設定］→［ネットワークとダイヤルアップ接続］を開いて使用しているダイヤルアップ接続のアイコンをダブルクリックし、「切断」をクリックしてください。
ダイヤルアップ接続ができない	携帯電話およびPHS電話でお使いの場合は、［スタート］→［プログラム］→［Panasonic］→［電波状況モニター］を選んで、タスクバーに以下のいずれかのアイコンが表示されていることを確認してください。（また、電話機の電波状況も確認してください。）
LANに接続できない	・LANの設定は正しく行われていますか？（→53ページ） ・詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。
携帯電話PHS電話を使用してファックス送信できない。	Windows2000に標準で搭載されているファックス機能（［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［通信］→［FAX］）は、携帯電話、PHSでのファックスの送受信をサポートしていません。携帯電話、PHSを使用してファックス送信するには、「まいと～くFAX2000Life」をご使用ください。

終了時の問題

こんなときは	ここをお調べください
Windowsが終了しない、または再起動できない。	プロバイダーへの通信やLAN（→53ページ）は正しく設定されていますか？設定が正しくない場合、Windowsが終了しなかったり、再起動できなかったりします。 プロバイダーについては、プロバイダーから提供される説明書を参照してください。LANの設定については、ネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

エラーコード一覧

ここでは、ハードウェアの不良が発生した場合など、起動時に表示されるエラーコードとその原因・対処について説明します。

エラーコード・メッセージ		原 因・対 処
0211 キーボードエラーです。		外部キーボードが動作していません。外部キーボードを取り外してください。
0251 システムCMOSのチェックサムが正しくありません。−デフォルト値が設定されました。	 確認1 確認2	CMOSデータがアプリケーションソフトによって壊されたか、変更されました。 セットアップユーティリティでいったんデフォルト設定にした後、再度、適切な値に設定し直してください。 それでもエラーになる場合は、CMOSバックアップバッテリーが消耗している可能性がありますので、「ご相談窓口」にご相談ください。
0271 Check date and time settings		システムの日付と時間が正しくありません。セットアップユーティリティで日付と時間を正しく設定してください。
0280 起動を3 回失敗しました。 −デフォルト値を使用して起動します。		電源を入れてからOSが起動するまでに、3回連続してシステムがシャットダウンされました。セットアップユーティリティでデフォルト設定にし、日付・時刻を合わせてください。なお、正しくOSを起動すれば表示されることはありません。
02B0 フロッピーディスクAのエラーです。	確認1 確認2	ドライブが正しく接続されているか確認してください。 正しく接続してもエラーになる場合は、ドライブの故障が考えられます。「ご相談窓口」にご相談ください。

下記のエラーコードが表示された場合は、そのメッセージを記録して「ご相談窓口」にご相談ください。

エラーコード・メッセージ	原 因
0200 ハードディスクエラーです。	ハードディスクドライブまたはシステムボードの故障です。
0212 キーボードコントローラエラーです。	システムボードの故障です。
0230 システムRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0231 シャドウRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0232 拡張RAMエラー。オフセットアドレス：nnnn	メモリーの故障です。
0250 システムのバッテリがありません。−バッテリを交換して、コンピュータを再起動して下さい。	CMOSバックアップバッテリーが消耗しています。 バッテリーの交換が必要です。
0260 システムタイマーエラーです。	システムボードの故障です。
0270 リアルタイムクロックエラーです。	システムボードの故障です。
02D0 システムキャッシュエラーです。 −キャッシュは使用できません。	CPUの故障です。
02F5 DMAのテストが異常終了しました。	システムボードの故障です。

再インストールのしかた

コンピューターが正常に動作しなくなったり、ハードディスクの内容が壊れてしまったりした場合、「再インストール」と呼ばれる操作を行って工場出荷状態に戻すことができます。

お願い

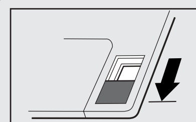
再インストールすると、ハードディスクの内容がすべて消えますので、必要なデータはバックアップしておいてください。

再インストールの準備

1 下記のものを準備する。

・あらかじめ作成しておいたバックアップディスク
（ファーストエイドFDなど→『セットアップ編』）
・「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」（付属）
・「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」（付属）
・フロッピーディスクドライブ（付属）
・CD-ROMドライブ（別売）

◀ 必ず、ライトプロテクトタブを書き込み不可の状態にしておいてください。



◀ ファーストエイドFDにセットアップを行ったCD-ROMドライブを準備してください。（→『セットアップ編』「CD-ROMドライブをセットアップします」）

2 ハードディスクを圧縮している場合は、Windowsを起動して解除する。

◀ Windowsを起動できない場合などで圧縮を解除できないときは、次ページの手順8で「1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。」を選んでください。

3 Windowsを終了して操作を終わり、電源が切れたことを確認する。（→『セットアップ編』）

お願い

必ず、ACアダプターを装着してください。ACアダプターを装着していないと、再インストールは行えません。

4 フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを取り付ける。（コンピューターの電源を入れても自動的に電源が入らないCD-ROMドライブを使用している場合はCD-ROMドライブの電源を入れる。）

◀ ハードディスクのパーティションを変更したり、フォーマットを行う前に、「ファーストエイドFD」で起動して、CD-ROMドライブが認識できるか確認してください。
（PCカード接続のCD-ROMドライブを使用する場合、『セットアップ編』「CD-ROMドライブをセットアップします」の手順に従って確認してください。その際、『セットアップ編』15ページの手順5と6は必要ありません。手順4の後、手順7に進んでください。）

再インストールする

1 コンピューターの電源を入れ、「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティを起動する。（→76ページ）

2 「終了」メニューから「デフォルト設定」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、[はい]を選んで Enter を押す。

3 ＜USB接続のCD-ROMドライブの場合のみ＞

「起動」メニューで「USB CDドライブ」が1番目になるように F5 F6 を押して、設定する。

4 「ファーストエイド FD」および「プロダクトリカバリーCD-ROM1」をそれぞれのドライブにセットする。

5 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、[はい]を選んで Enter を押し、セットアップユーティリティを終了する。

6 「再インストールを開始しますか。」と表示されたら Y を押す。

7 再インストールを実行するための条件が表示されたら 1 を押す。

8 ＜ハードディスクの内容をすべて工場出荷の状態にする場合＞

[1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

＜パーティションを区切って、最初のパーティションにWindows 2000を再インストールする場合＞

[2.最初のパーティションにWindows 2000を再インストールする。]を選ぶ。

9 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

再インストールが始まります。

◀ が表示されたら
正しいプライベートキーを挿入するか、パスワードを入力してください。

◀ ハードディスクを1つのパーティション(Cドライブのみ)にして、再インストールを行います。

◀ 最初のパーティションには、4GB以上の領域が必要です。

◀ 再インストールが終了するまで30分程度かかります。

10 「ファイル " L:\JA\INSTALL1.002 " が入っているメディア2をドライブL：に挿入してください。」というメッセージが表示されたら、「プロダクトリカバリーCD-ROM2」をCD-ROMドライブにセットし、［OK］を選ぶ。
この後は、メッセージに従って操作してください。
「…。再インストールを完了するには、ファーストエイドFDを挿入して、Rを押してください。」と表示されたら、ファーストエイドFDが挿入されていることを確認して R を押してください。

11 再インストール終了の画面になったら任意のキーを押す。
コンピューターの電源が自動的に切れます。
ファーストエイドFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、CD-ROMドライブを取り外してください。

12 電源を入れる。

<手順13〜15はUSB接続のCD-ROMドライブの場合のみ必要です。>

13 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティを起動する。（→76ページ）

14 「終了」メニューから「デフォルト設定」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

15 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

16 Windows 2000のセットアップを行う。
（→取扱説明書『セットアップ編』）

<「アップデートFD」がある場合>
アップデートFD内のREADME.TXTを参照して操作してください。

◀ 途中でプロダクトキーの入力画面が表示されます。

◀ バックアップディスク作成時に、「アップデートFD」を作成した場合

各種ドライバーやパナソニック製のソフトウェアおよびその他のアプリケーションソフトウェアを個々に復元したいときは：
「アプリケーションCD-ROM」にあります。ただし、CD-ROM内のそれらのファイルを使用するときには、更新が必要な場合があります。パナソニックPCのホームページ(→114ページ)に新しい情報が掲載されている場合もありますので、そちらもご覧ください。

もくじ

ソフトウェア使用許諾書

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっています。

第1条　権利
お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第2条　第三者の使用
お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第3条　コピーの制限
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第4条　使用コンピューター
本ソフトウェアは、コンピューター1台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第5条　解析、変更または改造
本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第6条　アフターサービス
お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第7条　免責
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

仕様 日本国内専用

●本体仕様

機種			CF-B5FR
CPU			Intel® SpeedStep™テクノロジ対応 モバイルPentium® III プロセッサ700 MHz
メモリー	メインRAM*1		64 Mバイト(最大192 Mバイト)
	キャッシュ	L1	32 Kバイト
		L2	256 Kバイト
	ROM		512 Kバイト
	ビデオメモリー		8 Mバイト
ハードディスクドライブ			30 G*2バイト
表示機能	テキスト表示		80文字×25行
	グラフィック表示		タイプ:10.4 型(TFT) 解像度:1024×768ドット 色数:1600万色*3
入力装置	キーボード		総数86キー
	ポインティングデバイス		光学式トラックボール(直径16 mm)
インターフェース	パラレルコネクター		ECP対応 Dsub 25ピン×1
	ディスプレイコネクター		アナログRGBミニ Dsub 15ピン×1
	シリアルコネクター		RS-232C Dsub 9ピン×1
	音声	マイク入力	ミニジャックM3(コンデンサーマイク使用のこと)
		オーディオ出力	ステレオミニジャックM3
	赤外線通信ポート		IrDA1.1準拠(最大転送速度 4 Mbps)
	USBコネクター		4ピン Universal Serial Bus×2
	モデムコネクター		本体内蔵(RJ-11)データ: 56 kbps (V.90 & K56flex両対応)FAX: 14.4 kbps
	LAN端子		本体内蔵(RJ-45) 100BASE-TX / 10BASE-T
	i-LINK端子		IEEE1394.a準拠4ピン×2
	ワイヤレスコムポート		18ピン(携帯電話/PHS電話接続用)
カードスロット	キースロット		プライベートキー専用1スロット
	PCカード専用		タイプII(またはタイプI)×2スロット またはタイプIII×1スロット
			CardBusサポート (3.3 V: 750 mA, 5 V: 500 mA, 12 V: 75 mA*4)
	RAMモジュール専用		144ピン,SO-DIMM,3.3 V,SDRAM,100 MHz*5 1スロット
オーディオ機能			PCM音源(16ビットステレオ) ステレオスピーカー搭載
時計機能			クロックバッテリーバックアップ 月差±60秒
電源			DC 15.1 V
消費電力*6			最大 約50 W (社)電子情報技術産業協会 家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン実行計画書に基づく定格入力電力値:約30 W
外形寸法(幅×奥行×高さ)			255 mm×206 mm×33.4 mm
質量*7			1.53 kg
使用環境条件			温度:5 ℃〜35 ℃ 湿度:30 %RH〜80 %RH(結露なきこと)
導入済みソフトウェア			Microsoft® Windows® 2000 Professional Service Pack 1(NTFSファイルシステム)、Microsoft® Internet Explorer 5.5、 Acrobat® Reader、インターネットスターター、まいと〜く FAX 2001 Lite、プライベートキー関連ソフト、MotionDV STUDIO等

・本製品(付属品を含む)は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠しておりません。

*1 100 MHz対応のシンクロナスDRAMおよびセルフリフレッシュのモジュールに限り使用可能です。

*2 1Gバイト=10^9バイト表記です。

*3 グラフィックアクセラレーターのディザリング機能により実現しています。

*4 各スロットごとの許容電流です。他の周辺機器等による負荷がない場合のカードスロット単体での数値です。

*5 66 MHzのRAMモジュールは使用しないでください。

*6 電源オン時、バッテリー充電中のACアダプターを含めた消費電力です。(電源オフ、バッテリー充電終了時、ACアダプターは約1 Wの電力を消費しています。また、電源オフ時のバッテリーの消費電力は約90 mWです。)

*7 バッテリーパック装着時の平均値です。

●付属品仕様

機種		CF-B5FR
ACアダプター	入力	AC 100 V 〜 240 V*8 , 50 Hz/60 Hz
	出力	DC 15.1 V , 3.33 A
	電源コード	125 V 対応
バッテリーパック	仕様	10.8 V (Li-ion) , 3.0 Ah
	稼働時間	約 3.0時間*9
フロッピーディスクドライブ		USBタイプ外付けドライブ3.5型 (1.44 Mバイト/1.2 Mバイト/720 Kバイト)

*8 本製品は一般家庭用の電源コードを使用するため、AC100 Vのコンセントに接続して使用してください。→6ページ

*9 LCDバックライト輝度最低時。また使用条件により異なります。

MobileEditor 2000

MobileEditor 2000を使うと、携帯電話に登録されているメモリー（電話帳）のデータをパソコンに送信して、パソコン上で編集することができます。

準備するもの

●ご自分の携帯電話
●携帯電話接続ケーブル（別売り） 当社製：CF-VCF31KAJ
（→次ページ）

※パソコンと携帯電話の接続のしかた→30ページ

起動する

デスクトップの［MobileEditor 2000］アイコンをダブルクリックする。

使い方や詳しい機能については、「MobileEditor 2000」の「ヘルプ」（→下記）をご覧ください。

ヘルプを見る

1 「MobileEditor 2000」を起動する。

2 「ヘルプ」→「トピックの検索」をクリックする。



お問い合わせ先

株式会社ハル・コーポレーション　ユーザー・サポートセンター
TEL　:03-5642-6780
E-mail　:support@halcorp.co.jp

別売り商品

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

ACアダプター（電源コード付）	外部FDD
品番：CF-AA1533J	品番：CF-VFDU03J*1
バッテリーパック	**プライベートキー（キーケース付き）**
品番：CF-VZSU14J	品番：CF-VPKS01J*2

RAMモジュール	
64 M バイト 品番：CF-BAF1064J	128 M バイト 品番：CF-BAF0128J

PHS電話接続ケーブル*3	PHS電話接続ケーブル*4	携帯電話接続ケーブル
（NTTドコモ・アステルのデータ通信に対応PHS電話専用）	（DDIポケットのデータ通信に対応PHS電話専用）	
品番：CF-VCF31PJ	品番：CF-VCF31DJ	品番：CF-VCF31KAJ

*1 コンピューター本体に付属の外部FDDと同等品です。
また、別売りの外部FDDに付属の外部FDD用ドライバーディスクは使用しないでください。（ドライバーは、コンピューター本体にすでにインストールされています。）

*2 ご購入後、お持ちのコンピューターで「プライベートキーの複製」をしてください。複製には、付属のプライベートキーが必要です。（→20ページ）

PHS電話接続ケーブル
*3 DDIポケットのPHS電話、デジタル/アナログ携帯電話、cdmaOneには使用できません。
*4 NTTドコモまたはアステルのPHS電話、デジタル/アナログ携帯電話、cdmaOneには使用できません。
また、付属しているフロッピーディスクのドライバーは使用しないでください。コンピューター本体には、PIAFS 32K、PIAFS 64K、無線モデム、無線インターネットに対応したドライバーがすでに入っています。
詳しくはカタログやパナソニックPCのホームページ（→114ページ）でご確認ください。

携帯電話接続ケーブル
デジタル携帯電話専用です。アナログ携帯電話、cdmaOne、PHS電話は使用できません。
詳しくはカタログやパナソニックPCのホームページ（→114ページ）でご確認ください。

利用できる電話機の種類と機能

電話機の種類*1	通信モード	ダイヤルパラメーター*2	最大通信速度*5	発信	着信
携帯電話(PDC)	回線交換	#96（書式1）	9600 bps	○	○
	FAX通信	#96（書式1）	9600 bps	○	○
	パケット通信	#00（書式1）	9600 bps/28800 bps*4	○	×
NTTドコモPHS	PIAFS 1.0	#32（書式1）	32000 bps	○	○
	PIAFS 2.0	#64（書式1）	64000 bps	○	○
	Analog PTE	#33（書式2）	33600 bps(32000 bps)*3	○	×
	Analog PTE FAX	#33（書式2）	14400 bps	○	×
	ISDN PTE	#65（書式2）	64000 bps	○	×
アステルPHS	PIAFS 1.0	不要（書式1）	32000 bps	○	○
	Analog PTE	不要（書式2）	33600 bps(32000 bps)*3	○	×
	ISDN PTE	不要（書式2）	64000 bps(32000 bps)*3	○	×
αDATA	無線モデム	##1（書式1）	14400 bps	○	×
	無線インターネット	##2（書式1）	32000 bps	○	×
αDATA32	無線モデム	##1（書式1）	14400 bps	○	×
	無線インターネット	##2（書式1）	32000 bps	○	×
	PIAFS 1.0	##3（書式1）	32000 bps	○	○
αDATA64	無線モデム	##1（書式1）	14400 bps	○	○*6
	無線インターネット	##2（書式1）	32000 bps	○	×
	PIAFS 1.0	##3（書式1）	32000 bps	○	○
	PIAFS 2.1	##4（書式1）	64000 bps	○	×
	PIAFS 2.1(PTE)	##4（書式3）	64000 bps	○	×

*1 上記の表にあげた種類の電話機でも一部の機種で利用できない場合があります。
また、携帯電話、PHS電話を本機に接続するには、別売りの専用ケーブルが必要です。 （→前ページ）

*2 アクセスポイントに応じて特定の通信モードで接続する場合、**アクセスポイントの電話番号を指定する際に、上記の表のダイヤルパラメーターを下記の書式1〜3に従って追加してください。**
（下記の電話番号は入力例で架空のものです。）

*3 無線区間の制約により、（ ）内の速度に制限されます。

*4 最大9600 bpsしかサポートしていない電話機でも、ダイヤルアップネットワーク等では接続速度は28800 bpsと表示されます。

*5 プロトコルオーバーヘッド等により、実質通信速度は最大通信速度を下回る場合があります。

*6 ATコマンドによる設定が必要です。

＜書式1＞

0669081001#32* └ダイヤルパラメーター（NTTドコモPHSで「PIAFS 1.0」の場合の例） アクセスポイントの電話番号	*アステルPHSの場合、ダイヤルパラメーターの入力は不要です。

＜書式2＞

アナログまたはISDNのアクセスポイントに接続するときの書式です。PTEアクセスポイントを経由する必要があるため、下記のように設定します。

1000*0669081001#33* PTEアクセスポイントの電話番号 アクセスポイントの電話番号 ダイヤルパラメーター（ドコモPHSで通信モードがAnalog PTEの場合の例）	*アステルPHSの場合、ダイヤルパラメーターの入力は不要です。 PTEアクセスポイントの電話番号については、それぞれの通信会社のホームページなどでご確認ください。

＜書式3＞

1000##4*0669081001 アクセスポイントの電話番号 ダイヤルパラメーター PTEアクセスポイントの電話番号	PTEアクセスポイントの電話番号については、それぞれの通信会社のホームページなどでご確認ください。

さくいん

A～Z

あ

か

さ

た

な

さくいん

・本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
・本書の内容の一部またはすべてを無断転載することを禁止します。
・落丁、乱丁はお取り替えします。
・本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。
・本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
・漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

・Microsoftとそのロゴ、MS、MS-DOS、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
・Intel、Pentium、SpeedStepは、米国Intel Corporationの商標または登録商標です。
・まいと～く FAX 2001は、㈱インターコムの登録商標です。
・Acrobatは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。
・その他の製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ!
●その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ!

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間 （バッテリーパックを除く）

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このパーソナルコンピューターの補修用性能部品を、製造打ち切り後6年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■海外での使用について

本製品は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠しておりません。海外での使用について、当社では一切責任を負いかねます。
また、当社では本製品に関する海外でのアフターサービスおよび消耗品、別売品の供給は行っておりません。
This product cannot be used in foreign country as designed for Japan only.

- FPANAPC*1アクセスについて、FPANAPCのホームページ
（http://www.nifty.ne.jp/forum/fpanapc/ 2001年3月現在）をご覧ください。
*1 インターネットプロバイダー「@nifty」のユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。
- パナソニックPCのホームページ*2では製品紹介、FAQなど情報掲載やご購入ユーザー様のオンラインメンバー登録を行っております。
*2 [お気に入り]→[パナソニックお勧めのサイト]→[パナソニックPCのホームページ]にリンクされています。

修理を依頼されるとき

「困ったときのQ&A」（→92ページ）や別紙の『お買い上げ後、すぐに「故障かな？」と思われたときは…』に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

修理を依頼されるときは、コンピューターとプライベートキー（すべて）を一緒にご持参ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。
●保証期間を過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料 は、診断・故障個所の修理、および部品の交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品、および補助材料代です。
出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）　0570-087-087

・お客様がおかけになった場所から最寄の修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
・携帯電話・PHS等からは最寄の修理ご相談窓口に直接おかけください。
・最寄りの修理ご相談窓口は、次のページをご覧ください。

商品についてのお問い合わせは

パナソニックパソコンお客様ご相談センター

電　話　フリーダイヤル　0120-873029（パナソニック）
ＦＡＸ　0726-24-7717

365日／受付9時～20時

（パソコン製品の使い方や技術的なご質問も承っております。）

2001年1月1日現在

ナショナル／パナソニック

修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル
（全国共通番号）

0570-087-087

•お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
•携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北 海 道 地 区

札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東 北 地 区

青森	青森市大字ハッ役字矢作1-37	☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市流通センター3丁目12-2	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首 都 圏 地 区

栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎(027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	☎(029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	☎(0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-7725

中 部 地 区

石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近 畿 地 区

滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中 国 地 区

鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(0839)86-4050

四 国 地 区

香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九 州 地 区

福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	☎(0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	☎(0997)53-5101

沖 縄 地 区

沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0101

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った	▶	このような症状の時は故障や事故防止のため、電源を切り、電源プラグとバッテリーパックを抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。

便利メモ おぼえのため記入されると便利です	お買い上げ日	年　月　日	品 番	CF-B5FR
	販売店名	☎(　　)　－	お客様ご相談窓口	☎(　　)　－

松下電器産業株式会社　パナソニックコンピュータカンパニー

〒 101-0032　東京都千代田区岩本町 3 丁目 2 番 4 号　東京建物岩本町ビル

FJ0401-0
DFQM2123ZA

